

至らざるなく、自ら保証して上陸せしめたるもの、數十人に達したりといふ、後ちマーキークツ
 パーと云へる地に、壹萬弗を投じ十年の借地を契約して、七十英町の米田を開き、四千弗の精米
 器械を設置して、一大米作の事業に従事し、將に布味唯一の大農として成功せんとしたり、而も
 好事魔多し、支那人の狡猾なるもの、彼の不在に乘じ、讒誣中傷して、白人地主の心を動かし、
 遂に其借地権を擧げて、支那人に與へしむるに至りぬ、彼れ歸來し事情の一變せるに驚き、之を
 法廷に訴へて漸く、千五百弗の違約損害金を得、明治二十四年該地を去て、桑港に上陸し、ピコ
 スの農園に入りて働く事半年、其れより櫻府に出で來りて、益城屋旅館を開き、後ち之れを他に
 譲りて、サンマールランドに於て、三百英町の地を借り、農事經營の傍ら、一の商店を開業せんと
 し、將さに知人を招き開業の祝宴を催さんとす、此日サクラメント河洪雨の爲に、堤防潰裂し、
 彼れの新商店は洪水の爲めに一掃せられ、折角の祝宴も、あはれ一場の慘事と化し去りぬ、而か
 も、幸にして家族に死傷者を出さず、是に於て再び櫻府に出で、第三街に肥後屋旅館を開業し、
 傍ら湯屋を營業して今日に至れり、櫻府日本人社會、最も年齢の長せるものは彼れなり。
 △津田伊之吉 熊本縣飽託郡河内村字白旗の産にして、明治元年生る、明治二十六年タコマに上
 陸し、其れより加州に入り、サンノゼ附近の農園に労働し、其年十一月チーコに移りて伐木に従
 事し、翌二十七年六月、ビグスの果樹園に入る、當時彼未だ労働に熟せずして、其困窮最も甚し

かりしといふ、已にして白人の家庭に働く事一年、明治二十九年五月ビグスに至り、果樹園の勞
 働を契約して、之れに労働者を供給するに至り、自ら其内に伍して、奮闘を繼續する事七ヶ年、
 遂に五千餘弗の貯蓄を爲すに至る、已にして櫻府に出で、津田商店を開きて現時に至れり、天性
 剛直、櫻府日本人社會の人物と稱せらる。
 △吉田俊造 東京の産にして、明治九年生る、曾て千葉第一高等學校醫學部に入り、明治三十年
 之を卒業し、更に醫科大學第二病院にて外科を研究し、明治三十四年渡米して、此年加州政廳の
 公認を経て醫術開業免狀を受け、オークランド市ワシントン街に開業したるが、後ち桑港に轉じ
 て、更にサクラメント市に來り、現に同市第二街に於て吉田病院を經營せり、常に公共の事に盡
 し、櫻府日本銀行の副頭取に推さる。

△柴 太郎 静岡縣安部郡三保村の産にして、明治三十二年濟生學舎を卒業し、一時麴町區回生堂
 病院に勤務し、更に鎌倉養生院の設立に當り、其任務に従事する事三年、明治三十六年六月渡米
 し、現にサクラメント市に於て、日本病院を經營せり、温厚篤實の資、患者の信頼を有し、資産
 を作る事また少からず。

△竹岡三之吉 鳥取縣西伯郡金子村の産にして、明治二十四年大阪私立中學校を卒業し、後ち濟
 生學舎に入りて其業を卒へ、明治二十八年醫術開業試験に及第し、爾後二ヶ年間郷里に業を開き

たるが、更に東京して大學病院に於て、衛生學及び小兒科の研究を爲し、後大阪市の檢疫官に任命せられたる事ありしが、海外遊學の念禁すべからざるものあり、乃ち明治三十三年渡米して桑港に着し、翌三十四年五月、加州政廳の醫術開業免狀を受け、サクラメント市に來りて、開業する事三年、已にして明治三十七年十月、紐育市ポスト、グラヂエニート、メヂカルスクールに入り、翌年七月業を卒へて、再び櫻府に歸り、幾くもなく、ユタ州オクデン市の開業試験に應じて、該地に開業する事一年、明治四十年二月、更に醫學の蘊奥を究めむとして、歐洲に渡航し、獨逸ライプツヒ醫科大學内科の大家、クリスマン博士及び、ホフマン博士等に就きて、内科の研究を爲し、更にエルランゲン大學の、ペンワールト博士、バウム博士、ワイヒャールド助教の下に、オプソニン反應及び傳染病免疫に就て、研鑽を積み、明治四十一年、ライプツヒ大學の論文を呈出して、ドクトル、オブ、メヂチーネの學位を受け四十一月九月更らに、米國に歸りて開業し、以て現時に至れり、其經歷に富める斯の如きに拘らず、尙は斯道の研鑽に従ひ、日夜怠る所ならず、此地杏林の異材と稱せざるべからず。

△吉永萬穂 山口縣大島郡屋代村の産にして、明治二十六年渡米し、始め桑港に在りて家内の労働に従事し、餘暇を以て語學の研究に怠らず、偶々明治三十一年、米國人の齒科専門醫ドクトルジョージ、クライザーの爲めに備はれて、其見習生となり、已にして齒科技術の趣味を解するや

齒科醫として世に立たんとし、院主クライザー、また彼れの前途に嚮望して、懇切に教授する所あり、是に於て明治三十五年、桑港大學齒科醫學部に入り、餘暇患者の治療に應じて、自ら其學資を作り、忍耐刻苦益雪の功を積むこと三年、遂にドクトル、デンタル、サージョンの學位を得、明治三十八年一旦歸國し、翌年再び渡米してサクラメントに來り、此地に齒科醫院を開業して現時に至れり、會て歸朝するや、郷里に於て陸軍中佐高橋駒彦の女、ツル子を娶り、已に二子を擧ぐ、性温良、よく人に接し、門に至りて治療を乞ふもの少からず、また加州齒科醫の成功者として知らる。

△岩立悟一 山口縣熊毛郡平生村の産にして、明治四年生る、明治二十七年バンクーバーに上陸す、當時日本人労働者の移民會社に賦かれて、此地に上陸するもの多く、而かも労働口の少きを以て、何れも其糊口を凌ぐ事能はず、時已に九月下旬にして、此地の積雪山野を埋め、寒威凛烈として凍飢并び至らむとす、彼れ此際泉某と共に、雪中伐木に従事し、其境遇頗る慘憺を極む已にして窻かに謂へらく、斯くの如くにして過ぎんか、遂に餓死を免れざるべしと、乃ち僅少の旅費を以て砂市に來りたるが、暗夜河堤に上りたるも、茫々たる廣野人家を認むる事能はず、草中に臥して一夜を明したる事あり、翌朝園主に迎へられて其家に至り、労働する事二週間、其れより櫻府に至り、更にバーキンスの伐木に従事す、彼れ新來未熟の労働者として、此激烈なる

労働に當る、艱難困苦殆んど堪ゆべからざるものあり、而かも忍耐してよく四ヶ月間の労働を繼續し、爾後所々の農園に労働す、此間布市に至り、荷荷の摘採に従事し之れを終るや、華村地方に赴かんとす、而かも旅費の空乏せるを以て、同志三人と語りひて、無錢旅行を爲し、ペニシヤの附近、一白人の家に至りて食を求む、時恰も日清戦争の當時なりしを以て、頗る厚遇せらる、一行始めて蘇生の思ひをなし、更らに徒歩してサンノゼ市に至り、其夜停車場の列車中に入り、僅かに一夜の安眠を貪らむとし、無宿の浮浪として、警察に拘留せらる、事一日、事情の分明せるを以て放免せられ、更らに徒歩旅行を繼續す、時に降雨皮膚を冒して、疲憊言ふべからず、已にして、ロースゲタの墜道に達す墜道の中、長さ三哩、危険を冒して其中を徒歩し、幸にして瀧車の來る事なくして、無事に之れを通過し、サンタクローズを経て、華村に達するを得たり、是れ明治二十七年十二月三十一日にして、途中日を費す事十一日、乃ち此地に於て伐木に従事す、其賃金一コートの價一弗にして、一ヶ月間を働さ、僅かに四弗を剩し得たるに過ぎず、更に大根園に働さ漸く數十弗の時蓄を得て、サクラメントに至り、爾後附近の農園に労働し居たるが、當時白人の日本人労働者を使用する事、今日の如く盛ならず、其賃金また頗る廉にして、事業の基礎を作るに足らざるを看取し、乃ち川下地方に入りて、果樹園を經營する事三年、此間貯へたる資本を以て櫻府市街に出で、旅館を開業して、之を岩立旅館と稱す、此旅館開業以來、サクラ

メント平原日本人の發展大に其勢を加へ、營業繁榮して漸次に其規模を擴張し、櫻府日本人旅館中の最も完全なるものと稱せらるゝに至れり、彼れ多年各地に労働して、よく地方の事情に通じ、加ふるに性仁俠、人の爲めに勞を厭はず、用務を辨する事機敏なり、曾て桑港新世界新聞の旅館人氣投票を爲すや、其一等に當選したる事あり、以て其人氣の如何を知るべし、現に櫻府日本人會の評議員にして、佛教會の會計たり。

△原田末松 福岡縣三池郡三川村の産にして、明治二年生る、三十三年渡米し、初め晚香坡に於て鮭漁に従事し、其れよりサクラメントに來り、農園に労働する事四ヶ年、更らにアリゾナ州に入りて、鐵道に労働し再びサクラメントに歸り、益城屋旅館を開業し、以て現時に至れり、其弟を仁太郎と稱し、現に川下に於ける農業界の成功者として知らる、益城屋は、櫻府日本人旅館中また廣く其名を知られたるものにして、其營業また盛なりと稱せらる。

△松井嘉七 山口縣大島郡家室西方村の産にして、明治九年生る、明治二十七年渡米し、直ちにサクラメント地方に入りて、農園及び白人の家庭に労働する事十年、勤勉業に卓れ、貯蓄を爲す事尠からず、明治三十六年サクラメント市アイ街に大島屋旅館を開業し、營業日を遂ふて繁榮せるに依り、更にエム街二百十二番地に移轉して事業を擴張し、盛に營業に従事せり、サクラメント市に於て、經歷の久しき旅館少からず、然れども、其營業の方針、堅實を主とし、漸次に

信用を扶植して、以て今日の基礎を爲すもの、斯の如きは稀なり。

△則近彦一 山口縣山口町の産にして、家代々地方の薬舗たり、曾て山口に於て、兄仁實と共に薬舗を経営し、之に従事する事三年、明治三十五年渡米し、米國の事情に通せんが爲めに諸種の勞働に従事する事四年間、遂に賣藥の有望なるを看取し、乃ち明治三十九年歸朝し、翌四十年、薬舗開業の目的を以て再び渡米し、直ちにサクラメント市に來り、エル街に則近薬店を開業し、以て今日に至れり、此薬店は、東京に於ける、海外輸出日本賣藥株式会社と特約を結び、最近の改良賣藥、殆んど備はらざるなく、日本人社會の信用最も厚しと稱せらる。

△藤田龍吉、宮崎勘次郎 藤田は和歌山縣伊賀郡上名牛村の産にして、明治九年生る、明治三十五年渡米して櫻府に來り、鐵道に働く事八ヶ月、其後一時農園に入りしが、明治三十七年五月再び市街に出で、玉突場を營業する事四ヶ年、更に松和亭といへる料理店を開業して、貯蓄する所少からず、明治四十年父の訃に接して歸國し、居る事九ヶ月にして再び渡米し、菓子屋を營業する事一年、明治四十二年八月宮崎勘次郎と共同して、現時の魚店を開業するに至れり、宮崎は廣島縣佐伯郡砂谷村の産にして、明治六年生る、三十五年五月渡米し、北方砂市よりサクラメントに來り、農園に勞働する事一年餘、明治三十七年、菓子屋を營業し、損失を受けて一時農園に入りたりしが、此際川下地方コートランドに於て、野菜園及乳牛を飼養して數百弗の利益を得、

一ヶ年にして更に二百英町の現金借地を爲し、盛に農業に従事したるも、水害の爲に失敗に歸し、且病に罹り二時困難に遭遇したるが、病癒るや魚類の受賣を爲して、始めて魚商の有利なるを知れり、已にして渡邊某の魚店を賣却せんとするあり、乃ち山根某と共に之を買受け、營利數千弗を得たり、已にして山根と分離し、以て現時のみかど魚店を經營するに至れり、みかど魚店は資本金貳千弗とし、平均一日の賣上七拾弗乃至百五拾弗あり、廣く太平洋沿岸の市場と取引し、之を市内に賣捌き、其營業の方針最も堅實なりと稱す。

△藤井米吉 山口縣玖珂郡柳井津新市町の産にして、明治十五年生る、明治三十四年布哇に渡航して勞働する事一年、後ち桑港に轉航してサクラメントに入り、川下地方ブラザホードに於て農園に勞働する事八ヶ月、後ち百英町の土地を借りアスバラガスの耕作を爲す事五年、漸く資本を貯ふるを得、曾て本國に在るや自轉車の扱に趣味を有し、モーター自轉車の研究を爲さんとするの志ありしが、是に於て農園の事業を抛棄し、自轉車の經驗を得んが爲に、櫻府白人の自轉車店レーサイクルと入へる内に入りて、店務に従事する事二年、更らに自轉車の開業地を視察せんが爲に、各地を旅行してサクラメントに歸り、同縣人柿並岩吉と共同して、明治四十一年六月、エル街に於て自轉車店を開業するに至れり。

△柿並岩吉 山口縣熊毛郡佐賀村字尾國に籍を有し、明治十一年生る、明治三十五年夫妻共に布

哇に渡航し居る事三ヶ月、其より米本土に上陸してサクラメントに來り、實兄岩立悟一の事業を助けて農園に勞働し、資産を作るに至りて市街に出で、明治四十一年六月、藤井米吉と共同してエル街に山陽自轉車店を開業し、以て今日に至れり、山陽自轉車店は、北加州日本人同業者中最も營業の盛なるものにして、其資本額を五千弗とし、原品は之を桑港及びシカゴより輸入し、サクラメントを中心として廣く販路を有し、一ヶ年の賣上高凡そ壹萬弗以上なり、現時櫻府市内、レーサイクルの白人自轉車店を除くの外、營業最も盛なりと稱せらる。

△小田佐十郎 山口縣玖珂郡本郷村の産にして、明治十一年生る、三十一年四月布哇に渡航し農園に勞働する事六ヶ月、已にしてホノル、に出で白人旅館に勞働する事一年半、更に白人の洋食店にコックたる事八ヶ月、後ち布哇を去りて砂市に上陸し、砂市桑港間を航海する汽船のコックたりしが、二年にして之を辭し其れよりネバタ州に入りしが、二年の後ち再び桑港に歸り、ゲリ一街パンフキク洋食店のコックとなり、一週間拾八弗の給料を受け、更にクリツフハウス、シーオラックハウスのコックとなり、月給九拾弗を受く、其後フレヌノ市に至り、居る事一年にしてバイセリヤに至り、パリスホテルのコックたる事三ヶ月、また布市に歸り、日本人洋食店のコックたる事半年、明治四十一年十二月サクラメントに歸り、ユ一エヌ洋食店のコックとなり、四十二年三月店主品川右一の死去するや、品川の弟堀江潔と共同して、一時之を經營したりしが、同

年九月堀江と分離して爾後單獨を以て之を經營し、以て現時に至れり、此洋食店一ヶ月の借家料四拾貳弗にして、一ヶ年の總收入貳萬五千弗以上にして、一日の上り高平均六拾五弗以上なりとす、此地日本人洋食店の盛なるものに屬す。

△藤井正記 熊本縣下益城郡守富村の産にして、明治十二年八月生る、幼にして西京の人田中淺次郎に就て、洋服裁縫の業を學び、後ち熊本市大倉組の洋服裁縫部に勤む、明治三十六年五月渡米し、其十一月サクラメントに來りて藤井洋服裁縫所を開き、現時第三街に移りて其規模を擴張し盛に洋服の裁縫に従事すサクラメントに於て同業者少ならず、然れども其開業の最も久しくして、廣く其名を知らるゝもの、之を藤井洋服店と爲す。

△宮川常三郎 品性と智識を有し、而かも奮闘の勇氣を持するもの、之を現代の理想的人物と爲す、宮川常三郎は、乃ち此理想に近き人物と云はざるべからず、彼は岡山縣夏庭郡河内村の産にして、明治九年生る、曾て岡山、山口、宮崎の三縣にて中學校の教諭を奉職し、明治三十七年渡米し、サクラメントに來りて、賣藥業及び活版業を營み、後ちフロリンに土地四十英町を買ひ、苜及び葡萄を栽培し、永往的計畫を定めて完全なる家庭を作り、健全なる基督教信徒として、圓滿高尚なる理想を有す、其家庭内に夜學校を設け、家族及び傭人に英語及び音楽を教へ、其氣風一村を感化するに足るものあり、而かも天性數理に長じ、談論爽快また一個の雄辯家たるの資格

あり、此人にして、奮闘的労働の趣味を解す、また多く得がたきの人格と云はざるを得ず、現にフロリン村日本人會の會長たり。

△沖健二 廣島縣廣島市の産にして、明治八年生る、二十九年渡米し、翌年パーキンスに入りて松本勘松の配下に労働し、明治三十二年、ホイートランド牧馬會社のハップス園二百英町を契約し三十四年東歸恵吉と共同して同地ダスト農園のハップス摘採を爲し、三十五年サンタルザのハップス園八十五英町、プレゼントの砂糖大根園一千英町を契約し、此年再びパーキンスに歸り會て労働せるメンケ農園及びホイートランド牧馬會社の農園を他と共同にて經營したるが、三十八年共同者山本の歸朝するや、爾後單獨の經營として現時に至れり、此農園は果樹百英町ハップス百二十英町ありて、借地料一萬弗なりといへり、ハップスの耕作に付て専門的の智識を有するもの彼に及ぶものあらず、其事業の大なるを以て、地方の同胞社會、呼でハップス王といへり、性重厚、頗る徳望あり、弟常太郎はローダイの附近クレメントに於て一大果樹園を經營し、現に農業界の成功者として知らる。

△辻道勝太郎 和歌山縣日高郡切目村の産にして、明治十一年生る、三十三年渡米し、初めバンクーバーに上陸して鮭漁に従事し、夫れより砂市に至りて伐木に従事し、後ち加州の各地に労働したるが、明治三十六年サクラメント郡ホルソムに於けるデベロブメントコンパニーに傭はれて

日本人労働者の監督となり、貯蓄少からず、明治四十年七月借地料貳千百弗にて土地三百英町を借り、果樹、葡萄、ヘーを作り、年々の収入少からず、ホルソムに於ける成功者と稱せらる。

第六節 川下地方日本人發展地の調査

サクラメント大鐵橋の下流に添ひて、スースン灣に至る間、一大沃野あり、サクラメント河、サンオーキン河、モークルン河、ドライクリク河の交叉分流せる地方、之れを總稱して川下地方といふ、其範圍サクラメント郡、ヨーロー郡、サンオーキン郡、ソラノ郡、コントラコスタ郡に亘り、其廣袤無慮十萬英町、川流縱横に通じ、所々に島岐を爲す、恰も埃及のナイル河口に於ける、デルタの如く、時々河水の横溢を免れざれども、土地最も肥沃にして、馬鈴薯、野菜、果物を栽培するに適す、明治二十三年の頃、東京の人石阪公歴、渡邊勘十郎等數十人の労働者を率ひて此地に入る、是れ此地方に於ける日本人農業者の率先にして、翌二十四年愛知縣人鶴見藤四郎格蘭ド島に於て五百三十英町の地を借りて、豆類を耕作し、次で熊本縣人村田某、廣島縣人増井清太郎、愛知縣人伊藤初太郎等相次で此地方の農業に従事し、漸次日本人發展の氣運を作るに至れり、現時加州の馬鈴薯王として知られたる牛島謙爾、また一介の労働者として、明治二十四年の頃コートランドの地に入り、馬鈴薯の耕作に従事し、其後此地方の地を借りて、大に馬鈴薯

の耕作を爲すに至り、其事業の盛大なる頗る地方同胞の發展を助長したり、斯くて明治三十七年此地方に於ける日本人の作地は一萬七千八百五十三英町、小作人數三百五十六人、勞働者の數一千七百人に達し、翌三十八年には作地二萬四百八英町、小作人の數五百五十八人、勞働者の數二千百人に増加し、三十九年に至りては、作地三萬八百六十一英町、小作人數七百二十一人に達したりといふ、今此地方に於ける日本人發展地に付て記すれば左の如し。

「クラクスバーク」 サクラメントの西南十二哩、サクラメント河の左岸に位置し、リスボンデストリクトの半部、メリス島の半部、デストリクト七百四十四番の三分の二を包含せる地方を稱し其面積六七方哩の間にあり、桑港櫻府間航路の便を有し、未だ鐵道及び完全なる道路を有せず、此地方の耕作地は、少數なる大地主の所有に係るものにして、獨逸人、日本人、葡萄牙人、伊太利人等の小作農家多し、主として野菜を産し、玉葱、赤茄子、南瓜、胡瓜等の早出地と稱せらる、馬鈴薯、アルハルハを作るものまた少からず、果物は梨子、櫻、桃を植ゆれども寧ろ少數に過ぎず、近時所々に牛乳業を營むものあり、日本人の始めて此地に入りたるは今より十五年前にして現時は四十五六軒の農家在住し、百五十人餘の常住者あり、始め此地方は、殆んど二年毎に河水の氾濫を被り、安全なる農業的經營を爲す事能はざりしが、近時地方の白人地主共同して、河底の浚渫、堤防の増築等に、多額の費用を投じ、現時使用する所の河底浚渫機械は、其價九萬弗を

支出せるものにして、其効果著しく爲めに大に水害を減ずるに至りたり、此邊の借地料は普通一英町拾五弗にして、土地買價は二英町、百五拾弗乃至貳百弗の間にあり、日本人の之を買收し得ざるにあらざるも、從來土地所有者の治水費に投じたる費用、巨額の負債となりて、普通の賣買價にては之を賣却するを欲せず、之れ日本人の土地所有者を見ざる所以なり、現時農業者四十四名にして、内現金借地者十四名、此借地面積千八百七十七英町、收穫分配耕作者十七名、此作地面積千二百三十七英町あり、他に利益分配の約束を以て牛乳業を營むもの四名、養牛百七十頭あり、また現金借地者にして牛乳業を爲すもの一名、此養牛七十頭あり、富永虎彦の借地六百英町は、其規模の最も大なるものとす。

「フリーポート」 サクラメント市の南八哩、サクラメント河の右岸に汽船の繫留所あり、ヨーロッパ及びサクラメント郡に亘り、方凡そ十二方哩の地域を云ふ、今より八年前白人グライドの農園に日本人の入りたるを初と爲し、明治四十年の頃より、遂に日本人農家の在住するものを増加し、現時在住日本人の數三十名、内現金借地者一名、此借地面積百英町、收穫分配作者二十五名、此借地面積千七百二十七英町（明治四十二年末調）あり、農産の種類其他クラクスバークに同じ。

「ゴートランド」 櫻府を距る事二十一哩クラクスバークより九哩を下りたる所にして、河の右岸

に汽船の繋留所あり、其所より數丁にして日清人混合の小市街を爲す、河を距て、サター島及び
 メーリット島あり、日本人居住者は、平日數十人に過ぎざれども、日曜日の如きは労働者の集る
 もの多く、營業者としては、食料品及雜貨店三、旅館四、洋食店二、玉場二、湯屋一、理髮店一、
 洗濯業兼豆腐屋一あり、現金借地者二十人、作地面積千七百七十七英町、歩合耕作者七十人、作地
 面積三千九百二英町あり、此地は川下地方に於て日本人農業の最も盛なる地と稱せらる、主産物
 は果物、豆、馬鈴薯、野菜及びアスパラガスにして、日本人の初めて此地に入りたるは、今より
 十七八年前の事に屬し、明治三十八年支那人街の焼失せし頃より、急に日本人の數を増加し、農
 園にては熊本縣人山本半次郎、明治二十六年メーリット島に四百英町の地を借りて、農業に従事
 したるを始めと爲し、松本高龜、古城某、阪田龜喜等續々として農園の經營を爲すに至れり、サ
 ター島は二千五百英町の地面を有し、地味肥沃にして、堤防の堅固なる事、川下地方の第一と稱
 せらる、日本人の耕作地は二千英町なり、メーリット島もまた土地膏腴にして、堤防堅固、日本
 人農家の曾て水害を蒙りたる事なく、彼の明治三十九年の水害に於て、川下地方四十餘島の内、
 水害を蒙らざるもの僅かに五島に過ぎざりしが、メーリット島もまた其一なりしといふ、明治四
 十一年八月、日本人會を組織し、會長に谷口清太郎、副會長に稻野龍藏、會計に清地岩藏を推
 舉し、他に十八名の評議員を選定し、現時會員九十名を有す。

「ゾーデン」コートランド及びウオーナツグロブの間あり、果物、アスパラガス、豆、馬
 鈴薯、玉葱、セロリ、ヘー等を産し、日本人の現金借地者二人、借地面積二百五英町、歩合耕作
 者三十五人、作地二千四百〇一英町あり。

「オナツグロブ」コートランドの川下にありて、桑港より七十哩、櫻府より三十哩を距つ、
 日本人及び支那人の雜居せる市街地ありて、日本人の居住者二百名内外あり、此附近の農園にあ
 る日本人は、總て三千人内外なるべし、商店四、旅館六、料理店二、玉場三あり、附近に於ける
 現金借地農業者十人、借地面積千三百二十三英町、歩合耕作者五十七人、作地三千五百九十三英
 町あり、此地方は始め日本人労働者の地獄谷と名けたる所にして、グランド島の如きは一般に蒲
 を生じ、沼澤多き濕地にして、労働者の此地に入り、土地の瘴氣に觸れ、激烈なる一種の熱病に
 罹りて、死する者少からざりしが、其後排水行はれ、年々著しき速度を以て發達せしに依り、
 今や一般農業地と異なる事なし、元來川下地方は、一般に蒲生の地なりしを以て、日本人農業者の
 此地方を借りて、開拓に従事するや、毎年四月に至らざる前、霜に枯れたる蒲を燒きて、後ち之
 れを鋤き起し、最初に馬鈴薯を作るを例とす、蒲は頗る燃焼性に富み、夏期土地の乾燥せる時
 に於て、之を燒く時は、滿地皆火に化し、河邊の堤防を切開くにあらずんば鎮火に至らず、是れ
 最も危険なるものとす、故に川下地方の農家は、土塊を焚きて日用の薪材に代ふ所多し、また一

奇と云はざるべからず、ウオーナツグロップ日本人會は、現時三十名の會員を有し、會長に圓谷龍衛、副會長に立田二一を撰定せり。

此市街地は元來支那人街にして、後ち日本人其間に居住するに至りたるを以て、其市街雜難見るに堪へず、家屋は堅牢なる敷地の上に立てたるに非ずして、濕氣の浸漸を避くるが爲に、材木を架し、通路を其上に開き、商店、飲食店、玉塲、理髮店、等相錯雜し、其不潔なる事言語に絶したり、是れ白人の居住者なく、全く東洋民族の狀態を露出するに依れり。

「ライデー」ウオーナツグロップの川下にありて川の北岸に汽船の繋留所あり、歩合耕作者五十六人、作地面積三千九十九英町、アスバラガス、豆、果物、及び牧草を産す。

「アイルトン」ウオーナツグロップの西南九哩の所にあり、川の南岸に汽船の繋留所あり、日本人支那人雜居の小事街地ありて、戸數及び人口、ウオーナツグロップよりも、遙に少數なり、同胞のアスバラガス園多く、全作地の三分の一に當れり、其地には馬鈴薯、玉葱、豆、瓜等を耕作し果樹園の經營者も少からず、對岸ライアー島、グランド島の一部を包含し、現金借地者十名、借地面積七百二十三英町、歩合耕作者四十二人、作地三千九百七十七英町あり、明治二十五年の頃廣島縣人益井清治郎、山口縣人松原伊三郎等勞働者として、始めて此地に入り、漸次に日本人の農業者を増加するに至れり、此附近の農園は時々河水氾濫して、作物を害する事少からず、然れ

ども土地豊饒なるを以て、一年豐作あれば後に他の二年の不作を補ひ得るといへり、近年ダイベスタといへる地に、一大疎水事業を起さんとの計畫あり、此計畫にして實行されんか、此邊の地また水害なきに至らむ、市街營業者としては、食料品及雜貨店二、藥店一、旅館四、料理店二、洋食店一、玉塲三、湯屋一あり、明治四十二年三月アイルトン日本人會を組織し、會員五十八名あり、森本政吉會長たり。

「ライアー島」グランド島の西に横はる島地にして、現金借地者七人、借地九百十三英町、歩合耕作者四人、作地四百十五英町あり、豆、牧草、果物を産し、阪田辰喜外一名の現金借地四百二十五英町は、其中の大なるものなり。

「ブラダンオード島」グランド島の南にありて、現金借地者一人、借地二百十英町、歩合耕作者五人、作地百六十五英町あり、玉葱及び豆を作るもの多し、高知縣人榮枝幸龜の現金借地二百十英町を大なるものとす。

「ローアシャーマン島」サンオーキン河と、サクラメント河の間にある一島にして、現金借地者六人、借地面積千五百二十一英町、歩合耕作者二人、作地三百三十英町あり、馬鈴薯、豆、アスバラガス、牧草、野菜等を産す、牛島謙爾の現金借地五百英町、愛知縣人山田鎌次郎の現金借地五百英町を其大なるものとす。

「フランクス島」 サンオーキン河の南にある一島にして、現金借地者四人、借地千八百五十八英町、歩合耕作者四十八人、作地五百六十五英町あり、馬鈴薯、玉葱、豆、人参、及玉葱種子園を經營するものあり、牛島謹爾の現金借地五百英町、愛知縣人伊藤倉吉の現金借地五百英町を大なるものとす。

「ミッドルリバー」 サンオーキン河の邊にあり、現金借地者六人、借地千英町あり、廣島縣人大内喜平の現金借地二百英町、山口縣人堀田幸市の現金二百英町を其中の大なるものとす、馬鈴薯アスパラガス、玉葱、豆等を産す。

「ウイクトリヤ島」 スタクトン市の西に當り、現金借地者五人、借地面積二千二百英町あり、熊本縣人松本萬龜の現金借地一千英町は、其最も大なるものに屬す、主として馬鈴薯を耕作せり。

附II アスパラガスの事

一名松葉うどと稱するものにして、初め亞非利加の海岸地に生じたるものなり、暑熱及び鹽分に堪ゆるの性質を有す、近時米國に於て北加州は其主たる産地たり、之を植ゆるには、十月頃其實を袋に入れ、水を打ちて積置き、其外皮を腐敗せしめて種子を取り、よく洗ひて干し、翌年四月より六月の間に播種し、其年十一月頃掘取り一株宛に分けて植付け、翌年春を切取りて市場に出す、生のものは、洗ひて箱に揃え、直ちに市場に出すと雖ども、罐詰とするものは、

湯に浸け、冷水にて洗ひ、十二種類に分ちて罐に入るゝものとす、酸味噌、または、蒸醬油にて食するを普通と爲す。

第七節 八郡日本人發展地の調査

ビユーツ、コルサ、エルドラド、ブラサー、テハマ、コーロー、ユバー、ソラノの八ヶ郡は、サクラメント郡の東部、シーラネバダ山麓地方より、北はチーコー、レッドブラツフに亘り、西はスースン、パレオ等に至る間を包含せしめ、便宜の爲め、之をサクラメント郡及び川下地方の記事より分離し、特に節を設けて、之を記載せんば、サクラメント平原中、此外にエルドラド、グレン、ネバダ、シヤスタ、サターの四郡ありと雖も、日本人の發展地に非ざるを以て之を略す。

(一) ブラサ郡

ブラサ郡は細長形を爲して、南はサクラメント、エルドラドの二郡、北はサター、ユバー、ネバダの三郡に界し、郡の東部は山嶽重疊し、西半部は概ね平野を爲す、東西の長さ百哩にして、南北の幅十哩乃至三十哩あり、面積千三百九十方哩の内、八百方哩は山地にして、多く耕作に適せ

す、山嶽地方中、梨、梅、杏、林檎、ブルー、櫻、無花果等の果實を産す、牛乳業、野菜業、養鶏業また盛なり、州の東端ネバダ州に接する所、世界に有名なるレーキヤホーと云へる山上の大湖水あり、山水明媚、風景絶佳なり、毎年五月より十月に至るの間、消夏の爲に遊ぶ者萬を以て數ふ、ヨセミテの奇勝と共に加州の絶景と稱せらる、郡中ニユキヤツスル、オープン、ルーミス、ペンリン等日本人の居住地たり。

「ルーミス」櫻府を距る事東二十八哩、山間の小驛にして、丘陵起伏し、至る所果樹園ならざるなし、其經營最も集約にして、殆んど大陸的園地面影を有せず、従て此地方の果樹栽培業は、最も日本人の事業に適するが如し、梅、桃、葡萄其他の果樹を産し、此地方の果物はマウンテンフルーツの特名を有し、果實小なれども、色澤佳美にして味また美なりと稱す、土地廉にして高地一英町貳拾五弗を以て購買する事を得、高價のもの百弗を上らず、借地料一英町貳拾五弗内外とす、日本人の定住者約百名にして、之れを川下地方に比すれば、其規模頗る小なれども、其數意外に多し、營業者として五十嵐旅館及び五十嵐商店あり、土地所有者十七人、面積二百四十英町、現金借地者四十二人、借地千四百三十五英町、歩合耕作者三人、作地百二十英町あり。

土地所有者

- 加藤英重 (北海道)
- 角田全一 (愛媛縣)
- 窪 三 (同)
- 窪田菊太郎 (熊本縣)
- 穂波鶴平 (同)
- 大町政雄 (石川縣)
- 濱 稔吉 (愛媛縣)
- 菅澤駒太郎 (新潟縣)
- 吉村直吉 (和歌山縣)
- 高橋爲次郎 (同)
- 佐々木周吉 (廣島縣)
- 松波管一 (同)
- 二〇英町 (果物)
- 一五英町 (同)
- 八〇英町 (果物)
- 外五名
- 八〇英町 (同)
- 一〇英町 (同)
- 一〇英町 (同)

「ペンリン」ルーミスの東三哩、オープンより六哩、ニューキヤツスルより三哩を距つ、ルーミスと同じく日本人の果樹園經營に従事するもの多し、桃、ブルー、梨、梅等を産す、日本人の定住者二百八十人、一年の内多き時は一千人の労働者あり、土地所有者一名、面積二十英町、現金借地者三十八組、借地面積千六百九十九英町、歩合耕作者十四組、面積五百二十五英町あり、此地方の地價は、空地一英町五拾弗内外にして、水代は十英町に付て一ヶ年一吋四拾五弗とす、借地料は大抵一英町貳拾五弗内外なり、營業者としては商店二、旅館一、理髮店一、玉突場一、料理店二、湯屋一あり、其重なるものは山中商店、樋井藤本商店、朝日旅館等とす。

土地所有者

山岡市之助(廣島縣) 二〇英町(果物園)

日本人の始めて此地に入りたるは、明治二十六年の頃廣島縣人中西某、伐木の爲に此地に來りたるを始めと爲す、明治二十九年の頃附近日本人労働者の漸く増加するや、和歌山縣人西岡某一の商店を開く、此商店後に廢業せるもの、之れペンリンに於ける日本人街最初の營業者と爲す、明治三十七八年の頃より遂に發達して、今日の現狀を爲すに至れり。

『ニューキャッスル』ペンリンの東六哩、オープンンの西五哩の所にあり、また多くの果樹園あり日本人の定住者百四十人、労働者の多き時は八九百人あり、土地所有者一名、所有面積八十英町、現金借地農家二十四組、借地面積千〇十九英町、歩合耕作者七名、作地五百七十七英町あり、營業者として旅館一あり、今より十八年前始めて日本人の此地に入るものあり、後ち六年にして廣島縣人、惠古勝平等此地に入る、果樹園の借地料一英町貳百弗内外、水代は一ヶ年一吋の量四拾五弗にして、十英町に一吋の水を要す、荒地一英町の賣買價貳拾五弗以上五六拾弗迄とす、桃、プラム、梨、櫻、莓等を主なる産物とす、また近來日本種の柿を産す。

土地所有者

中野熊太郎 (和歌山縣) 八〇英町 (空地)

『オープン』此地方の都邑にして、ニューキャッスルの東に隣接す、日本人の土地所有者一名、所有面積四十英町、現金借地者三組、借地二百八十三英町あり。

土地所有者

高重 謹 (廣島縣) 四〇英町 (果樹園)

『オフイヤ』オープンの西に接近し、多く果物を産す、日本人の現金借地者五組、借地面積二百七十英町あり。

『リンコロン』陶器及び下水管を製造する都會地あり、人口一千百、桑港を距る事百十八哩、海抜百六十七呎の所に位置す、日本人の農業を爲すもの八戸、土地所有者一人、所有面積百〇五英町、現金借地者七人、借地面積五百十二英町あり、作物は葡萄、果物、莓等にして、土地所有者としては、山口縣人岡町金藏の所有地百〇五英町あり、果樹及葎園を経營す、郡内の日本人其數少からず、明治四十三年、サクラメント平原日本人會と分離し、別にブラサ郡日本人會を設立し、山口縣人河本好太郎會長たり。

附 山中の絶景レーキターホーの記

レーキターホーは、ブラサ郡の東、ネバダ州の界に介在し、日本人發展地と何等の關係なしと雖も、加州に於ける有名の勝地なれば、今其概略を記して、甚だに米國山河の雄大なるかを知らしめんとす、大陸横断記の著者フーバー氏は、此湖水に就て記して曰く「吾人はターホー市より眺望を恣にするとき、湖水を圍繞する山水の、壯絶美絶なるに驚かすんばあらず、其

山峯、其巖谷、其遠き森、草野、日光、雲、皆恍惚なる感興を惹かざるはなし、是れ世界に於ける形容しがたき美景の一にして、湖の水面は、時に静かに、時に噪がしけれども、大抵は優しき光景を翳ひて、吾等の眼を喜ばしめ、特に其夏の日没には、絶大の美観、榮えある彩色、神工の美を極め、其水面は、コモ、マーシヨルの湖水に比して、更に壯大麗美の觀に富めるを見る、いかなる畫工も、夏の日没に於けるターホー湖の水の、變幻極りなき色彩を、开が紙上に描き得るものは非ざるべし、否假令之ありとするも、誰れか其真景たるを保證せんや、是れ秦鏡の如き水面に、強く反射せる色彩の變化より來れるものにして、多くの文人墨客が、言辭の有らむ限りを盡すども、此造化の絶技は、彼等の筆端に捕捉さるべきに非ず」と。

レーキタホーとは、大なる水を意味する印度人の言語より名けたるものにして、南太平洋鐵道オグデン線路中のツラツキーより十二哩の南にあり、山中の湖水として、世界第一と稱せられ、シルラ山脈の半腹、海拔六千二百二十六呎の所にあり、湖邊には岩石より成れる山岳、自然の墻壁を爲して、高峯所々に突起し、湖面を抜く事、二千呎より四千呎に達するものあり、ルビコンビーク(海拔九千二百八十七呎) マウントタラック(海拔九千七百十五呎) マウントラルストン(海拔九千四百四十呎) ビラミッドビーク(海拔一萬〇五十二呎) ジョブスピーク(海拔一萬〇六百三十七呎) ベチバビーク(海拔九千三百三十五呎) の如き、其中の大なるものとす、湖

水の長さ二十三哩、幅十四哩にして、水の深さ百呎より二千呎に達する所あり、シルラ山嶺の雪水、溶けて高く中空に撃げられたれば、崖界の汚物之に流入するものなく、其清冽純潔、世界無比にして、水面八十呎の所までは、水色透明にして、鮮かに魚族の游泳するを視る事を得べし、湖中には、遊覽者のために、レーキターホー鐵道會社より、一の汽船を浮べ、湖邊の勝地を巡覽するの便を得せしむ、一巡の航程七十哩あり、タホー市は、湖の全景を眺望するに好箇の位置を有し、其西に湖水の流出口あり、其他マツキンニースの遊戯場、カスカツドの瀑布、エメラルド灣の水光奇巖、カスカツド湖、クラウドフォールズの飛瀑、タラツクの深林、グリツフィン、コーチリヤン灣、ベンホルドデーの舊居、キャピテンデックの幽棲等、皆遊覽者の杖を曳くべき名勝古跡たり、タラツクビークの頂上よりは、シーラチパタの雪峯を眺むる事を得べく、ヨセミテの原頭、世界の巨人と綽名さる、巨巖の背部を見、脚下にアメリカン河の清流を臨み、北方百哩の彼方、雲に交がふシヤスタの雪峯を望む事を得べし、此山頂に達するには、タラツクハウスより、馬背三時間の行程に過ぎずといへり、傳へて言ふ、此大湖水は、彼女の水底に來りたる死者をして、再び水面に浮ばしめたる事なしと、以て尋常の湖水にあらざるを知るべし。

(二) ユバー郡

ユバー郡は南はネバダ郡及びブラサ郡、サター郡の一部に接し、北はビュート郡に界し、東はシ
ルラ郡に西は河を隔て、サター郡と相界す、面積六百二十五方哩、人口千三百五十を有す、此地
方日本人發展地の中心は、メリスビル及びユバーシチーなりとす、郡内普通の借地料一英町拾弗
土地の賣買價牧草作地一英町八拾弗乃至百弗の間なり。

メリスビル 北加州の一都會にして、ユバー郡サター郡の產物常に輻輳し、フェザー河航路の
頭部に位置し、ユバーシチーの右にあり、人口六千五百を有し、州中の繁榮地として知らる、附
近の地桃、ブルーム、梨其他の果物を産し、また牧草及び野菜を産す、繁華なる商業區、美なる
邸宅、廣大なる公園あり、小學校、專門學校、及び八箇の寺院、製粉場、毛織製造所、果物罐詰
會社、鑄鐵所等あり、市街には瓦斯及び電氣を使用し、水利最も便なり、現時サクラメント以北
最も大なる都市と稱せられ、ユバー、サター、ビュート、コルサ、シルラ、ブラサー、ネバダ郡に
亘りて、繁華の中心と云はざるを得ず、殊に自然の交通機關を備へ、桑港及びサクラメントより
の、貨物及び船客は、蒸汽船及び端艇にて運輸するもの多し、陸上の交通も鐵道の交叉地點たる
を以て、四方の貨物を吸収す、此地方は降霜少く、空氣乾燥し氣候他に比して中和なり、是より

先き横濱の人石川某なるもの、醜業を營みたる事あるも其年月明確ならず、明治二十二年鹿兒島
縣人飛鳥某、ユバシチーの附近アボットの果樹園に、日本人労働者を供給し、翌二十三年和歌山
縣人玉置於兔四郎之れに代りて、人夫の供給を爲す、當時已に日本人労働者七ヶ所に入り居たり
しと云ふ、明治三十五年山口縣人今井某旅館を始め、熊本縣人内田巳之助洋食店を開き、爾後營
業者の數漸次増加し、現時市内日本人の營業者醫師二、齒科醫一、旅館四、商店三、洋食店二、
料理店三、玉場四、理髮店三、洗濯業三、養豚業一あり、市内日本人定住者百五十人、果物摘採
時期には千人内外の労働者來集す、玉置旅館、中國旅館、中村旅館、等商店を兼ねて業務盛大な
り、メリスビル日本人會は明治四十一年の創立にして、會員九十六名、評議員十二名あり、役員
には幹事に田中健次(東京人)會計監査役に玉置於兔四郎、中村文太郎、森田源次郎、會計に津
田勇之助、副幹事に中村利勝あり、桑港新聞支社を此地に置き、兒玉市隱を其主任と爲す。
『ホイートランド』メリスビルの南エスビーの線路に添へる小都會にして、多くのハップスを産
す、日本人の農家及び市内の營業者あらず、ハップス園の労働者の定住するもの四五十人内外あ
り、ハップス收穫期には千人内外の日本人労働者あり。

(三) サター郡

サター郡は西コルサ及びヨーローの二郡に接し、東はユバー及びブラサー郡に界し、狭長の一小郡にして、面積六百一十一方哩、人口九千あり、日本人の此地方にあるもの、メリスビルに近きユバーシチーの附近に、果樹園及び野菜の耕作を爲すものあり。

「ユバーシチー」メリスビルと河を隔て、相對し、人口千二百、郡内の主邑たり、日本人の此附近にあるもの現金借地者十二人、借地面積七百七十六英町あり、其他にはメリデヤンと云へる地方にて、收穫分配作三、作地面積四百六十五英町あり。

(四) ビュート郡

ビュート郡は南はユバー、東はブルマス郡に、北はテハマに、西はコルサ、グレエン及びテハマ郡の一部に接し、面積千七百六十五方哩、人口三萬一千あり、林檎及び蜜柑を産す、オロビル、ビグス、チーコー等皆早くより日本人の居住するものあり。

「オロビル」フェザー河畔に位置し、メリスビルの北二十八哩の所にあり、エスビー鐵道線路オロビル支線の終點にして、メリスビル及びチーコー間に通せる、ノーザン、エレクトリック、コンパニーの電鐵線路に添へり、美なる小都會地にして、到る所山水秀美風景最も佳なり、四時花多く、寺院、學校の壯麗なるものあり、水力電氣を利用して、家具製造、製粉業の起れるあり、冬

期は戸外に薄氷を見れども、降雪は極めて稀にして、雨量は平均二十二吋なり、氣候と土壤は、蜜柑の栽培に適し、橄欖、檸檬、無花果、及び他の温帶地産物に適し、橄欖は其産額最も多く、此地方の富源たり、全米國中最も規模の大なる水力電氣會社は、市の近傍八哩の所にあり、日本人の始めて此地方に入りたるは、今より四五年前、ウエスタン、パンフイック鐵道に人夫の供給を爲したるより、漸次其數を増加し、現時五十人内外の定住者あり、伐木労働の如き、オリブ摘の如き、蜜柑摘採の如き、皆冬期の労働に屬するを以て、夏期よりも冬期に於て、地方の労働口多く、市街また此期節を以て繁昌す、附近に砂金採掘の事業盛なるを以て、之に屬する労働者二千五百人に達せり、日本人にして鑛業に労働するもの、また二十人内外あり、市内營業者としては、旅館二、洗濯業一、玉場二、理髮店一、洋食店二あり、農業者としては、熊本縣人徳野聞多の現金借地五百三十英町あり、主として野菜及び果物を栽培す。

「チーコー」メリスビルの北三十七哩にして、ビュート郡の主都なり、サクラメント河畔に位置し、郡内農産物の中心點たり、多種の果物を産す、沿岸は山間の溪流風景に富み、水質極めて清冽なり、河流を利用して、大なる製粉場の設けらるゝものあり、ダイヤモンド、マツチ製造會社は、米國中最大のものにして、チーコーの發達を促す事少からず、またノーザン、ウエスタン鐵道會社の器械製造所あり、河流はサクラメントに通じて、舟楫の便を有し、河蒸汽船にて此地方

の穀類を輸送するもの巨額に達す。此地方の産業は主として農産物なれども、また、鑛業盛にして、砂金の採掘額頗る多く、材木産出の事業また盛なり、市内には警察、消防局、瓦斯會社、水力電氣會社等あり、二個の銀行、七個の寺院、州立師範學校、小學校、專門學校あり、日本人の此地に入りたるは、今より三年前福岡縣人寺田武吉洗濯業を開始し、爾後同胞營業者の數を増加し、現時の定住者七十人内外にして、商店二、旅館二、洗濯業一、鳥屋一、靴工一、洋食店四、理髮店一あり、近來砂糖製造所起り、ハミルトン、シユガー、フアクトリーは、六千英町の甘菜園を所有し、干滾一郎其契約を爲して耕作し、配下に二百人の勞働者を使用す、内日本人の勞働者八名あり。

「ビグス」チーコー及びメリスビルの中間、エスビー鐵道線路に添ひ、日本人の現金借地農家一戸、借地面積百五十英町あり。

附一 米作の事

ビグス附近に於て特記すべきものを米作の事なりと爲す、ビグス及びネルソンの間、セルスビーといへる地あり、此所に六千英町の地を撰擇し、永井正登、田中健次、安岡農學士等、白人の地主と契約し、收穫の内三分を納め、七分を作主の收得とし、明治四十三年度に於て七十英町を試作し、結果の良好なるに於ては、五百英町を耕作するの計畫なり。

是より先き加州政廳は、チーコーに壹萬五千弗の試作費を投じ、陸稻を試植して其結果失敗に歸し、現時は其地に日本産の竹及びびうどの試作を爲せども、米作は此地に適せざるものと認め、更に、ビュート郡ビグスに於て、白人グラントの所有地を撰び、二十英町の地に二百六十五種の米を試作せんとし、日本人津田喜久平を主任と爲し、比律賓人を使用せしめたりしが、此試作もまた失敗に歸し、更に加州大學出身の農學士二名を主任として、之に當らしめたるに、灌漑の注意足らざりしが爲に、苗の一寸計り延びたる頃、將に枯死せんとするに至れり、是に於て當事者等は、其地に在住せる日本人の齒科醫、永井正登に諮りて、日本人にして米作上の智識を有するものを求め、此欠點を研究し之れが恢復を爲さんとす、是に於て永井は、其友人安岡農學士の此地方に、巡廻し來りたるに依り、告ぐるに此事を以てす、安岡は駒場農科大學の出身にして、夙に米作の事に精通し、當時テキサス州、コロライナ州米作の視察を爲して、加州に來りたるもの、彼其事情を聞くや、白人グラントに面會し、將に枯死せんとせる、米田に適當なる灌漑を施して、其の苗を蘇生せしめ、其成績を加州の政廳に報告して、多くの種類の中より、土地に適するもの二十五種を撰定したり、是に於て加州政廳は、其翌年より（千九百十年）サンオーキン平原のスタクトン附近、テハマ郡レッドブラツフの附近、ビュート郡ビグスのグラント農園、グリーン郡ナイスリーの四ヶ所に、試作田を設くるに至れり、此際當事者

は永井正登、田中健次、安岡農學士の三人を備聘して、其事業に使用せんとす、三人語りて曰く、米作は日本の國産と直接の關係を有するものなり、我等日給を受けて事に當らんか、勢ひ彼等の爲めに忠ならざるべからず、寧ろ獨立して此事業を試みんか、或は日本人側の利益を企圖する事を得んか、乃ち前記の場所を撰び、グラントと契約して現時の試作を爲すに至りたるなり、此米田の使用水は、悉く揚水器械にて、地中より取り、其作法は主としてテキサス州の米作法に依れるものにて、已に千九百九年度の收穫は、一英町に就き一俵百斤入として、日本種の粗百十俵、ヘンドー種四十俵布哇米三十俵、埃及米十六俵を得、之を一俵參弗にて賣捌きたりと云へり、此作米はユーコン博覽會に出品し、一等米の資格を與へられたりと云ふ、此地方夜中の温度最高百十度、最低六十三度にして新田なるを以て、水草及び害虫の米作に及ぼす事なし、思ふに米作は此地方に於て、將來頗る有望ならむ、然れども正確なる結果は、暫く兩三年の後を俟ざるべからず。

(五) テハマ郡及び其以北

テハマ郡は東ブルマス、北はシヤスタ、西はトリニチー、メンドシノの二郡に接し、南はグレエ、及びビニューテの二郡に界し、東西七十八哩、南北三十八哩、面積三千二方哩あり、農業、牧

畜、森林業盛にして、人口一萬一千あり、加州日本人發展の最北地にして、郡の中心レッドブラツフは、加州に於ける最北の日本人發展地と稱するを得べし、テハマ郡以北には、ラスン、モドック、シヤスタ、シスキュー、トリニチー、ハンボルツ、デルノルトの七郡ありと雖も、山脈重疊土地耕作に便ならずして、産業また起らず、人口また稀薄なり、故に日本人發展地として之を記すの價值なし。

『レッドブラツフ』テハマ郡の首都にして、人口三千五百あり、加州中最も繁榮せる都會の一なり、此地方富源の開發せらるゝに従ひ、市街の發達また迅速なり、市内電氣の使用また盛にして排水設備の完全なる事、恐らく加州中其比を見ず、サクラメント河の水流此地に於ては頗る清澄して、山河の風景を添ふる事少からず、市街には一帯に、榎、白楓樹、ローカスト、荊球花、胡椒樹等を植ゆ、仰げばシヤスタ山の白雪大空に懸り、壯嚴の美、襟を正さしむるに足り、溪水碧潭を爲して岩石の間を流る、天然の風景、オロビルに勝り、此地に至る者をして、木曾川の清溪を回想せしむ、此地日本人營業者として、旅館二、洋食店一、青物店一、洗濯業二、料理店一、湯屋二あり。

(六) コルサ郡

ユルサ郡は、グレーン、ヨーロー、二郡の間に介在し、東はサター郡に、西はレーキ郡に接す、面積千二百〇二方哩、人口一萬七千人、耕地反別六十餘萬英町あれども、土地所有者の數六百餘人に過ぎず、大規模の農業行はれ、穀物及び果物を産し、葡萄及びオレンジの栽培地たり、土地の價格一英町四拾弗乃至百六拾弗の間にあり。

「ユルサ」 桑港より百哩、南太平洋鐵道の支線を通ず、日本人の現金借地者五人、借地面積六百六十五英町あり、豆、馬鈴薯、玉蜀黍を栽培す、他に牛乳業者一戸あり、大阪府の人米田直太郎の現金借地、二百四十英町を其中の大なるものとす。

(七) ヨーロー郡

サクラメント河の西岸に添ひ、南はソラノ、北はユルサ、西はナツバ郡に接す、其南部の大部分は所謂河下地方に侵入し、最も穀物の産出に富み、加州の穀物中十分の一の産出額を有す、鐵道の便多く、ウードランド、エルバルト、デビスビル、ヨーロー、ウインターズ等あり、面積一、〇七十七方哩、郡内の人口一萬八千と稱す。

「ウードランド」 ヨーロー郡の首都にして、人口三千六百あり、附近に砂糖大根園多く、また日本人發展地の一なり、今より二十年前、熊本縣人岩永庄三郎等、莓摘採の爲に備はれて此地に入

りたるあり、此頃より漸次日本人の在住者を見るに至れり、現時日本人の事業として見るべきものは、奈良縣人吉村治三郎の大根園事業にして、日本人労働者此農園に入るもの少からず、平素七八十人の定住者あり、大根の收穫時期に於ては、四五百人の労働者入り來るを常とす、現金借地者十組、借地七百二十九英町あり、牡草、馬鈴薯、砂糖大根、葡萄等を作る、市街營業者としては、商店一、旅館四、洗濯業一、湯屋一、飲食店二、運送業一、理髮業一、玉場二あり、就中八田商會は、此地唯一の商店として、食料品及雜貨の供給を爲す、旅館其他の營業は尙ほ微微たるを免れず、土地所有者としては、熊本縣人野田米記の葡萄園十五英町あるのみ。

「ヨーロー」 ウードランドの北、ウイロースに達する鐵道線路に添ひ、日本人の果物、アルハルハ、野菜等を耕作するものあり、現金借地者十八人、借地七百十三英町あり。

「サクラメント市の附近地」 河流に添ひ、サクラメント郡との界、サクラメント市と相對する所、日本人の現金借地者にて、一大梨園を経営するものあり、和歌山縣人駒野清治郎の契約せるものにして、其借地面積二百四十英町あり、加州有名なる梨園にして、收穫最も多し。

「ウインターズ」 郡の南境ソラノ郡に接近し、南太平洋鐵道に添ふ小都會地にして、千八百四十八年、ジョージ、セツセルなるもの、東部米國よりロッキーマン山を超へて此地に入り、果樹の栽培を始め、大に農園を開拓し、以て加州果物園の先驅を爲し、後ち此地方に於ける果物園大に發達

し、白人の來り住するもの多きに至れり、彼等果物園の地主は、始め支那人労働者を使用したるも、後ち日本人の精勵なるを見て、之を使用するに至り、明治二十二年、西龜之助、貴志善助等ブレセントに入り、佐々木某、貴志捨藏、竹崎武友、橋詰某等、ウィー、セツセルの果樹園に入り土橋重助、坪内要助等ジョージ、セツセルの果樹園に入り、現時英領加奈陀に金山を有する、池田有親、曾我部某等ツアカビルに入り、以て加州日本人發展地の濫觴を爲したり、已にして日本人の勢力増加すると共に、支那人労働者との間に衝突を生じ、明治二十六年、エーメンケ、ジョージメントにある日本人六十人は、支那人労働者四十人と、ダブルメンケのハツブス包 裝場に於て一大争鬪を演出し、相互に負傷者を生じたる事あり、當時日本人の労働者は、荐りに支那人労働者の範圍を侵食し、常に精銳なる労働隊を以て、彼等と競争し、滿腔の氣力を鼓して、常に三倍の効果を擧げ、白人をして遂に日本人労働者の頼むべきを知らしめ、以て其勢力範圍を擴張したりと云ふ、現時日本人労働者の至る所に歓迎せらるゝもの、または等先蹤労働者の範を示して、之を獎勵したるの功また少からざるが如し。

現時日本人の土地所有者四人、所有地二百九十三英町、歩合耕作者二十三組、作地七百九十五英町あり、市街營業者として蓬萊商會、和歌松旅館あり。

土地所有者

貴志 丈太郎(和歌山縣) 七〇英町(野菜)

谷越虎太郎(和歌山縣)

九〇英町(果物)

小田代源太郎(岩手縣) 九三英町(野菜)

鹽崎彌太郎(和歌山縣)

四〇英町(野菜)

フリーポート及びクラクスバーグ、川下地方の記事に編入したるを以て之を省略す。

(八) ソラノ郡

ヨーロッパ郡、コントラコスタ郡との間に介在し、東はサクラメント郡に界し、西はナツパ郡に接す、郡中ツアカビル平原は、面積二十四方哩、西北に山を負ひ、土地緩き傾斜面を爲し、果樹及び、野菜の栽培に適し、季節に先じて菜果を産出し、市場に賣玩せらる、郡内の面積八百二十八哩人口三萬を有す。

ツアカビル

南太平洋鐵道支線に添ひ、エルマイラ停車場より五哩の西にあり、繁榮なる小都會なり、地方に果物園多く、杏、及桃其他を産す、日本人の果樹園を經營するもの頗る多く、北加州中重要なる日本人發展地たり、此邊の果樹園の借地料は、一英町參拾五弗乃至六拾弗にして、空地の賣買價は五六拾弗乃至貳百弗の間にあり、現金借地者五十七人、借地面積三千二百九十六英町あり、市街營業者には、金融社一、新聞支社三、醫院一、食料品商店四、自轉車店一、飲食店一、洋食店二、旅館七、理髮店三、玉突場三、洗濯所一、運送業一、魚店一あり、紀陽商

會及び伏虎商會は共に此地に於ける商店として大なるものとす。

△日本人會 始めヅアカビル同志會と稱したりしが、明治四十二年一月、ヅアカビル日本人會と改め、ヅアカビル、ウインターズ、グインダー及び其附近を包轄し、現時の會長として木村篤(大阪府)副會長に松澤和一郎(和歌山縣)幹事に西口種夫(和歌山縣)あり、會員四百六十名を有し、會費一ヶ年金壹弗、特別會員は毎月五拾仙とす。

△其他の團體 美以教會は、現時會員二十八名を有し、兵庫縣人田中久彦牧師たり、財産として參百五拾弗を價したる敷地を有す。

明治二十三年熊本縣人田上清太郎、ジェム、バツソ一の農園に労働者を入れ、始めて日本人發展の端緒を開き、翌二十四年大久保某等此地に入り、爾後大に日本人の數を増加するに至れり、此地方の居住者は殆んど和歌山縣人にして、之れ先入者の同縣人たりし爲めなるべし、市街營業者としては、中畑某日本米販賣の商店を開きたるを其嚆矢となす、斯くて明治二十七年、日本人の勢力漸く加はらんとするや、白人労働者銃器を以て來襲し、白人の地主は日本人に銃器を與へて之れに對抗せしめ、僅かに衝突なきを得たりといふ。

土地所有者

前田芳太郎組(和歌山縣) 一三〇英町(果物)

御前勘太郎(和歌山縣) 五五英町(果物)

南出盤雄(和歌山縣) 五〇英町(果物)

和田總太郎(和歌山縣) 四〇英町(果物)

『エルマイラ』 エスピール鐵道に添ひ、ヅアカビル支線の分岐點にあり、日本人發展地と稱するに足らず、和歌山縣人松本與四郎の現金借地三十五英町の外、野菜園の經營者二戸あるのみ。

『パレオ』 スースン灣の北岸にあり、人口七千、米國海軍造船塲及び鎮守府の所在地なり、日本人の市内營業者としては、食料品店一、竹細工店二、洋食店二、飲食店一、旅館一、理髮店一、玉塲一、洗濯所一、靴工一あり。

『スースン』 エルマイラの西南、南太平洋鐵道のナツバに達する支線の分岐點にあり、日本人の果樹園を經營するもの多く、其在住者百三十名あり、土地肥沃にして葡萄の栽培に適す、現金借地者三人、借地百十八英町あり、歩合耕作者九人、作地六百二十英町あり、明治四十二年七月四日、獨立してスースン日本人會を設立し會長に藤田元三郎、幹事に雜賀忠平を撰擧し、會員百二十名を有す。

第八節 サクラメント平野成業列傳

——サクラメント郡以外の部——

△富永虎彦 熊本縣上益城郡六嘉村の産にして、明治八年生る、曾て長崎に遊學し、法律及び

英語を修め、明治三十年渡米し桑港に上陸するや、星光會に入りて英語の教授を擔任する事一年半、更に白人教師に就きて、英語を練習する事一年、其れより高等學校法科に入學して、研鑽怠る事なく、遂に之を卒業し、更に進んで大學に入りて専門學科の蘊奥を究めむとしたるが、事情の許さざるものありたるを以て、自ら桑港オフワレル街に一の英語私塾を設け、郷里の子弟十數名を集めて育英の事業に従事し、之を蘇白英學校と稱す、蘇白の名は、阿蘇山、白河城より取りたるものなるべし、彼れ此事業に従事する事三年、偶々身體の健康を害したる感あり、乃ち己れの經營せる事業は、之を山田嘉吉に譲り、自らサクラメント川下地方に至りて銃獵を爲す事屢なり、已にして身體の健康舊に復し、同縣人にして川下地方にあるもの、彼に勸めて此地方に大農的事業を起さしめむとするもの少からず、是に於てクラクスパークに於て、二百英町の地を借り、收穫分配の契約にて、アルハルハを植付け、更に一英町拾五弗にて、七百英町を現金借地し、其三百英町に豆を作り、四百英町にアルハルハを作り、最も大規模の農業に従事せり、農園使用の馬五十頭、千弗の麥刈取器械、貳千弗の豆摺器械を有し、農時多忙時には器械に使用する人夫三十人、其他の傭人を合して六七十人に上れり、アルハルハは之を他の作物に比すれば其耕作費固より廉なりと雖も、日本人にしてよく七百英町の大耕作を經營するもの、他にあらざる所なり、而も彼のよく此大耕地の經濟を支持して、年々其功を收むるもの、よく諸方の事情を研究

し、機敏に農業市場の脈引を爲すに因らざるば非ず、クラクスパーク、フリーポート地方、彼を推して地方の代表的人物と爲す、また偶然にあらす。

△原田仁太郎 福岡縣三池郡三河村の産にして、明治七年生る、兄弟の米國にあるもの三人、長兄末松はサクラメント市に於て、益城屋旅館を經營し、弟彦太郎はフリーポートに於て、二百五十英町の歩合耕作を爲しつゝあり、仁太郎の渡米したるは、明治三十三年にして、始めてヴィクトリヤに上陸し、鮭漁に従事する事半年、已にして、サクラメント地方に來り、パーキンスのハツプス園に勞働する事一ケ年、後ちベンリンに至り農園に勞働する事一年、其よりヨロー郡ブライトに入り、八十英町の農園を收穫分配の契約にて、之を經營する事二ケ年、利を得る事少からず、明治三十七年デストリクト七百四十四番の地八十英町を、現金千五百弗にて借地し、之に豆及び馬鈴薯を作りて、年々多大の收穫あり、明治四十年は更に二百六十英町の現金借地を爲し大に其規模を擴張したるに、此二ヶ所の農園より得たる純益、各七千弗に上りたりと云へり、已にして二百六十英町の作地は其契約を解き、日本人勞働者の渡航減少し、人夫の欠乏を生ずるの憂あるを以て、爾後専ら八十英町を經營しつゝあり、然れども彼の農園地は河堤鞏固にして、絶て水害おらず、其隣地は曾て山口縣人中村仙助なるもの、一舉にして壹萬弗の純益を得たるの地として知らる、耕作區の大小を以てすれば、素より普通の大農家に過ぎざれども、年々の收得に

因て其富を作したるもの、川下地方の同胞社會、彼の如きは稀なり。

△坂田兄弟 坂田龜喜は、熊本縣上益城郡乙女村の産にして、明治四年生る、明治二十五年四月渡米し、ポートランドに上陸して居る事一年餘、二十六年桑港に來り、英語を學ぶ事二年、明治二十九年川下地方、ポートランドに入りて農園を經營し、傍ら果物の收穫を買收して利を得たる事尠からず、已にして明治三十三年サター島の農園二百二十英町を現金借地し、果物及びアスバラガスを作り、之を經營する事十年餘、今尚ほ六ヶ年の借地期限を有す、弟辰喜は明治十年生る、三十年十一月渡米し、桑港に於て英語を學ぶ事二年、三十三年川下地方クラークスバーグに入り、百英町の野菜を作りたるも、此年白人社會労働同盟の紛擾ありたるがために、市場に出荷する事能はずして大損失を招き、其後明治三十五年に至り、借地料千貳百弗にて八十英町の地を借り、之を經營する事已に九ヶ年、明治四十二年の如きは、總收入四千弗に上れり、彼等は是等獨立事業の外、ライヤール島に於て、兄弟及び他に一人の共同者を加へ、現金參千八拾弗の借地料を拂ひ、使用の馬三十頭を有し、大規模の豆作に従事し、四十二年の總收入壹萬貳千弗なりしといふ、其事業の大なる、川下地方二三の大農に數へられ、共に天資温厚正直、其人格の高き事、地方同胞間稀に見る所と爲す。

△駒野清次郎 サクラメント市の對岸に一大梨園あり、廣さ百四十一英町、其果實の美にして産

額の大なる、米國中他に比類を見ずと云ふ、之れ同胞駒野清次郎の經營せる所なり、駒野は和歌山縣有田郡湯淺町の産にして、明治十年生る、明治二十七年渡米して桑港に上陸するや、直にバカビル地方に入り、美以教會に入りて英語を修め、後ちスーソンの果物園に労働する事一ヶ年、明治二十九年鹿兒島縣人西博夫、始めて金鑛探掘の工夫を募集するや、一時鑛山に入りて労働に従事し、已にして病の爲め去てアラメダ郡の鹽田に労働する事一年、再びバカビルに至りて、果物園百七十英町を現金借地し、利益千四百五拾弗を得、三十二年更らに他の果樹園百七十五英町を現金借地し、之を經營したるに、此年米國一般に果物の産出多く、市價暴落して非常の損失を蒙りたり、明治三十三年デビスビルに轉じ、果物の仲買業を爲す事四ヶ年、他にキャストル兄弟會社の代理仲買人として、其業務に當る事五ヶ年、白人の信用を得て利益を得たる事少からず、乃ち之を資本として明治四十年十一月、ヨーロー郡に於ける、シー、タブリユー、リーダー會社の果樹園百四十一英町を現金借入の契約を結び、借地期限を五ヶ年とし、借地料七千五百弗を支拂ひ盛に其經營に従事するに至れり、之れ前記の大梨園にして、此園地は中十英町のブルームを除くの外、他は悉く二十餘年を経たる梨樹、樽々として繁茂し、一ヶ年の産額四萬弗に上り、現に四十二年の如きは、果物園業者の收穫頗ぶる少なりしに拘はらず、彼の得たる純益千五百弗に達したりと云ふ、現時馬八頭を有し、他に農具其他の費用貳千弗以上を投じたりと云へり、

サクラメント平原中果樹園經營者中の成功者として知らる。

△谷口清太郎 和歌山縣海草郡西山東村の産にして、明治六年生る、家代々紀州の藩士なり、父之をして教育家たらしめむとす、而かも彼れ夙に時勢の趨向を察し、牙籌を執て商業界に立たんとするの志あり、是に於て始め紀州産綿ネルの販賣に従事し、後ち京都に至り該地産出の綿ネルを販賣し、巨額の商利を博したる事あり、已にして明治二十六年陸軍歩兵に採用せられて、第四師團に入營し、偶々日清戦争の起るや、北清の野に轉戦し、事平ぐや更に臺灣守備隊に編入せらる、此際戦功に依り勳八等瑞寶章を下賜せらる、其の後一時歸郷して明治三十三年再び渡米し、サクラメント川下地方に入りて、農園に勞働し、後ちナトマに轉じて、勞働する事二ケ年、漸く米國の事情に通ずるや、川下地方コートランドに來りて、商店及び旅館を開業し、之を紀念商會と稱す、當時此地方尙は同胞の在住する者少く、營業微々たるを免れざりしが、明治三十七年の頃に至り、同胞の川下地方に侵入する者多く、紀念商會の事業また漸く盛大なるに至れり、已にして滿洲撤兵問題は、日露兩國の間に齟齬を生じ、遂に極東の天地炮煙彈雨の活劇を見るに至る、當時彼れ尙は軍籍に在り、國家の急を聞き、驟然奮て曰く正に是れ男子報國の秋なり、何ぞ營利に汲々たらんやと、乃ち母國政府の召集令未だ到來せざるに先ち、電馳故國に歸り、命令の至るを俟ちて、出征軍に加はり、三十七年九月、旅順の第三攻圍軍に屬して、奮闘激戦數月を

闘し、其より遼東、鐵嶺、海城、黑溝臺等に轉戦して戦功少ならず、三十八年十月凱旋し、功に依て勳七等青色桐葉章を下賜せらる、已にして明治三十九年四月、早くも北米大陸平和の戦場に殊功を樹てん事を思ひ、妻を携へて再び渡米し、直にコートランドに歸りて、以前の業務を繼續し、以て現時に至る、紀念商會は川下地方有數の大商店にして、谷口清太郎の名地方同胞社會の間に重きを措かる、該商店一ケ年の賣上高凡そ貳萬弗内外にして、食料品及雜貨、日用の便備はらざるなく、地方在住者及び農園勞働者の依て便を得る所少からず、國家事あれば殉難の志氣抑ゆべからずして卒先之に赴き、事止めば平然生業に歸して、國富の増進に勤む、彼の如きは在米幾多の商業家中、稀に見る所の人物と言はざるべからず、現にコートランド日本人會の會長たり。

△清地岩藏 山口縣熊毛郡佐賀村の産にして、明治七年生る、明治三十一年渡米して、スタクトン川下地方に至り、農園に勞働する事二三ケ月、其れよりワツソンビル、フレズノ、サクラメント地方の農園に勞働する事一年間、明治三十二年コートランドに來り、同縣人岩立悟一と共同にて、果樹園五十英町を受負ひて之を經營する事一ケ年、三十三年タラ島に於て豆作に従事し、已にして翌三十四年兄貞吉の渡米するあり、是より兄弟川下地方に於て年々大規模の農業に従事せしが、兄貞吉は、屢々水害を被りて、損失少からず、然れども兄弟心を一にして、互ひに其

事業を助け、多年其事業を繼續して、資産を作る事少からず、已にして明治四十年、資本金叁千弗を以て、コートランドに旅館及び商店を開き、營業の盛なるや、明治四十二年更に千叁百弗を投じて玉場を開業し、更に借地料貳千五百弗を拂ひサクランボ市の附近に二百五十英町の地を借り、弟清一及び宇一をして直接其事業に當らしめ、其他グライデ島に三百英町の歩合耕作を爲しつゝあり、現にコートランド日本人會の會計たり。

△稲野龍雄 熊本縣上益城郡瀧ノ尾村の産にして、明治十三年生る、明治三十一年五月英領カナダ、バンクーバに上陸し、直に加州に來りオークランドに留る事三年、此間學僕として勞働の傍ら、小學校に通學する事一年、爾後白人の教師に付て更に英語を練習する事二年間、明治三十四年サクランボ市の附近オープン金の鑛に勞働する事一年、後ちオークランドに歸り、翌三十五年サンジヨセ及びサクランボ市河下地方の農園に入り、ナツメギ園十五英町を請負ひ、一年貳百餘弗の利益を得、是より先き實兄稲野市郎次渡米して、諸所の農園に勞働し居たるが、明治三十六年に至り兄弟の共同にて、クラクスパークに於て百六十五英町の現金借地を爲し、之に豆及び野菜等を作り、一年にして七百餘弗を利し、三十七年はメーリット島及びコートランドの二ヶ所に現金借地及歩合作にて合計三百五英町の地に豆、牧草、果物、野菜等を作り純益八百弗を得たり、已にしてコートランドの地、日本人農家の増加せるを以て始めて一の商店を開き、食料品及雜

貨を販賣し、兼て旅館を開業するに至れり、之れコートランドに於ける日本人商店の嚆矢たり、此商店一ヶ年の賣上高壹萬五千弗と稱す、明治四十一年十月最愛の妻は一子を遺して死去す、乃ち愛子を故國に歸し、單身米土に留りて商業に奮勵す、聞くもの彼の精勵と勇氣に同情を起さざるなし、現にコートランド日本人會の副會長たり。

△山本喜熊 熊本縣上益城郡甲佐町の産にして、明治二十四年布哇に渡航し、翌二十五年桑港に上陸するや、間もなくサクランボ市に入り、當時兄山本半治郎の COURT LAND に在りたるを以て之を助け、共に農園を經營する事七年、明治三十二年半治郎の歸朝するや、爾後獨立して農業に従事し、現時メーリット島に百五十英町の地を經營して年々數千弗の收入を得、此地方有力の農業者たり、只半治郎は歸國後鐵道及び開墾事業に成功し、地方の事業家として知らる、而かも半治郎をして今日あらしめたるもの喜熊の功與て力ありと云はざるべからず、實弟を稻葉彦太郎と稱し、また川下地方の大農家たり。

△立田二一 熊本縣下益城郡西砥用村の産にして明治三年生る、二十六年渡米し、桑港及びバカビル地方に勞働したりしが、三十二年オーナツグロブに來り、諸所の農園を契約したるも、利を見る事能はず、偶々スタクトン鶴見商店に入りて其店務に従事し、初めて商業の經驗を爲す事を得たり、後ち之を去りてオーナツグロブに歸り、同地白人の大商店に入り、精勤七年餘、毎月

六拾弗の給料を受く、今より五年前、自ら立田商店を開き、妻をして直接の營業に當らしめ、己れは白人商店の勞働を廢せずして以て現時に至れり、此地方最も堅實なる商店の一に數へらる。

△淺井龜次郎 愛知県海西郡開治の産にして、明治六年生る、二十六年渡米し、各地に勞働して明治三十四年川下地方に入り、翌年水谷政右衛門と共同して、オーナツグロップに一の商店を開き、食料雜貨の傍ら、郷里の名産七寶燒等を販賣し、營業漸次に繁榮して、以て今日に至れり、創業の當時、理髮店を兼業し、自ら理髮師として、以て商業と相俟ち、其事業の發達するや、理髮業を廢し、専ら力を商業に用ふる事を得たり、現に川下地方の盛大なる商店として知らる。

△野澤杉松 廣島縣佐伯郡己斐村の産にして、明治八年生る、二十六年渡米し、桑港に在りて英語を學ぶ事一年、明治二十七年アイルトンに入り、翌二十八年他と共同して六百英町の馬鈴薯及び豆を作りたるも、降霜の爲めに失敗に歸し、後ち果物及野菜百十英町を經營する事六ヶ年、水害の爲めにまた利を見る事能はず、已にして明治三十六年同縣人岡田誠松と共に十五年の期限を約して、百九十英町の地を借り、之にアスバラガスを作りて、年々の收穫少からず、之に投じたる資本壹萬五千弗に上り、アイルトンの豪農として知らる。

△宮本徳三郎 廣島縣佐伯郡地御前村の産にして、明治三年生る、二十五年布哇に渡航し、居る事二年餘、後ち桑港に上陸し、半年の後ちサクラメント川下地方に入り、農園を經營して經驗を

積み、明治三十一年アイルトンの地二百二十五英町を現金借地し、アスバラガス、馬鈴薯等を植えて盛に農業に従事し、また地方の成功者たり。

△倉本乙八 熊本縣上益城郡下矢部村の産にして、明治十一年生る、明治三十三年五月英領加奈多バンクローバに上陸し、居る事一年、材木製造所に働き、後ちオレゴン州に入り鐵道及び、製糖會社に勞働する事七八ヶ月間、明治三十五年加州オーナツグロップに來り、ゴールデンステート會社のアスバラガス園に入り、熊本縣人村田某の配下に働く事半年、已にして同會社の人夫監督者白人ツレスなる者の家庭に傭はれてコックと爲り、後ちまた同會社の農園に働く事半年、已にして日本人の人夫監督者村田の去るや、鎌田某及北島某其後を繼ぎ、後ち北島某の去るに及び其後を襲ふて、會社の土地三百英町の耕作を契約し、配下に百人内外の勞働者を指揮し、現に川下地方に於ける大契約業者たり、三百英町の内二百六十英町は、アスバラガスにして他は果物及び野菜を耕作す、彼れまた資産を作る事尠からず、此事業の外屢々他と共同して農作を爲し、其利する所また少なからず、ウオーナツグロップ日本街に一の家屋を有す、其價千貳百弗なりと云へり、現に川下農業同盟會の會計に推さる。

△稻葉彦太郎 熊本縣上益城郡甲佐町大字東寒野村の産にして、明治九年生る、山本常八の四男にして明治三十五年四月、同村稻葉市作の養子となり、其女と婚し、此年實兄山本喜熊の再び米

國に渡航するを以て同航し、六月十五日桑港に上陸し間もなく學僕として市内の家の内的労働に従事し、餘暇を以て桑港佛教會にて英語を學ぶ事一年半、後ちサクラメント川下に於て、實兄山本喜熊の農園を經營せるを以て、其事業を助けて労働し、明治三十八年、ボーデンに於て一英町拾五弗にて二百七十英町を借地し、林清太郎、島津萬左衛門と共同して、之に豆及びアルハルハを植付けたるに、水害の爲め參千七百弗の損害を受く、是に於て其地を返し、一時兄の農園に歸り居たるが、明治四十一年兄山本喜熊、同縣人木村七藏と三人の共同事業とし、スターチン島の地三百五十英町を借地し、收穫の四分の一を地主に納むる契約にて、豆及び馬鈴薯を作り、翌四十二年は更に豆及び大麥、牧草等を作り彦太郎専ら其經營に當り、明治四十三年に至り更に百七十英町を加へ、同一の組織となして木村七藏其經營を擔任す、明治四十二年度に於て三百五十二英町の農園より、收穫せし價格壹萬六千九百四拾四弗九拾貳仙にして、純益五千餘弗を得たりと云ふ、現時三人共同にて、使用の馬十五頭を有し、千八百弗の農具を有す。

△森本政吉 廣島縣佐伯郡宮内村の産にして、明治八年生る、二十五年渡米し、初め加州の各地に労働したるが、後ち米國東部を視察して、ワシントン市、紐育市等に至り、更らにキューバ島に至りたる事あり、明治二十九年アイルトンの地に入り、百六十英町の地にアスバラガスを作りまた此地方の大農業家たり、性氣概に富み、一見英邁の資たるを知るべし、現にアイルトン日本人

會長たり。

△土井秀樞 廣島縣佐伯郡井口村の産にして、明治十七年生る、明治三十二年七月、英領グイクトリヤに上陸し、桑港を経て南加州に至り、鐵道に働く事半年、已にして實兄山中喜郎九のサクラメント地方ルーミスに在るを頼り、其果樹園の事業を助くる事三ヶ年間、明治三十六年十一月兄弟共同して、ペンリンに於て一の食料雜貨店を開業し、之を山中商店と稱す、當時此地方同胞の來り住するもの漸く多く、營業日々繁榮して地方の大商店たるに至れり、後ち明治四十二年八月、兄喜郎九の歸朝するに際し、秀樞は同縣人樹川増太郎を共同者として、山中商店の經營に當り、毎年の賣上平均三萬弗と稱す、樹川は、廣島縣安佐郡福木村の産にして、明治十一年生る、明治三十一年渡米し、直にペンリン地方に來り、種々の農園受負事業に従事したりしが、後ち山中商店の共同者として、土井と共に其業務に従事し、また此地方に於て信用を有す。

△向井増太郎 廣島縣安藝郡仁保島村字日字那の産にして、明治六年生る、明治二十七年バンクーバに上陸し、桑港を経てネバダ州に入り、鐵道工事に従事する事三ヶ年、其間一日も労働を廢せず、以て其堅忍不拔の精神を知るべし、乃ち此間に於て貯蓄せし金九百餘弗を以て加州に來り直にルーミスに入り、白人の土地百英町の開墾を受負ひ、配下に七十餘人の労働者を指揮し、孜孜として其事業に當りたるが、竣工の曉、四百五十拾弗の損失を爲し、其翌年ローズベルに至り、

白人リーダーの果樹園七百英町を經營し、労働者を監督して熱心に其事務に従事し、之を繼續する事四年間、地方白人間の信用を得、貯蓄七百弗に達す、明治三十四年十二月再びブルーミスに歸り、百六十英町の山林伐木事業を受負ひ、五ヶ月間にして四百餘弗の利益を得、三十五年以後地方産出の葡萄及び果實の仲買を爲して、年々利を得る事少からず、已にして明治三十九年九月ペンリンの地日本人の労働者増加したるに依り、其便利を補はんが爲に、旅館及び魚店を開業す此年同地に於て借地料四百弗にて二十英町を現金借地し、之に莓を植付け、他に桃、ブルーム、梨等の園地五十五英町を經營す、現にブラサ郡日本人會の會計監督役たり。

△藤本権吉 山口縣熊毛郡室津村の産にして、明治十一年生る、明治二十五年ウイクトリヤに上陸し、附近の白人農家に傭はれて、牧草園及び開墾地の労働に従事し、二十六年バンクターバに至りて銚採に従事する事五ヶ月、後砂市に至り農園に働く事暫時、當時此地方に労働を要する事少く殊に賃金頗る廉なりしを以て、轉じて加州に至らんとす、而も囊中半仙の旅費を有せず、乃ち決心して單身徒歩旅行を爲し、途中絶食する事三日、殆んど死に瀕す、行程五十二日、漸く加州サクラメントに着し、尙は徒歩する事二日にして、また餓死に瀕す、偶々人の周旋するものありて、山野の開墾に労働する事五ヶ月、始めて前途の光明を認むるに至れり、後キヤストロピルに至り、白人の農園に勤続する事四ヶ年、漸く貯蓄する所あり、乃ち果樹園五十英町を契約し

て參百弗の利益を得、彼れ一日思へらく、區々たる小事業何ぞ平素の抱負に報ゆるに足らむやと乃ち同志五十人を率ひて、ニューメキシコに至り、炭坑の労働を爲したるに、偶々坑口墜落して同胞四十人の即死者を生じたり、乃ち該地を脱走し徒歩にて、ニューメキシコより、アリゾナ州の大砂漠を横斷すること一週間、幾多の艱難を経て再びニューメキシコに歸り、また白人の農園に労働する事一年、已にして廣島縣人藤井五七、神田常太郎と共同にて、果樹園五十英町を借り、之を經營し、翌三十五年には更に藤井能藏と共同にて此事業を繼續して明治三十八年に至りたるが、此年同縣人中本音吉と共同にて、和洋食料品及雜貨店を開業し、後ち中本と分離して更に廣島縣人榎井喜助と共同して、榎井、藤本商店と改め、ペンリンに於ける大商店として知らる。

△上野榮吉 廣島縣安藝郡中野村の産にして、明治五年生る、二十八年布哇に渡航し、砂糖耕地に労働する事九ヶ年、一旦歸朝して故國に留る事一年餘、明治三十八年十月再び布哇に渡航し居る事一ヶ月にして桑港に轉航し、直にペンリンに來り果樹園の労働に従事し、明治三十九年三月、ニューメキシコに於て同縣人竹本某と共同して、果樹園四十英町を經營し、更にペンリンに來り、借地料五百弗を以て、三十英町の果樹園を借り之を經營するに至れり、此果樹園一ヶ年の收入參千五百弗内外なりと云へり、二弟あり、共に獨立にて、ニューメキシコ地方に於て、盛に果樹園の經營に従事す、現時榮吉の借地は、ペンリン地方に於て最も收移多き果樹園として知ら

れ、其地面の大ならざるに係らず、此地方日本人農業家中、最も財政の豊なるものと稱せらる。△川内藤太郎 廣島縣高田郡可愛村字中馬の産にして、明治十六年生る、明治三十二年一月一日兄山岡市之助と共に布哇に渡航し、砂糖耕地に働く事一年半、明治三十三年兄弟相携へて米本土に轉航し、直ちにビグス及びフレソノ地方の農園に入り、労働する事二ケ年、明治三十四年十二月ブラサ郡ペンリンに來りて、十英町の地を借り葎園の經營に従事し、三十五年更らに二十五英町の果物園を契約して、七百弗の利益を得、已にして明治三十七年十二月、千百弗を投じてペンリンの地二十英町を買ひ、之を開墾して桃、莓等を植へ之に投じたる資本金參千弗なりと云ふ、明治四十二年桃及びブルーム等の收穫參千五百弗に上り、葎四英町にて平均四百八拾餘弗の收穫あり、此外他に十六英町を現金借地し、盛に農業に従事す。

△清田菊太郎 熊本縣飽託郡河内村字清田の産にして、明治四年生る、明治二十九年八月桑港に上陸し直にサクラメントに至りて、ハツプス園の労働に従事し、後ち桑港に出で學僕として労働の餘暇英語を學び、桑港マーケット街シーリング茶輸入會社に労働する事四ケ年、此間に於て千五百弗の貯蓄を爲す事を得たり、已にして明治三十五年労働者八十名を率ひてアルバラッドに至り製鹽業の労働を受負ひたるが、經驗なき爲め失敗に歸し、三十五年ブラサ郡ルーミスに於て、プランステアの農園に二十名の労働者を率ひて其經營を爲し、再び成業の端緒を得るに至れり、此

年十月一旦歸朝し、三十六年六月再び渡米して、舊地主の農園に歸り、三十七年同家の果物園九十英町を現金貳千弗にて借地し、明治三十八年同地に於て、百三十五英町を現金借地し、別に熊本縣人穂波鶴平と共同にて、借地料貳千九百弗を拂ひ、六十英町を借地し、桃、アツブリカット、葡萄、梨、櫻、林檎等を植へ、現時一ケ年の收穫壹萬五千弗に上れり。

△吉村治三郎 奈良縣北葛城郡新庄村の産にして、明治十一年九月十日生る、父を吉村治兵衛と稱し、土地の資産家たり、幼にして南都の儒者久保如川翁の靜修書院に入りて漢籍を學び、後ち父の關係せる或銀行に入り其行務に従事す、已にして外遊の志あり、明治三十六年七月、シャートルに來り、留る事一ヶ月にして桑港に出で、直にアラメダ郡に入り、果樹園三十英町を借地し、資本金四千弗を投じて之を經營する事四ケ年、此際白人スタンソンなるもの、吉村の平素労働に熱心なるを見て、深く之を信じ、後ちアラメダ、シユガーフアクトリーの支配人某に紹介し頗る斡旋する所あり、彼れ是に於て製糖會社と契約し、プレセント、アブラド、ウードランドウインターズ、ナイスランド等に砂糖大根園を經營するに至れり、現時彼れの契約せる園地は總て三千五百英町にして、其内一千英町は一英町拾弗、乃ち壹萬弗の借地料を拂ひて、砂糖大根及び麥を作り、他の二千五百英町は、田村保治、佐藤信之、鮫島嘉之亟に分配して、之を耕作せしむ、現金借地千英町の外は、之を四分六分の割とし、其六歩を地主に、四歩を自己の收穫とす、

明治四十二年の如きは、一英町の收穫十噸にして、總收入拾萬弗に上り、一ヶ年内勞働者に支拂ふべき賃銀八萬弗に上れり、實弟吉村治一また兄を助けて其事業に盡心し、兄弟常に正義を持ちて、曾て部下の非難を受けたるを聞かず、吉村治三郎の名未だ加州に喧傳せざると雖も、北加州農園の事業中、事業の規模大にして、其信用の鞏固なる彼の如きは、多く其比を見ず。

△八田重康 明治十三年、佐賀縣佐賀市赤松町七十四番地に生る、夙に佐賀縣立中學校を卒業し、後ち東京に出で、日比谷海城學校に入學し之を卒業す、現時籍を神奈川縣三浦郡葉山村字一色に有す、明治三十四年渡米して砂市に上陸し、桑港に來りて國産社に入り、商務に従事する事三年、傍ら英語を修め、後ちサンジョセに至りて、一時桂庵及び洋食店を經營したる事あり、明治四十二年一月ヨロー郡ウードランドに至り、熊本縣人海、久太郎と共同して、ケー、ワイ商會と云へる商店を開業し、食料品及雜貨販賣の事業を爲したりしが、明治四十三年、海と分離し獨立の事業と爲し、八田商會と改め盛に商業に従事す、一ヶ年の賣上壹萬叁千弗以上なりと云へり同年四月妻を迎へ熱心に其家業に勉勵す、ウードランドの同胞社會依て以て便を得る事少からず。

△玉置於兔四郎 和歌山縣海草郡柳賀村の産にして、明治三年十二月生る、明治二十四年の頃、米國軍艦マリアン號の水夫となりて渡米し、間もなく南米智利に革命騒亂の起るや、米國軍艦サ

ンフランシス號の桑港を發する際、之に搭乘して船内の勤務に服する事十三ヶ月間、已にして海上生活を辭し、明治二十六年の頃デビスの葡萄酒に勞働し、更にアボット、ビグス、ナイルス、等の果樹園に二百人の勞働者を入れ、夙に此地方に其名を知らる、後ちチーコーに於て砂糖大根園を經營して巨額の利益を得、現時の事業は、メリスビル市に於ける旅館業及び商店にして其建築物は自己の所有にして、七千五百弗を價す、アボットの果樹園三百五十英町は歩合作にして一ヶ年の費用壹萬弗に上り、總收穫約參萬弗なりとす、常に二十人乃至七十人の勞働者を使用し、他にグレットの地に四百六十英町の果物園を契約して之を經營し、此外に於てエバシチーに於ける無花果箱詰會社の收穫期間は、毎年パーキンハウスに百五十人の勞働者を入れ、年々千餘弗の利益を得、彼れ英語に熟達して常に白人に信用せられ、同胞の之が爲に便を得る事少からず、現にメリスビル市白人の商業會議所及び商業組合の會員及び組合員として、其席に列す、また異數と云はざるべからず。

△津田勇之助 廣島縣安藝郡仁保島村の産にして、明治十四年五月生る、明治三十一年渡米して英領グイクトリヤに上陸し、該地に於て家内の勞働に従事する事一ヶ月、後ち加州に來り、桑港に於て、家内の勞働の傍ら英語を學ぶ事半年、明治三十三年ユバ郡メリスビル地方に至り、農園の勞働に従事し、三十四年果物園五十英町を契約して其事業を經營する事一年、明治三十七年

果樹園八十英町を經營したり、翌三十八年より再び個人的勞働に従事して、各地に奮闘して貯蓄する所少からず、已にして明治四十二年九月、メリスビル市第一街三百二十六番にある黒田某の旅館を、千五百弗にて、買受け三保儀三郎と共同して其營業に従事し、其規模を擴張して更に食料品及雜貨店を開き、之を中國旅館及び中國商店と名け、盛に營業に従事す、現にメリスビル市に於ける信用ある旅館として其名を知らる。

△中村文太郎 廣島縣安佐郡三河村字東の産にして、明治十年生る、明治三十一年布哇に渡航し砂糖園に勞働する事三年半、三十四年桑港に轉航して同地に於て、家内の勞働に従事する事半年後ちユバ郡ホイーランドに來り、農園に勞働する事一年、已にして某白人と契約し一英町拾八弗五拾仙にて、ハップス園二百五十英町の耕作を請負ひ、勞働者數十人を使用し、之を經營する事七ヶ年の久しきに至り、年々利を得る事尠からず、乃ち明治四十一年十一月、メリスビル市オーク街五十八番に家屋を借り、旅館及び商店を開業し、盛に營業に従事す、現にメリスビル日本人社會二三成功者の中に數へらる、弟信次郎は明治三十五年渡米し、各地に勞働して、後ちサクラメント市第三街に於て、理髮店を開業し、貯蓄する事また少からず、明治四十三年より兄の事業に加擔して現時に至れり。

△南出孫助 和歌山縣海草郡西脇野村の産にして、明治七年産る、明治三十年渡米し、バカビルに入りて、農園に勞働する事七年餘、三十八年七月同郷人岩橋嘉一と共同して、皆部商店を譲受けて名を紀陽商會と改め、食料及び雜貨を販賣し、傍らバカビル金融社を起して、同胞社會の便宜を圖り、其利益また尠からず、バカビル日本人會の會計にして、また和歌山縣人會の會計に推さる。

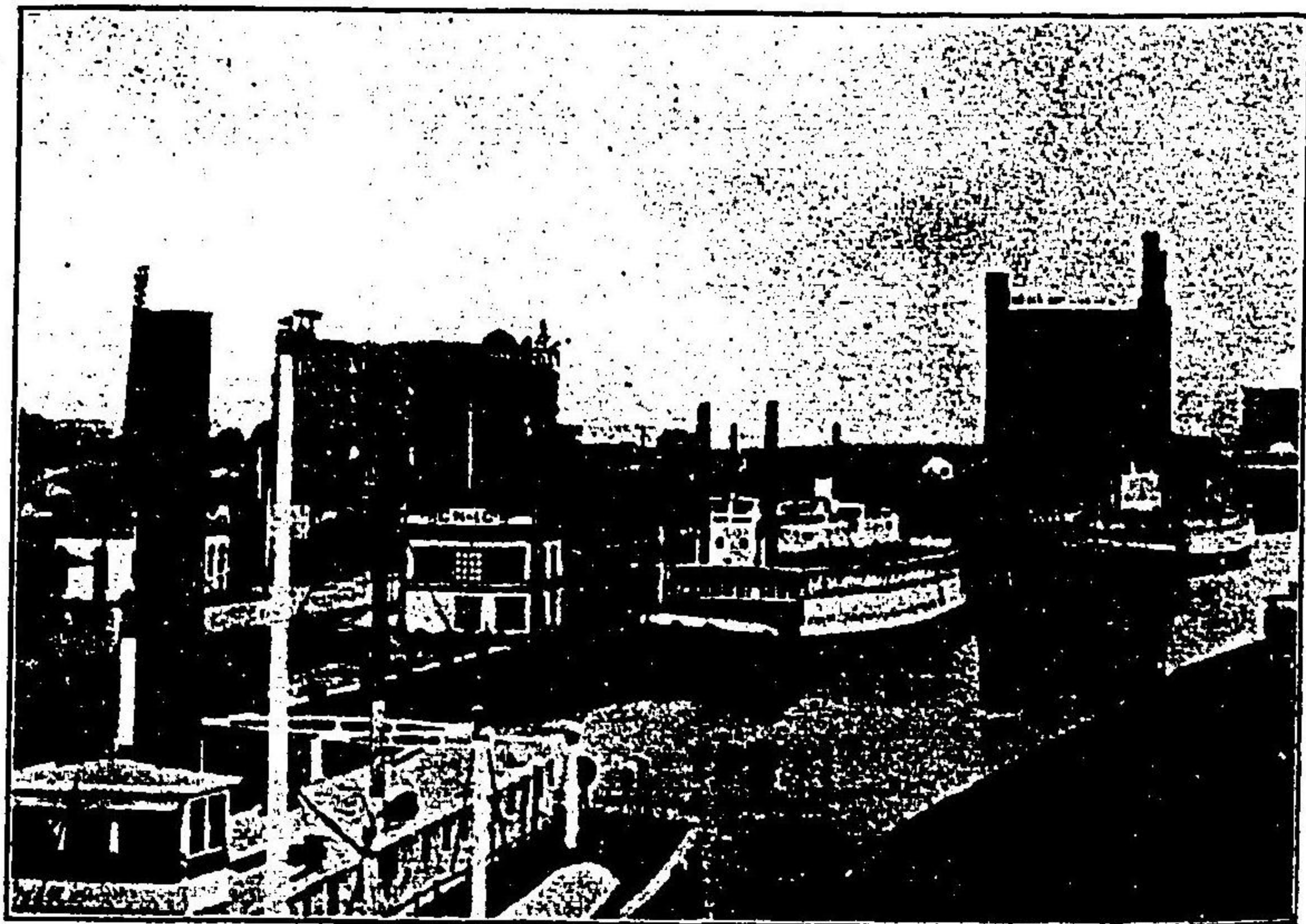
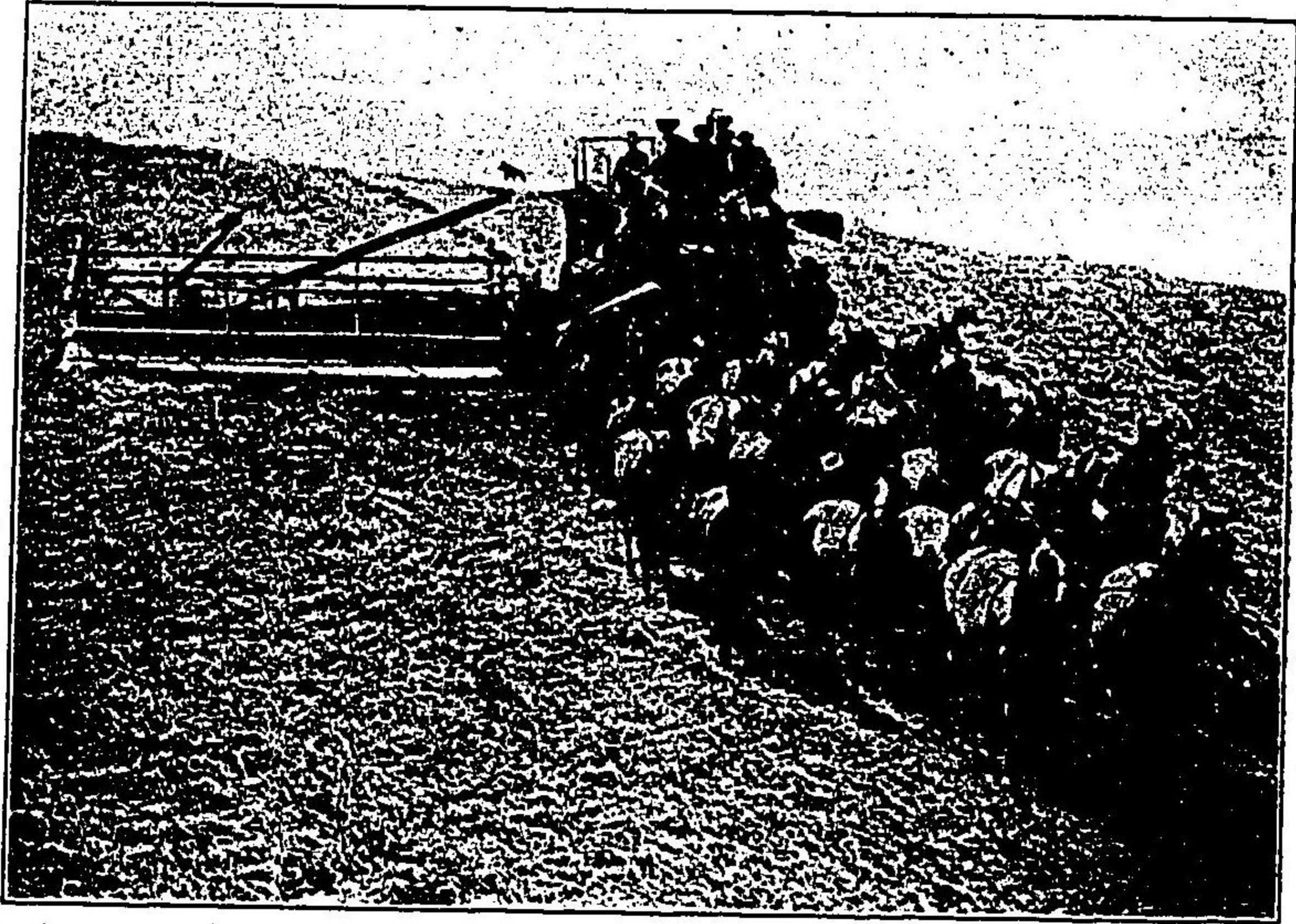
△御前勘太郎 和歌山縣有田郡宮原村の産にして、明治十二年生る、三十六年渡米し、直ちにバカビルの地に入り、果樹園に勞働して貯蓄を積む事少からず、已にして明治四十一年スースンに五十英町の果樹園を經營して三千弗の利益を得、此年一英町叁百弗にてバカビルの地三十五英町を買ひ、現時一年の利益千五百弗内外に上れり、バカビルに於ける果樹園の所有者として信用せらる。

第八章 サンオーキン平原の踏査

第一節 サンオーキン平原の偉觀シラネバタの雪景を記す

加州中、最も廣大なる地域を有するものは、サンオーキン平原にして、其地形大陸的の眞面目を現出し、茫々たる平野、所々に都邑部落あるのみにして、山岳の奇趣を呈するなく、河流の風景を助くるなく、ローダイの園家閑雅なりと雖ども、スタクトンの街路整然たりと雖ども、はた、

景光の穫收農大原平ンキーオンサ

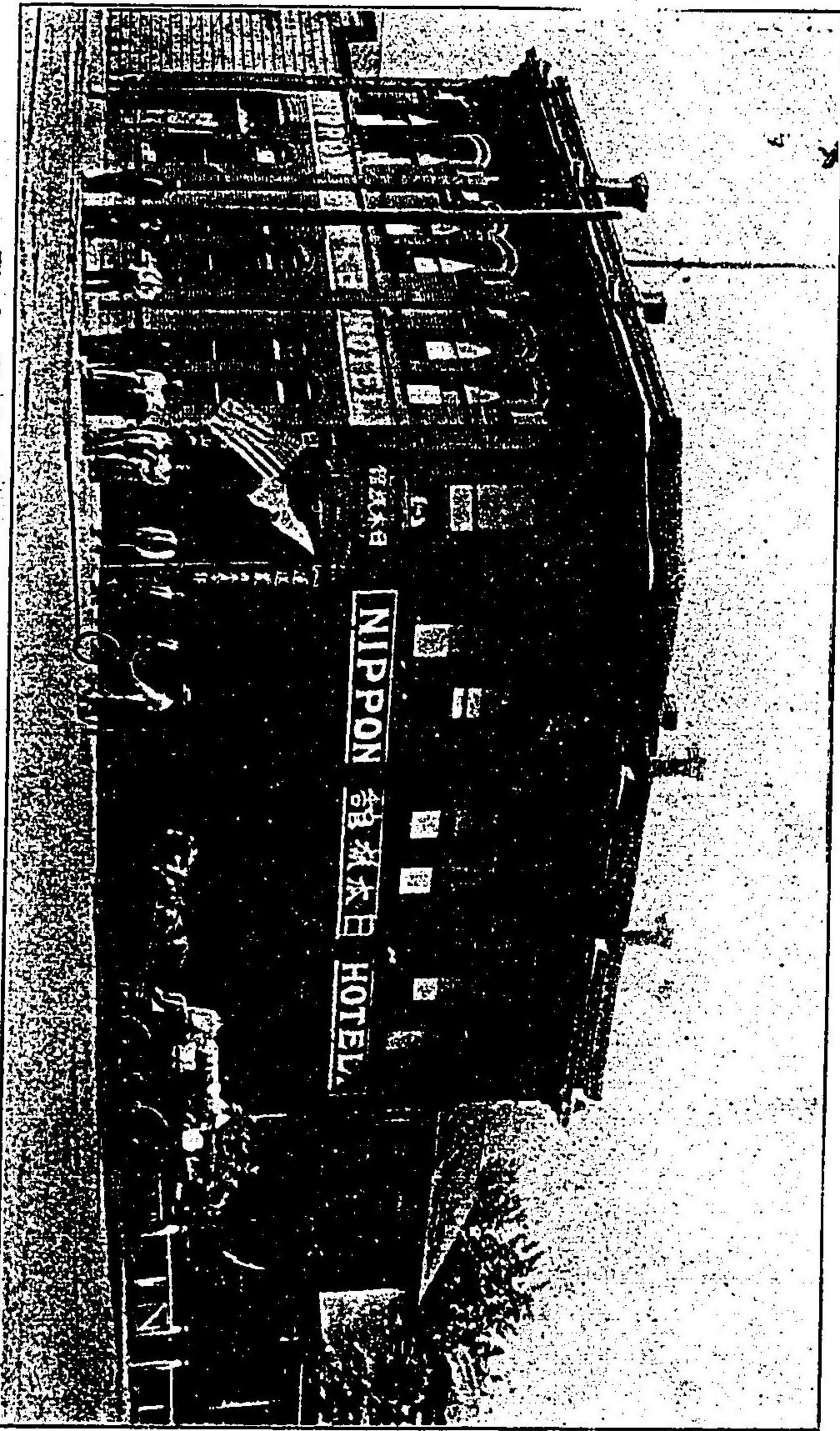


景風の所留繫船市ントクタス

フレスノの都市、平原中の首府にして、人家稠密、廣大なる公園、壯麗なる官衙、完美なる病院を有し、幾多の葡萄園其附近に連り、日本人市街の建築、其宏入驚くべきものありと雖も、若くは、ツラレ、バイセリヤ、ハンホードの都市、皆繁華にして、壯邸佳宅に富むと雖も、ベカスホルドの市街活気に満ち、石腦油の産出夥しと雖も、要するに、此等の市街地たる、四方山なく河なく、溪流なく、阪路なく、鳥聲の樹間に耳を喜ばすなく、蟲語の草裡に詩情を惹くものなく、只だ武藏野の月の、艸より出で、艸に入るばかりの、端しなき曠野の、無味單調なるあるのみ、然れども、唯り此大平野に對して無限の趣味を添ふるもの、東方遙かに列る白雪の連峰、シラチバダの偉觀あるのみ。

彼は、朝暉夕陽、雲に隠れ、霞に現はれて、時には莊嚴に、時には幽美に、時には梨花の白さど其妍を競ひ、時には桃李の紅ど其美を戦はし、時には柳葉馬背の彼方に、時には青菜滴らむとする葡萄園の端より、彼は常に開が崇高なる面貌を、天の一方に現はして、種々の光景を描出し以て此無趣味なる平野に住むものをして、其單調の苦悶を忘れしむるなり。

炎帝威を逞ふして草木枯死せんとし、葡萄園の土塊燃ゆるが如きの時、多くの農夫は、遙かに其白雪を雲際に望みて、涼風の腋下に生ずるを覺ゆるなり、熾如熱關の巷を去りて、郊外に散策するものは、遙かに落暉に映する紫霞白雪の壯容を見るや、筈を留めて其崇高に打たれざるはな



那 大 宮 内 三 生 館 奇 旅 本 二 市 ヲ タ タ ス

く、而かも此一帶の雪山は、空氣の變化に因りて、時には近く見え、時には遠く見え、其形象常に一ならざるなり、彼れは、其懷裡に、レーキタホーの湖面、鏡の如きを湛え、ヨセミタの洞溪幾千呎の斷崖絶壁を蔵し、マリボサの附近、高さ三百呎、周圍九十三呎の巨木を育し、曾ては世界の金相場を狂はせたるマセドの金鑛を生じ、开が齎々たる深林には、カリホルニアライオンを棲まはし、开が潺湲たる溪水には、魚族のツラウトを産せしむ、實にシラネバダの連峯は、加州のアルプスと稱せられ、葡萄橄欖無花果の實りて、乳の流るゝカリホルニヤは、歐洲の南岸伊太利の野に比せらるゝも宜なり、嗚呼此茫茫々たる曠野、配するに壯絶の山景を以てするものまた造化の恩恵におらずや、記者の此地方を踏査するや、一日バイセリヤを経てレッドバンクの小部落に至り、途中此山景の壯嚴なるに驚きたる事あり、今其紀行の一節を採りて、讀者の參考に資せん。

バイセリヤ紀行

明治四十二年四月一日、午後三時三十分余布市を發し、流車にてバイセリヤに向ふ、時恰もサンオーキン平原の春まさに老けて、野外の桃李已に梢を謝し、梨花の所々に白きを見る、已にして平野の溷然として開け、白雪の山脈遙に現はるゝあり、是れシラネバダの連山にして、

中央加州に於ける一大壯觀たるものなり、フアラー及びセルマの附近、果樹園の廣大なるもの多く、ギングスバークの驛を過る頃、牧野相連り、寸馬豆牛宛然畫裡の光景を爲す、山地に近くに従ひ、カットンツリーの老樹所々に林を爲し、林外遙かに雪山の品々たるあり、之れ巖に見たる連山の一部なり、午後六時バイセリヤに着し此夜隅田旅館に一泊す、バイセリヤの東十哩にして、レッドバンクと云へる地あり、シラネバダの高峰、ホワイトネーの雪景を見るに適すと云へり、乃ちバイセリヤを發して、レッドバンクに向ふ、時に二日午前九時なり、此日天氣晴朗、平原初夏の光景頗る快潤なり、朝陽未だ威を恣にせずして、野邊の柳樹、翠綠滴らむとし、馬蹄輕塵を起して、野禽の諧々たるを聞く、昨日車窓より見たるシラネバダの雪景、今日は我等の前面に横はりて、其開展の距離長さ百餘哩にも達すべきか、前面の高峰、巍巍として天半に聳へ、雄峻奇拔、嶮々として亂れ、峭々として競ふ、空は碧瑠璃の玲瓏たるが如く、麓は青鶯の絹の如く變遷して距離の近づくに従ひ、漸次に其美觀と壯嚴とを加へ來り、山脈の南に走る所、テハチエビの峻峰疊々として相重り、モハへ砂漠の彼方、朦朧たる怪雲天の一方を鎖して、白魔の面を隠したるが如きあり、山脈の北に走るものは、高低起伏參差として、嶮々たる鎖峰、悉く雪を冠せざるなく、山勢遠くネバダ州の彼方に走りて眼光の終に達すべくもあらず、此偉大なる白色の長壁は、蜿蜒中加の南東を限りて、宇内の奇觀を爲し見る

ものをして憧憬恍惚たらしむ、我等の故國は只だ四面環海の島國なり、風光麗美、山河の景致に富むと雖も、悠遠壯大の風趣、遂に大陸の山景に及ぶべくもあらず、日本山水の美は、奇石怪岩、稜々致を異にし、青松翠嵐を纏ひ、紅楓錦を織る所にあり、米國の風景は、遠距離の間に太陽の光線を變化し、造化の丹青を以て、大氣を色彩するにあり、百哩の曠原、遙發濃翠を凝して、大氣の鍾まる所、蒼穹の色に和し、白雪の巨峰、優然として、其間に浮動す、其幽渾偉大の光景、到底我國の風景と同一の談に非ず、嗚呼此壯大なる美觀は人文五千年の間、造化が吾人に示さざりし秘密なりしなり、此自然美は、曾て歐洲古代詩人の筆にも歌はれざりしなり、然れども氣運は、此大陸の秘密を開放して、加州の地西歐東亞、各種民族の來集するところの如し、想ふに今後幾年の後、此自然美は、遂に新大陸幾多詩人の爲めに歌はるゝに至るべく、彼の希臘、羅馬の盛時が、此太平洋沿岸に繰返さるゝ時に於て、シラネバダの山靈は、更に其壯嚴の神氣を添ふるに至らむ、余は恍惚として此等の興感に魔せられたる間に、馬車は深林の一部に來りぬ、老樹枝を交へ、静寂の氣人に迫るを覺ゆ、已にして林を出づれば、一の人家あり、庭前の梨花、雪山の遠景を掠めて、色殊に鮮麗なるを覺ゆ、山の延長は、我等の近づくと共に、大に眼界を局限せられ、其長線形なりしもの、漸次に壘層形を爲して、積雪の日光に映射する状態、爛々輝々、恰も白色の水晶を粉碎して、天の一方に堆積せるが如く、光彩

陸離、眼之が爲めに眩せんぞす。余某氏に問ふて曰く、白晝の雪峰斯の如く美なり、只だ月夜の光景は如何と、彼れ答へて曰く、若し夫れ、明月山を離れて積雪の之に映射するを見んか、凄愴の美觀眞に言ふべからざるものあり、百哩の原頭、高峰銀色を輝して、夜色沈々、群狼月に吼ゆるの時、潺々たる溪流私語する如く、深林の鳥聲夜の寂寞を感せしむと、吁千里の孤客半宵月を仰いで立ち、茫々たる山野、夜烟の糝糊たるを觀んか、高山の神秘、胸裡に來往して詩情の湧然たるものあらむと、已にして、レッドバンクに着す、此日某氏のキャンプを訪ひ、附近の山野を跋涉す、ツラレ郡の沃野、周圍に開展して、鬱々たる柑園あり、茫々たる牧野あり天遠くして雲低く、近村の農家僅かに其間を點綴するあるのみ、草原に坐して夕陽の西に沈むを見、歸りて某氏のキャンプに一泊す、此夜月なくして山上の美觀を見る事能はず、只だ後屋の水流、潺湲として客枕轉た清きを覺ゆるのみ、三日午前バイセリヤに出で、午後の列車を以て布市の旅館に歸る。

第二節 サンオーキン平原の地理及び産業

サンオーキン平原は、加州全面積の五分の一を占有し、シラネバダ山脈と、コースト山脈の間に開展して一の長皿形を爲し、サクラメント河、其下部を洗ひ、テハチエビの山麓其頭部を推し、

延長二百五十哩、幅百三十哩に亘り、其面積三萬二千五百平方哩にして、此平原の廣袤、聯邦中ニユゼルシー、マサチューセツツ、ニューハムプシヤ、ベルモント州と伯仲し、カーン、キングス、フレズノ、マデラ、マーシド、マリボサ、トラムネ、カラベラス、アマドー、スタニスラウス、サンオーキンの十二郡を包容す。

平原内、二の排水流域あり、一はサンジョークイン河の流域にして、一はツラレの大湖水なりとす、サンジョークイン河は、シラネバダ、マリボサ、マデラ及びフレズノ郡の諸水を集め、其東部の支流は、ヨセミテの溪流を吸収し、北流してスタクトン市の西北より、西に屈曲して桑港灣に流入し、ツラレ湖には、キングス、カウエ、ツラレ、カーンの四流を吸収して、其排水路をサンオーキン河に開通せり。

此大平原地は、頗る近時の開發に屬し、之を他の地方に比して人口甚だ稀薄なり、然れども平原の富源は殆んど無量にして、鑛物には、金、銀、銅、鐵、苦土、花崗石、ペトロリウム等を産し、農産物には葡萄、無花果、蜜柑、檸檬、橄欖、アツブリカット、桃、ブルー、梨、林檎、柘榴、ニクタリン等の外、穀類及アルナル等あり。

サンオーキン河の流域及びツラレ湖の附近は、赤黒の土壤、泥濕を帯び、土地極めて膏腴なり、山麓地は、平地よりも數百呎に至る迄、之を耕作地と爲すを得べく、降霜なき地には蜜柑及び檸檬

標を栽培す、至る所灌漑の便に富み、秋冬の降雨、一般の土壤を濕すのみならず、シラネバダ山上の積雪は、僅か二ヶ月を除くの外、殆んど消ゆる事なく、春夏の期節雪水の溶解して溪流を下り、湖水、河流に浸漸するもの、また頗る農家の恩恵たらずんば非ず、特に近時、唧筒を設置して地下より水を吸上せしむるもの多く、更に人工的灌漑事業の盛大を見るに至れり、農家の供水、溝渠よりするものは、一ヶ年毎英町六拾貳仙五厘にして、唧筒式の供水は、之より少しく高價なり、農園業の外、山地は森林に富みて材木及び薪炭を産出し、草野の未だ開墾せられざる地には、牛馬羊豚の牧業頗る盛なり、全平原中、耕地の面積一千萬英町にして、此内果物園五百二十五萬四千二百二十九英町、葡萄園十四萬四千五百〇九十七英町、其産出額は地方の消費額を除きて、千六百五拾貳萬壹千四百拾六弗に上り、酪農業の産額六百六拾參萬七千七百八拾貳弗、獸畜の産額貳千貳百八拾六萬弗、穀類の産額凡そ貳千八百萬弗と稱す、乃ち是等の産額を合計すれば、七千四百〇壹萬八千九百貳拾八弗にして、此外に尙ほ、麥、秣草、家禽、砂糖大根、石腦油等巨額の産出物は、一々枚舉に遑わらず。

日本人の發展地は、フランスノ市を中心として、其發達極めて熾盛なり、其他ツラレ、バイセリヤ、ベカスフィールド、スタクトン、ローダイ、の如き皆競ふて發達し、大和殖民地は土地の撰定を誤りたるを以て、其發達見るに足るものなしと雖も、また同胞の所有地廣大ならずとせず。

附一 國立公園ヨセミテの絶勝

フランスノ及ビスタクトンの中間、マセド市の東百哩にして、シラネバダの山中、世界稀有の奇景あり、乃ち北米合衆國政府の直接に管理せる、ヨセミテ公園にして、其地域長さ七十三哩、幅一哩乃至一哩半に亘り、其景勝の壯大絶美、アリゾナ州のグランドカンジョンと及び稱せられ、シラネバダ山脈中、レーキタホーと共に、越外の仙臺たり、米國の旅行記者は、此絶景に付て語て曰く、「若し世界中の名勝奇地を探りたるものにして、ヨセミテの山溪を見ずんば、彼は其經歷の一資格を缺けるものなり、此山溪には、彼等の曾て經驗せざる驚駭と、幻惑さるべき壯大と夢想せざる美觀あり、彼の目一たび之に觸れなば、彼等は必ず、其詩囊を豊にし、歸來其旅行中の物語に、特種の美彩を添ふるを得んと」。

白人として最初此地を發見せるは、千八百四十九年の冬、ドクトル、バンチル、舊時の熊溪より、エルカピテンの山峰を認めたるを以て、遙かに朦朧たる巨岩の雲に聳ゆる圓柱の如きを觀て、驚駭と崇畏の感に打たれたりといへり、其後千八百五十一年、彼はマリボサ歩兵大隊の任務を帯びて、騎馬印度人の一團を追跡する途中、ニュー、インスピレーションポイントの上部、ビューチチユード山の嶠岩塊々天を衝くの壯觀を見て、益々此地方の異觀に驚きたるものゝ如し、爾後此深溪幽境の探検に従ふもの多く、以て現時の設備を見るに至れり、此奇勝

に接したるものは、萬口一様に語て曰く「來りて此地の實景に接したるもの、外、誰れか吾等が仰視の瞬間に於ける驚嘆の情を想像する事を得んや」と、ヨセミテ鐵道は、マセド驛より東八十三哩の間に敷設せらる、汽車のマセド驛を發して三十哩を進みたる頃より、山間の清流、水底の砂礫を激ふるばかりに澄み、老樹根を岩上に托して、奇景應接に違わらず、金鑛精煉所あり、川岸の人家あり、水上の鐵橋あり、水力電氣の發電所あり、イルポーターは、乃ち山溪の入口にして、巨岩兩側に聳えて頭上に合す、之を穹門巖といふ、之より少しく隔りて、巍々たる巖峰天を摩して突立するもの、是れ乃ち大將巖にして、之より溪流岩に激して、兩山の間を流れ、絶壁之を擁して天際より垂直線を爲し、其狀恰も屏風を列ねたるが如し、崖壁の麓は幾多の針葉樹、森々として枝を交へ、平地には、千紫萬紅、綠野を點綴し、粗岩の荆棘に埋もれ、灰色の砂原、荒草の馬脚を没するあり、林中斧斤を加へたる事なく、老樹の高きもの二百呎乃至百五十呎のものあり、壺中の別天地は、其廣さ三千餘エーカーにして、周圍に駢列せる巖峰、高きは溪地を抜く事五千呎より、低きも三千呎を下らず、溪地の中央にセンチチルホテルあり、遊覽者の宿泊すべき大旅館にして、内に音楽室、舞踏室あり、電燈の裝置、温室蒸氣管の如き、米國普通の旅館に備はるべきもの、完備せざるはなく、客馬車及乗馬の準備あり、遊覽者は、馬にて絶壁を迂迴攀登して、峻峰の上に到る事を得べし、絶壁の上は、山嶽重

疊、起伏して波瀾の如く、遠山近岳、雲表に聳えて白雪を冠し、雪の溶けたるもの、巨瀑となりて、直下數千丈、素簾天半より懸るが如し、グレンシャポイントといへる巨峰は、絶壁の懸下三千二百三十四呎、其絶頂に扁平の巨岩を載せ、岩上に數人を坐せしむるに足れり、遊覽者の岩上に匍匐して眼下の深溪を瞰る事を得べし、而かも神悸動して膚粟を生じ、眩暈して久しく見るに堪えず、連峰の中、大將巖は溪地を抜く事三千三百呎、寺院岳は二千六百六十呎、三兄弟山は三千八百三十呎、哨兵山は三千〇五十九呎、崖壁に三千呎のセンチチル瀑布あり、哨兵塔は四千四百四十二呎、半塔岩は、破碎岩面の直下二千呎、全高四千八百呎、雲臺山は六千五百呎あり、瀑布の大なる物の中、面帕瀑は、花嫁の白き面帕を被りて立てるが如く、其高さ九百呎、ヨセミテ瀑は、中央より瀑水岩背に隠れて、上下二段の瀑を爲し、上部の高さ六百呎、下部の高さ四百呎あり、中斷の部分を算入せば、全部二千六百呎に達す、其他に三百五十呎の少年瀑七百呎のネバダ瀑あり、瀑勢の最も盛なるは四月より五月の間にして、山中の風景を賞するには、六月七月の頃を佳なりといへり、此深山幽溪の探勝は、馬を以てして約五日を費すべく、而かも極めて概略の視察に過ぎず、若し徒歩して之を巡迴せば、優に數ヶ月を要するならむといへり。

第三節 サンオーキン郡日本人發展地の調査

サンオーキン郡は、サンオーキン平原の下部に位置し、南はスタニスラウス、北はサクラメント東はカラベラス、西はコントラコスタ及びアラメダの諸郡に接し、郡内の人口五萬に上り、南太平洋鐵道及びサンタフェ鐵道之を貫通し、サンオーキン河及び、其支流舟楫の便を通じ、管内の航路延長四百哩にして、汽車鐵道の外、五十哩の電車鐵道あり、郡内八十七萬三千六百英町の地面を包有し、農業、牧畜、牛乳、等盛にして、金及び其他の礦物並に、建築用の石材等を産す、首都スタクトン市を中心として、製造業最も盛なり。

郡内の地質は、沖積地の黒質壤土にして、馬鈴薯、豆及び玉葱に適する所多し、此地方の農園は面積に比例して收穫の多大なるを以て稱せらる、今五種の農産物に付て、其作地面積と收穫物の實例を擧れば左の如し。

馬鈴薯	一七、五〇〇英町	二〇、一八七、五〇〇弗
葡萄	一八、三八五英町	一、九二〇、〇〇〇弗
玉葱	一、三二五英町	六四三、〇〇〇弗
豆	六、二一〇英町	四五〇、〇〇〇弗

果物

二一、四〇〇英町

四〇八、〇〇〇弗

計

六三、八一〇英町

五、七〇八、五〇〇弗

郡内に於ける、重要農産物壹ヶ年の總收入は、壹千貳百九拾參萬千四百五拾八弗にして、平均一英町に産する農産物の價格に付て、其十種を擧ぐれば左の如し。

アルハルハ	三五、〇〇	豆	七二、四五	桃	九〇、二五
橄欖	九一、三一	葡萄	一〇四、四三	馬鈴薯	一二四、九三
アスパラガス	一三二、〇〇	ブルーム	一四二、四〇	玉葱	四七八、七四
櫻	實 五四五、〇〇				

各種製造所の労働者は、男女凡て三千二百四十二人にして、製造物としては麥粉、牛酪、鑛詰、製肉、麵粉、麵類、酸漬、橄欖等を主とし、其他には農業機械、建築用諸材料、諸種飲料、衣服類、等を含有し其産額、壹千參百四拾貳萬貳千四百九拾九弗なり。

(以上の諸數皆千九百九年末の調査に依る)

スタクトン市 サンオーキン郡の首都にして、人口二萬五千、櫻府より四十八哩を距つ、桑港よりの水路、八十七哩、頗る交通の便に富み、汽車、電車、モーターカーの往復するあり、河流は船を通すべく、桑港、王府、アラメダ、サクラメントの間交通極めて便なり、附近の地東に

オクデール、エスコランあり、西にマンチエーカー、モデストあり、北にローダイあり、南にブラダホーあり、市街整然、商業及び、製造業最も盛にして、學校、圖書館、寺院等の宏壯なるもの多く、庭園の優雅なるものもた少からず、此地は加州に於ける工業地にして、市より四十五哩を距てたる、モクレン河の水を利用して、水力電氣を起し、之を各種の工場に用ゆ、此會社の動力一萬五千馬力なり、農具、器械、毛織物、皮革、麥粉、氷、麥酒、及び葡萄酒、スターチ、橄欖油、牛酪、麵類、啤酒、風車、客馬車、手袋、石鹼、銅類、巻煙草、ギヤスリン、等皆電力の充分なるを以て、此地に於て製造せらる。

此地は明治三十二年の頃、日本人の在住者僅かに三十人内外に過ぎず、馬場小三郎、宮村猪平等其當時サンタファイー鐵道會社に、労働者を供給し、事務所を市内に設けたるもの、是れ乃ち日本人社會の濫觴にして、爾後漸次に發達して今日に至れり、現時市内の營業者としては、新聞支社三、醫院二、旅館六、運送店四、商店一七、洗濯所四、料理店一〇、玉突場五、理髮店四、湯屋一、金融社一、寫真師一、洋服店三、射的場一、家屋掃除業一あり。

須市日本人會は、明治三十九年十月、始めて之を組織し、會長に、赤羽亥之助、副會長に林甚之丞を撰舉せり、其他の團體事業には、須市佛教會、曙光會、日本俱樂部あり、病院には立石病院及び須市醫院あり。

「ホルト」須市桑港間サンタファイー鐵道線路に添へる地にして、ラピス、ニューデヨンス、デヨンス、リーバイ等を總稱し、營業者として日本人の旅館二、商店二あり、農園は玉葱、葱、馬鈴薯、アスパラガス、セロリ等を産出す、日本人の土地所有者二名、所有地四十五英町、現金借地者四名、借地七百五十英町あり、兵庫縣人小田熊次、愛媛縣人今田鐵三、廣島縣人馬場友次、福岡縣人山口經雄等其事業の大なるものなり、始め明治三十一年頃、福岡縣人中島秀三郎、ユニオン島にて八百英町の農作を作し、其翌年峰島義一、中島と、共同作を爲して失敗に歸し、熊本縣人吉村某、デヨンストラックの地、八十英町を借地し、參千弗の巨利を得たる事あり、此より日本人の此地方に着目するもの多く、明治三十三年、小田熊治グイクトリヤ島に入り、三十四年馬場某等ニューデヨンスに於て、二百英町の耕作を爲すあり、斯くて近時漸く日本人の土着的勢力を扶殖するに至り、間々成功者を生ず、現に明治四十二年には合田鐵藏、數千弗の利益を得、其配下に労働せし者七人、各千弗の利益を得、また清水某大下某の共同事業にて、大利益を得、五千弗を投じて土地を購買したる如きは、其内の著しきものとす、此地方は多くの河魚を産し、ストライパス及びブラックパスあり、三四呎のもの多く網または釣にて之を捕獲す。

「ニューデヨンス」ホルトの附近にして、今より九年前に開拓せり、現に牛島の借地二千英町あり。

『デヨーンズ』 初めは一の蒲地なりしが、十一年前より開拓せるものなり、此地日本人の農家五名にして、内現金借地者三名、借地千二十英町、歩合耕作者一名、作地百五十英町あり、就中熊本縣人相良又藏の現金借地三百英町を大なりとす。

『リーバイ』 明治四十一年まで、日本人二百五十英町の借地を爲したるも、四十二年より白人の地主之を自作するに至り、現時只該農園に同胞の勞働者百人内外を使用せるのみ。

『オーワード』 デヨーンズと前後して開拓せる地方にして、此地日本人の農家四組、此内現金借地者一名、借地百五十英町、歩合作者二名、作地千五百英町あり、松重林檎の千二百英町は、其中の大なるものと爲す。

『ヴィクトリア島』 日本人の農家二名、作地面積千四百英町あり、松本萬龜の現金借地千二百英町を大なるものとす、他に一名の歩合作農家あり。

『ユニオン島』 日本人の農業者四名にして、内現金借地三名、借地四百拾英町、歩合作者一名、作地二百英町あり、果物、豆、葡萄等を耕作す、此邊の地借地料、一英町拾弗乃至拾五弗にしてセロリ、玉葱、馬鈴薯、豆等を主とす、二三年以來發達殊に著しく、今より十年前には、此附近の地悉く蒲生地ならざるはなく、而も今や全く肥沃の耕作地と化し、現に四十英町の地五千弗を以て賣買せられしものあり、以て一般の地價を類推すべし、然れども大抵、大會社にて此地方

を所有し、日本人の個人的に之を購買する事は、現時に於ては不可能なるが如し。

『ナイトン』 熊本縣人津田又四郎の歩合耕作地四百英町あり、馬鈴薯を植ゆ。

『オークレー』 愛知縣人堀田與三郎歩合耕作地千六百六十英町あり、アスパラガス及び果物等を植ゆ。

『アンテオーク』 小市街地にして、別に日本人農家を見ず、伊達商店及び廣島屋旅館あり。

『ブラダホー島』 高知縣人酒井某の、現金借地百八十英町あり、玉葱を耕作す、他に歩合作農家五名あり、皆アスパラガス及びセロリを耕作す。

『フランクス島』 愛知縣人伊藤倉吉の現金借地四百英町の外、他に五名の農家あり、作地千百五十英町、玉葱、馬鈴薯等を耕作せり。

『リンジトラクト』 牛島護爾の借地八千英町あり、馬鈴薯、玉葱、へーを耕作す、詳細は馬鈴薯

王、牛島の事業に記載せり、其他に山口縣人廣中新助の作地二百英町あり、他に日野某の二百英町、木村某の五十英町あり、之等は皆現金借地と爲す、歩合作農家として山口縣人好見某の馬鈴薯園二百英町あり。

『ライトトラクト』 熊本縣人松本某の歩合作地、百五十英町あり、馬鈴薯を耕作す。

『エルムウッドトラクト』 熊本縣人野口要作の現金借地二百英町、和歌山縣人中川喬の歩合作地

三百英町あり、皆な豆園なりとす。

「オークデール」 山口縣人安達周次郎の歩合借地として、果物園八十英町あるのみ、他に日本人の農家を見ず。

「エスカロン」 歩合作者三名、作地七百英町あり、凡て葡萄園とす。

「モンテレカ」 廣島縣人島川兼次郎の歩合作地七百英町あり、水瓜を作れり。

「モテスト」 スタクトン市の西にある小市街地にして、日本人の市街業者として、セテー洋食店、九州屋旅館、モデスト旅館、日の出洗濯所あり。

ローダイ スタクトン市の北、サンジョクイン平原の南に盡きんとする所、モクレン河沿岸の部分、之をローダイ及びアキャンポの地方と爲す、サーデン、ニューホープ、ウードブリツヂ、クレメントの日本人、別に團體を組織して、樓亞日本人會と稱す、此邊の土地高燥にして、葡萄及び果物を産する事多く、また近時の發達に屬せり、ローダイは其中の主邑にして、スタクトンを距る事北十二哩、櫻府の南四十八哩、南太平洋鐵道、西太平洋鐵道の便あり、氣候布市、櫻府の間にあり、市街は今より八年前の發達にして、現時數百戸の人家あり、街路整頓し、停車場の附近にミツションアーチを建て、美なる庭園を有す、市内營業者としては、醫院一、旅館五、食料品及雜貨店四、時計店一、自轉車店一、藥種屋一、玉突場三、理髮店二、洗濯所二、料理店三

湯屋三あり。

樓亞日本人會は、會長に石井曉を推し、會計に益井清次郎、會計監査員に牛附胖一、小杉九三郎、平砂唯次を撰定し、地方委員としては、アキャンポに伊藤富吉、吉田嘉十郎、ウードブリツヂに久保川方一、クレメントに沖常太郎あり、他に二十五名の評議員あり、會員三百五十名、基本金五百弗を有し、會の事業として日本人幼稚園を經營す、附近に葡萄園多く、其產出額近時頗る増加せり、然れども此地の葡萄は、所謂卓子葡萄なるものにして、生にて東部に包送するか若しくは葡萄酒の材料に供するものなり、近時また苜蓿を耕作するもの少からず、地方に於ける空地の代價一英町、七拾五弗乃至百弗にして、クレメントには桃及び其他の果物を産し、サーデン、ニューホープ、ウードブリツヂには、セロリ、砂糖大根及び野菜等を産す、日本人にして土地を所有するもの左の如し。

林 甚之丞 (北海道) 四五英町 (葡萄)

木谷春一 (廣島縣)

安田鐵次郎 (京都府) 二〇英町 (同)

吉田信一 (廣島縣)

加藤廣次 (廣島縣) 二〇英町 (同)

池田留吉 (廣島縣) 二〇英町 (葡萄)

長谷川今造 (廣島縣)

谷口久吉 (廣島縣)

森岡久吉 (山口縣)

廣中新助 (山口縣)

六〇英町 (同)

益井松之助 (廣島縣) 一三英町 (葡萄、野菜、苺)

坂部多三郎 (埼玉縣) 五英町 (葡萄)

現金借地者は、ローダイを中心とし、附近に散在するもの三十六名、其借地面積實に千三百四十五

英町あり、就中岡山縣人松岡健太の葡萄園百八十八英町、和歌山縣人山崎某の砂糖大根園三百英

町を大なるものとす、大抵葡萄、蔬菜、苗木等を栽培するもの多く、また川下地方に至りては、

馬鈴薯、豆等を耕作するもの多し、歩合耕作者は六名、此作地四百四十四英町、受自作地者九名、

此作地千四百二英町あり。

此地初めは、無頼の徒、黨を結びて横暴を極めたりしが、有志の士力を其撲滅に盡し、明治三十

八年の頃より、其風紀を一新するに至れり。

『ウードブリツヂ』 ローダイの西六哩の所にありて鐵道の便を有し、日本人労働者多くして、キ

ヤンプの數二十あり、同胞の土地所有者及び、借地耕作者なし、此地方日本人の在住するもの平
均三百人内外なりと云ふ、久保川方一、平川才次郎等労働受負業者の大なるものとす。

『ニューホープ』 ローダイの西北にあり、西太平洋鐵道の貫通せる地にして、モークレン河に臨
みたる小都邑なり、土地低くして、セロリを産出す、日本人の労働するもの少からず、現時七ヶ
所のキャンブあり、同胞の借地耕作者としては、貴下太郎、飯田與一の共同にて、百六十英町の
セロリ園を經營するもののみ。

『サートン』 ニューホープと類似せる地にして、ローダイの北、ニューホープと接近す、同胞の
居住せるもの、大抵借地農家にして、鹽谷高貞の三百英町は、其中の大なるものにして、他に五
六人の借地耕作者あり。

『クレメント』 ローダイの東十哩の所にあり、南太平洋鐵道の支線、パーレースプリングに達す
る線路に添ひたる地にして、日本人の在住者百二十三名、労働者のキャンブ三ヶ所あり、現金借
地者としては、廣島縣人沖常太郎經營の二百四十英町あり、歩合耕作者に西村常太郎、西村儀三
郎等あり、此地近時砂糖大根園の開かるゝもの、また少からず。

『アキヤンボ』 ローダイの北三四哩の所に位置し、南太平洋鐵道に添ひ、此地方に於て、日本人
の土地所有者多き地と稱せらる、未だ同胞の旅館及び商店を開業する者なし、葡萄の産地なりし

が、近時砂糖大根園を経営するもの多きに至れり、土地所有者左の如し。

清金 静太郎(廣島縣) 二〇英町(葡萄) 寺田 豊吉(廣島縣) 一〇英町(葡萄)
龜井 藤彌(愛媛縣) 一〇英町(葡萄) 綿貫 兼吉(廣島縣) 一五英町(同)
中川 要吉(廣島縣) 一〇英町(桃) 源 又吉(石川縣) 二〇英町(同)
土屋 留吉(千葉縣) 二〇英町(葡萄) 脇阪 左内右衛門(廣島縣) 二〇英町(同)
富田 常太郎(和歌山縣) 二〇英町(葡萄) 株内 吉太郎(和歌山縣) 六〇英町(同)
山内 徳太郎(愛知縣) 二〇英町(葡萄)
此地を中心として、日本人の現金借地者三十七名、此借地千五百八十九英町あり、歩合耕作者九名、此作地三百四十英町、受負耕作者十二名、此作地千六百英町あり。
「ゴールト」アキャンボの北に接し、エスピー鐵道線路に添へり、日本人の此地に勞働するもの百二十三人を下らす。

アマダ郡及びカラマラス郡の地方は、樞亞日本人會の範圍に屬すれども、兩郡に散在する日本人労働者の數、僅に七八十に過ぎずして、未だ日本人發展地と稱すべからず

附 牛島馬鈴薯王の事業

米國に於ける日本人社會、其發達日尙は淺きに拘らず、同胞の事業見るべきもの少からず、然

れども、馬鈴薯王牛島謹爾の事業の如きは、眞に其巨擘にして、在米農園業者の王冠を戴くべきものたり、彼の馬鈴薯栽培事業に於ける、米人もまた其規模の大なるに驚き、其産出物は、常に米國馬鈴薯の市場を左右するに至れり、米人の彼を自して馬鈴薯王と稱するもの固より偶然に非ず、現時彼の耕作地はリンデトラツキに四千英町、ニュージョンズに二千五百英町、フランクストラツクに一千英町、ポーランドトラツクに四千英町、サージエントトラツクに、八千英町、ライトトラツクに五百英町、其合計實に貳萬英町にして、農園に使用せる馬匹三百四十二頭、農園の人夫日本人、支那人、白人、比律賓人を合して、凡そ六百人を使用し、一ヶ年の借地料毎英町拾五弗乃至貳拾弗、平均拾七弗五拾仙として、總計參拾五萬弗に上り、消費する所の馬糧、一頭一日七拾五仙とせば、一日にして、貳百五拾六弗五拾仙、一ヶ年九萬貳千參百四拾弗の消費額を有す、農園人夫のキャンブ二十ヶ所にして、農具の如き、悉く新式の器械を使用しサクラメント河、サンオーキン河の下流域は、其大半馬鈴薯王の領地ならざるはなく、水上の便を利用するが爲めに、(島丸)八十馬力、島(二十馬力)、チブロン(二十五馬力)、サンオーキン(八馬力)、と云へる四隻のギヤスリンボートを建造して、自己乗用の外、事務及び運搬の用に使用せり。

馬鈴薯王の事業に對して、最初より熱心なる助力者二人あり、一を福島信と稱し、一を渡邊金

藏と稱す、福島信は常に農園にありて人夫を指揮し、農園の實務に従事す、渡邊金藏は、樞要の事務を執りて専ら市場の掛引を定む、馬鈴薯は米國人の常食にして、恰も我母國の米に對するが如し、之れ其需要の無限なる所以なり、サクラメント平原及びサンオーキン平原の川下地方は、從來茫々たる蒲生の島地にして、未だ何人も此地に鋤犁を加へざりしが、支那人及び日本人の此地に入るや、地を拓きて馬鈴薯を植へ、年々之を市場に出して、利を得る事少からず、然れども河水氾濫して、年々農家の作物を流失する事少からず、彼の事業も其當初に於ては、屢々非常の困難に遭遇したりと雖も、遂によく今日の基礎を作り、其二十年の經歷は、よく其競敵を壓して、永く其事業を維持するに足り、以て同胞事業界の誇とするに足れり、現時川下地方に於ける、馬鈴薯の産額は總て二百萬俵にして、此内牛島農園の産出、五六十万俵なりと云へり、彼の傳記に付ては、之を成業列傳に挿入したり。

サンオーキン郡成業列傳

△赤羽亥之助 和歌山縣海草郡西脇野村の産にして、明治九年生る、二十五年桑港に上陸し、市内に留まりて英語を修め、後ちコントラコスタ郡マデナスに入り、白人の農園に勞働する事九年の久しきに及び、勞働者の監督に擧げられて四千餘弗を貯蓄し、明治三十五年一旦歸朝したる

が、翌三十六年妻を携へて再び渡米し、マテナスの地に食料雜貨店を開業し、明治三十八年スクトン市南エルドラド街に移り、從兄弟滿畑幾太郎、松野治郎松を共同者に加へ、業務を擴張して、盛に營業に従事し、現にス市日本人社會唯一の大商店たり、土地の同胞社會推してスタクトン日本人會長に選舉し、同地佛教會の會計を兼ねぬ。

△石井曉 群馬縣佐波郡島村の産にして、明治十四年生る、曾て東京に遊學し、後ち郷里に歸りて養蠶業に従事し、同志の青年と貯蓄組合を設け、地方産業の爲めに盡したる所少からず、已にして、明治三十七年渡米し、直ちにサクラメント地方の農園に勞働して、米國農業上の經驗を得、乃ち五千弗にてローダイに土地四十英町を求め、之に薄荷を植えて、此地方日本人土地所有農家の率先となり、地方の信用を得る事深く、現にローダイ日本人會の會長に推さる、後ち所有の土地は、之を他に譲り、更に新に一事業を計畫せんとするもの、如し、常に心を公共の事に注ぎ、地方の人物として知らる。

△松本萬龜 熊本縣上益城郡乙女村の産にして、明治六年生る、二十六年渡米して、ヴィクトリヤに上陸し、居る事一年にして桑港に來り、スクールボーイたる事一年餘、其れよりコンコルド、クラークスバーク、等に於て種々の農作に従事せしが、明治三十六年、現金參千弗を以て、三百二十英町の地を借り、大規模の農作を試みて貳千弗の利益を得、其翌年は水害のために四千餘

弗の損害を蒙りたるが、此年川下地方チャーマン島に資本金八千餘弗を投じ、五ヶ年の期限にて三百八十二英町を借地し、他に下チャーマン島に五百七十二英町を借地して大計畫の馬鈴薯作を始め、明治四十年の如きは、馬鈴薯の作高萬弗に達し、其利益壹萬七千弗なりしといふ、明治四十二年一月、川下地方大水害を蒙り、作物を流失して巨額の損害を蒙りたるも、其後作地を修理して、今尙ほ、此地方馬鈴薯耕作者として、牛島に次げる巨農たり、川下に於ける農業は、純然たる冒險的農業にして、其成敗の速かなる事、一大賭博に異ならず、然れども彼れの剛毅大膽なる、屢々大敗を招きて屢々回復し、未だ毫も屈撓の色を見はさず、地方の同胞社會、彼れを稱して第二の馬鈴薯王といふ、また農業界の快男子と云はざるを得ず。

△冲常太郎 廣島縣廣島市大須賀町の産にして、明治六年二月生る、兄を冲健二といひ、パークンスのハツプス耕作者として其名を知らる、常太郎は、三十三年五月渡米して、砂市より桑港に來り、兄健二のホイートランドにありたるを以て、行て其農園の事業を助け、後ちアキャンポに入り、清兼静太郎の果樹園に勞働する事一年餘、三十五年プレゼントに入り、甜菜の耕作を契約したるも、事情の爲めに中途其契約を解き、後ちパークンスに至り、兄弟共同して果物及び甜菜を作りて利を得る事尠ならず、已にして明治四十一年五月、クレメントの地二百四十英町を現金借地し、盛に果樹の經營を爲し、以て現時に至り、全體の借地中、桃園五十英町、梨園四十英町、

町、葡萄園五十英町あり、果樹は皆收穫の盛時に達し、年々の利益少からず、兄健二のサクラメント地方に於けるが如く、彼れまたローダイ地方に於ける豪農として人に知らる、性質直にして、事業に勤勉し、周圍の信用頗る深しといふ。

△山内喜太郎 スタクトン市の日本人社會、旅館として最も營業の盛大なるを日本旅館とす、是れ山内喜太郎の經營せる所と爲す、彼れは山口縣熊毛郡周防村の産にして、明治十一年生る、付て大工職なりしが、明治三十五年布哇に渡航し、砂糖耕作地木工部に備はれて、配下に二十人の職人を監督し、園主の信用を得て貯蓄する所少からず、明治三十九年米本土に轉航して桑港に上陸し、直ちにサクラメント川下地方の農園に勞働し、四十一年十一月スタクトン市センター街及びピンノラ街の角に煉瓦の大屋を借り、以て現時の日本旅館を開業するに至り、彼れの營業に對するや、熱心人に勝れ、其宿泊者に對して充分の厚意を盡すのみならず、地方の農園主に労働者の周旋を爲し、萬事の便利を圖る事、頗る周到を極め、内外の人氣茲に集まりて、開業日ならずして、營業大に繁榮し、初め其位置の偏在せるを嘲笑せるものありたるに拘はらず、日本旅館の附近却て日本人社會の發達盛ならむとするの勢あり、開業の當時、同業者其隆盛を猜み、同盟して之に對抗したる事ありしも、彼れの剛毅なる、周圍の迫害に屈せず、忍耐勤勉、奮闘撓む事なく、終に彼等をして、久しく對峙するの不利益を感せしめ、調停者の斡旋するものあるに

依りて、漸く和局を結ぶに至り、爾後日本旅館の隆盛更らに其度を加へたるが如し。

△小田熊治 兵庫縣印南郡大鹽村の産にして、明治六年生る、明治二十八年渡米し、英領加奈陀を経て加州に入り、初めサクラメント地方、アラメダ郡地方の農園に入り、更らに桑港に出で、諸種の勞働に従事し、業務の餘暇英語を修め、曾て桑港時事新聞の起るや、資を出して之を助けたる事あり、已にして布市に至り、葡萄の摘採に従事せるに、此年勞働者の供給過度なりしが爲めに大に困難を來し、徒歩して南加州に至る、途中露宿する事數日、或は雪中病に憫みて、食を白人の家に乞ひ、或は路傍の屠牛所に一夜の夢を結び兼ねたる事あり、已にしてローサンゼルスに達して洋食店の皿洗となり、其れよりオクスナードに出で、サンタマリヤよりサンルイスオビスポに至り、途中飢饉に類する事數時、同行者の中泣て究境を嘆するものあり、以て勞働者困難時代の状態を察すべき也、已にしてオセアノに於て少許の旅費を作る事を得、サンミゲロを経て山路コーリソグに出で、アモナに達して果樹園の勞働を契約し、漸く百弗の貯蓄を爲す事を得たり、是に於てサクラメントに至り、農園及び鐵道の勞働に従事せるが、明治三十五年同志十人、彼を推して首領と爲し、シャーマン島に二百餘英町の農園を經營するに至れり、是れ彼れの川下地方大農業者として奮闘の素地を造りたるの端緒にして、爾後幾たびか成敗して、今尙ほスタクトン川下地方の巨農たり、現時ホルトの地、二百五十英町に種物園を經營し、配下に數十人の勞働者を使

用す、彼れ性磊落、造詣また淺からず、屢々酒を被りて大言壯語するの癖ありと雖ども、地方彼を信用するもの少からず、スタクトン地方の傑物として知らる。

△合田鐵藏 其家系言ふに足らず其修養また人に劣りたるものにして、而かもよく野に健闘し、旗を一方に樹つるもの、北米の地其人に乏しからず、合田鐵藏の如きまた是れなり、彼は香川縣三豊郡大野原村の産にして明治七年生る、幼にして家食しく、農家に奉公して具さに艱難を嘗ひ、後ち無頼にして諸國に漂浪し、一時九州に至り、三菱造船所に備はる、已にして汽船の乗組となり、桑港横濱間の航海に従事せるが、桑港の有望なるを聞きて、明治三十四年事に托して桑港に上陸し、諸所の鐵道に勞働したり、而かも彼れ素行修まらず、金錢を浪費して、勞働多年壹仙の貯蓄も之を爲す事能はず、是に於てスタクトン川下地方に至り、小田熊治の配下に屬して、農園に勞働する事一年、後ちサンノゼに至り、農園を契約したるも水害の爲めに失敗し、翌年再びスタクトン地方に歸り來り、豆及び玉葱を作りて利益を得、前年の損失を償ひて尙ほ六百弗を剩し得たりといふ、是れ彼れの農園に成功せる端緒にして、現時ホルトの地に、白人と共同して二百英町の借地を經營し、別に一人にて二十英町のセロリを耕作せり、現時土地に投じたる資本壹萬餘弗、馬十頭を有し、農具に千餘弗を支出せり、スタクトンの農業者中、近時の成功者として知らる、性情悍敏捷、事を爲す頗る大膽なり、而かも事業に勤勉なる、また他の容易に及び難さ

所のものあり。

第四節 マセド郡、マデラ郡、日本人發展地の調査

(一) マセド郡

マセド郡は、東はマリボサ、南はフレスノ、西はサンベニト、及びサンタクラ、北はスタニスラウス、の諸郡に接し、廣袤二千六百万哩、百六十六萬四千英町を包有す、其三分の二は、沖積地にして、サンオーキン河の流域たり、郡内八分の一は高原地にして、また耕作に適す、郡の首都マーシド市は、人口三千五百、高等學校、公開圖書館、婦人俱樂部、二新聞社、二銀行あり、電氣及び瓦斯の供給あり、此市より東百哩の所に、有名なる、ヨセミテバレーあり、特に鐵道を通じ、觀光者の便に供す。

サンオーキン郡以南、タルムン郡、スタニスラウス郡、マリボサ郡の如き、未だ日本人の農業者を見ず、從て此地方は、未だ同胞の發展地と云ふべからず、只だ近時、リビングストン驛の附近、日本人の團體的所有地あり、名けて大和殖民地と稱す、これフレスノ、スタクトンの間に於ける、唯一の同胞發展地なりとす。

リビングストン

同胞は之を名けて大和殖民地と稱す、マセド市の北西エスピロ鐵道線路に添

へる地にして、驛の附近に日本人の土地、三千二百六十二英町あり、乃ちリビングストン地方の一部にして、始めハマト及びクレウエルなるもの、之を所有せしが、桑港に於ける、元日米銀行の一派、勸業社に於て之を買収し、更に之を輕便なる支拂法に依りて、日本人間に賣却したるものなり、現時に於ける土地所有者の姓名及英町數左の如し。

土地所有者

- 佐藤 信 忠 (宮城縣) 八七英町 (葡萄、果物、其他)
- 磯野 德太郎 (大阪市) 八二英町 (同)
- 皆部 梅太郎 (和歌山縣) 一四一英町 (葡萄、果物、苺、其他)
- 堀 愛次郎 (大阪市) 四〇英町 (葡萄、果物)
- 野田 七郎 (熊本縣) 四〇英町 (葡萄、麥)
- 貴志 太次郎 (和歌山縣) 四〇英町 (葡萄、果物、其他)
- 谷口 文彦 (同) 二〇英町 (葡萄、麥)
- 森本 政吉 (廣島縣) 四〇英町 (アスパラガス)
- 小倉 定吉 (千葉縣) 四〇英町 (果物、麥)
- 前田 芳太郎 (大阪市) 二〇四英町 (葡萄、果物、其他)

- 黒石清作 (新潟縣) 四〇英町 (葡萄、果物)
- 鷲津文三 (同 縣) 四〇英町 (葡萄、アルハルハ)
- 坪谷善四郎 (新潟縣) 四〇英町 (葡萄、一)
- 今城長緒 (愛媛縣) 四二英町 (葡萄、一)
- 峰島儀一 (千葉縣) 五〇英町 (果物、アルハルハ)
- 八木祐作 (同) 二〇英町 (葡萄、一)
- 渡邊豊吉 (同) 二六英町 (葡萄、果物)
- 竹村總吉 (同) 八五英町 (葡萄、一)
- 木本三松 (和歌山縣) 二〇英町 (葡萄、果物)
- 奥江清之助 (鳥取縣) 二〇一英町 (葡萄、果物、其他)
- 安孫子久太郎 (新潟縣) 七三英町 (一)
- 渡邊隆輔 (福岡縣) 四〇英町 (一)
- 興業組合 (新潟縣) 四四英町 (一)
- 増田與吉 (千葉縣) 四〇英町 (一)
- 小池實太郎 (山梨縣) 一三〇英町 (一)

- 細井米吉 (神奈川縣) 二〇英町 (一)
- 宮野信吉 (岡山縣) 二〇英町 (一)
- 丹後淺治郎 (滋賀縣) 二〇英町 (一)
- 殖産會社 四四五英町 (一)

此地は始め有望なる殖民地と稱せられたるも、其後の經驗に依りて、多少土地の耕作に適せざる事情の存する事を發見したり、地質の砂礫質を帯び、アルカリ性を有する所あるのみならず、風強く、風々植物を砂中に埋め、防風林の養成に付ても、亦多くの時日と費用とを要するが如し、今後年月の経過すると共に、漸次發達するならむも、他に購買すべき餘地多き、加州に於ては、此地の發達は、多少の疑問と云はざるべからず。

(二) マデラ郡

マデラ郡は、フレスノ郡及びマセド郡の間に位置し、郡内の面積百四十萬英町、農園、園藝、牧畜、牛乳業盛にして、郡内の氣候種々異なるが如く、産物また一様ならず、一年内の晴天貳百七十五日、平均の温度六十度、空氣乾燥にして各地の雨量平均十吋とす、人口七千人を包有し、現時年々急速なる發達をなしつつあり、マデラ運河及び給水會社は、一萬六千英町の園地灌漑を爲し

其溝渠の延長百〇八哩に達す、農園を分ちて、アルハルハ五千八百七十七英町、葡萄二千七百七十八英町、果樹七百八十四英町、穀物三千八百二十六英町あり、産物には馬、牛、羊、豚、獸草、羊毛、獸脂、木材、薪、麥類、石炭、埃及種の獨黍、ブルームコーン、蜜柑、檸檬、橄欖、無花果、果物、菓子葡萄、干果物、チーズ、家鶏及卵、野菜、山芋、薩摩芋、果酒、葡萄酒、ブランドー、苺等にして、アルハルハ、蜜柑、檸檬、穀類の作地は、一英町貳拾五弗乃至五拾弗を値し、葡萄園地一英町五拾弗を値す、牧場に用ゆべき地は一英町僅かに貳弗五拾仙に過ぎず、シーラネバダ山の附近、材木を産する事多く、郡の富源を爲す、伊太利人及び瑞西人農業會社は、加州第一の醸酒場を有し、一ケ年間千五百萬封の葡萄を消費し、葡萄酒三百萬ギャロン、ブランドー十萬ギャロンを醸造し、千三百萬英町の葡萄園を所有す。

「マデラ」郡の首都にして布市の北二十二哩にあり、人口三千五百、電氣會社、水道會社、材木及箱製造會社、銀行、新聞社、圖書館等あり。

現時日本人の在住する者八九十人、農事多忙の時期、百五十人内外の勞働者來集す、日本人の土地所有者十二名、所有地二百二十英町、現金借地者五名、借地五十英町、歩合耕作者二名、作地三百八十英町あり、市街營業者としては、神奈川縣人深瀬元治郎經營の旅館一あり、此地方日本人發展地としては、尙幼稚なるを免れず、而して其土地の資格、フレスノ郡に及ばざる事遠し、

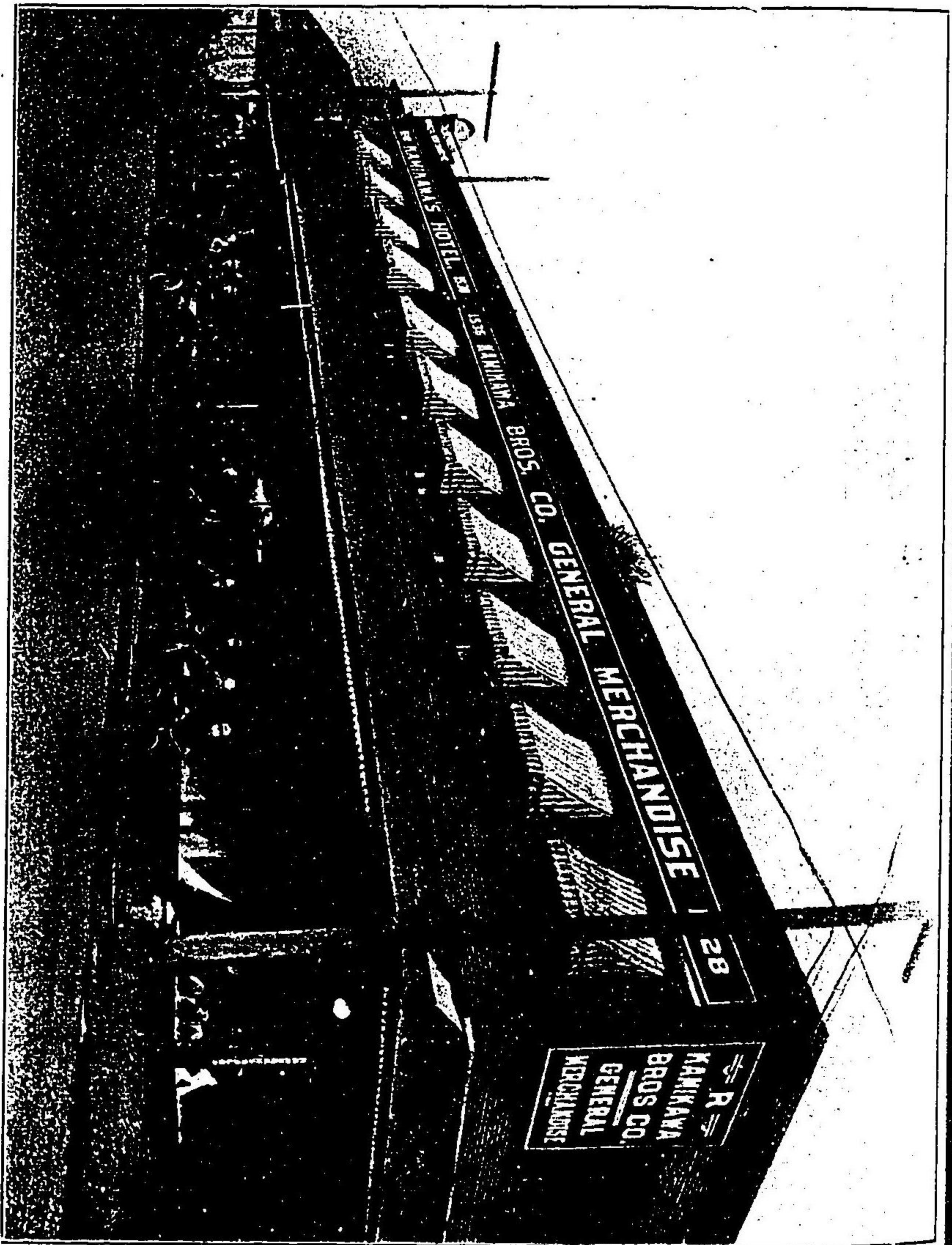
現時の土地所有者左の如し。

- 上杉 松藏 (熊本縣) 四〇英町 (葡萄)
- 伊藤 初治郎 (愛知縣) 四〇英町 (葡萄)
- 大石 常太郎 (廣島縣) 二〇英町 (葡萄)
- 津川 (廣島縣) 二〇英町 (葡萄)
- 和合 伊三郎 (大阪府) 四〇英町 (空地)
- 吉井 平一郎 (奈良縣)
- 寺尾 (廣島縣)
- 山重 秀雄 (山口縣)
- 黒川 政一 (廣島縣) 四〇英町 (葡萄)
- 黒川 初太郎 (廣島縣)
- 坂井 養三 (廣島縣)
- 中村 兄弟 (廣島縣) 二〇英町 (葡萄)

第五節 フレスノ郡日本人發展地の調査

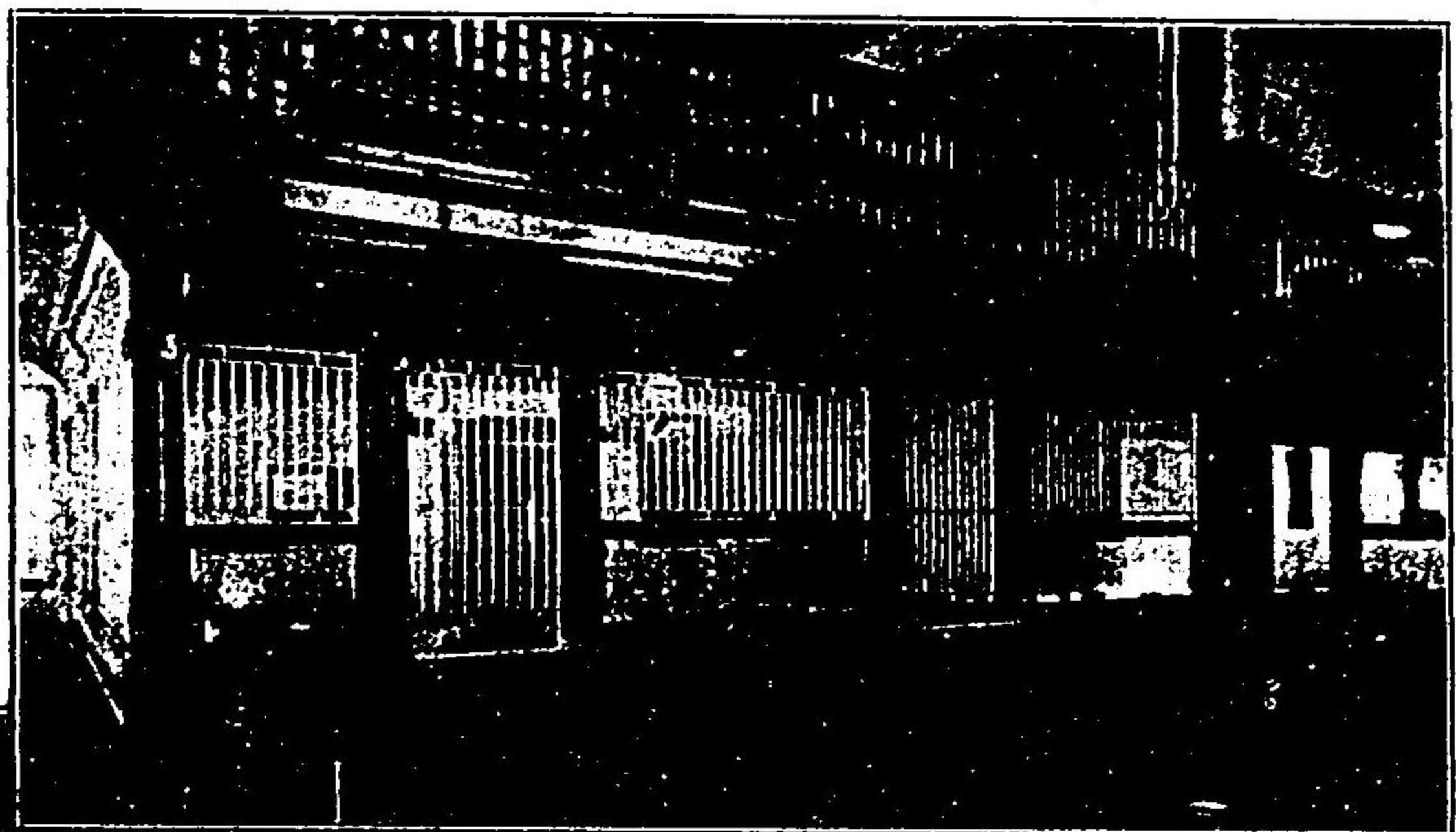
フランスノ郡は、サンオーキン平原の最大郡にして、廣袤五千六百〇六萬方哩、山地及び平原地を合して、六百五十八萬七千八百四十英町を占有す、就中耕作に適する農園百萬英町にして、他は牧場、森林、鑛山、及び石腦油の産出地たり、東はシーラネグアダ山脈、西はコースト山脈に限られ、南はツラレ、キングスの二郡に、北はマデラ、マセドの二郡に接す、郡内土地の平坦なる事、世界遠く其比を見ず、道路縱横、敷くに油を以てし、車馬の通ずる所塵埃起る事なし、葡萄は此郡の特産として、米國産干葡萄の六分の五は、乃ちフランスノ郡の産出する所にして、實に世界干葡萄産額の半を占有す、其價拾壹億弗と稱す、初め牧場及び穀類の産地たりしが、人工的給水の方法行はれてより、大に土地の生産力を増加し、近時驚くべき發達を見るに至れり、郡内地廣大にして、よく五十萬の人口を容るゝに足れりと雖も、現時の人口は僅に六萬六千に過ぎず、中央加州に於て、日本人發展地として、殊に注意すべきものは、乃ち此フランスノ郡にして、加州中日本人土地所有者の最も多き地なりと爲す、初め此地方は夏期炎暑の甚しきを以て、永住的計畫を爲すを恐れたりしが、年々勞働者の葡萄園に入りて、葡萄の摘採に従事し、漸次其氣候に馴れ、其土地の有望なるを知るや、土地を買ひて葡萄園の經營を始むるもの多く、遂に僅々數年の間に、驚くべき發達を示すに至れり、今郡内各地の發展地を列記する事左の如し。

(一) フランスノ市



泉全部外の會商弟兄川神及び館旅川神 市ノスレフ

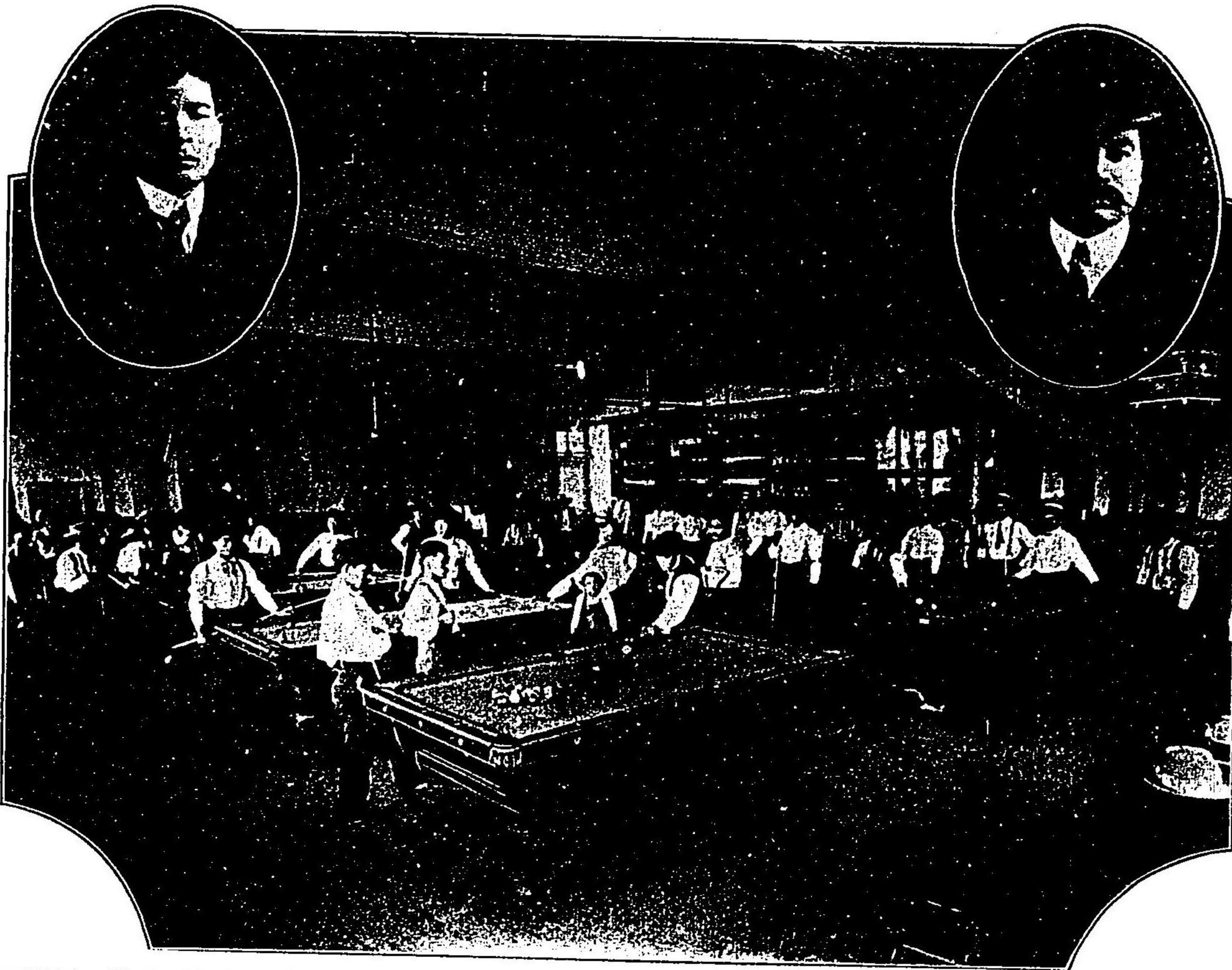
市ノスレフ 神川兄弟銀行



同神川兄弟商會の内部



布市天賞藥舖主人利行泰



幅谷三
谷金四郎
共同經營

フレズノ市
カーン街
ビリヤード場



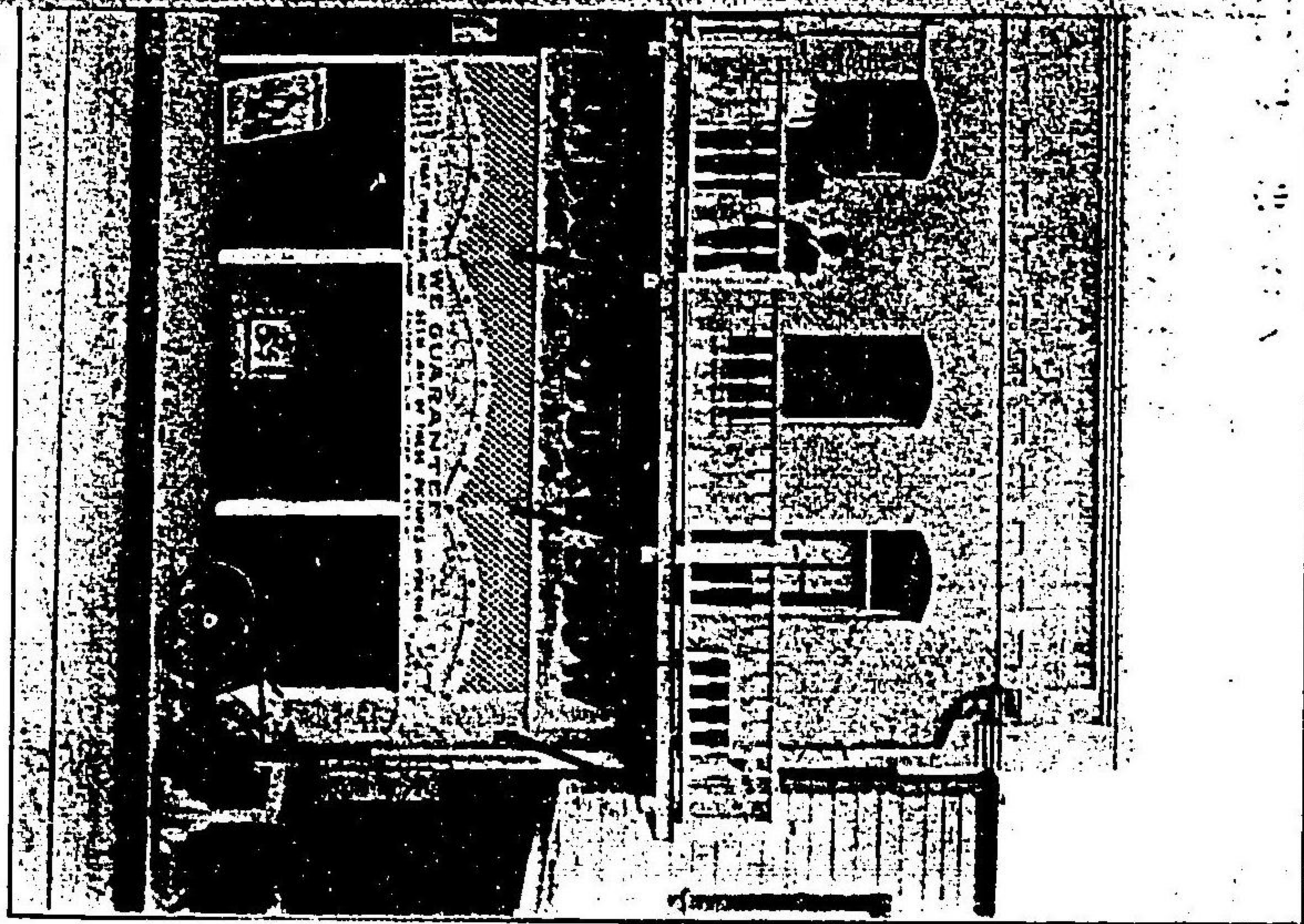
經營者
木村賢吉

フレズノ市 活動寫眞 一ヤ座及 及び 活寫眞 一ヤ座 及び 活寫眞 一ヤ座

(作健保毛 主店はるたち立に央中) 部内店車轉自保毛 市ノスレフ



宅住郎太菊田清 スミール原平トメラクサ



高利村水者祭經其歴史治明景寫動活市ノスレフ

サンオーキン平原、主要の都會にして、ロースアンゼルスを距る事北二百七十五哩、桑港を距る事南二百〇九哩の所にあり、フレスノ郡の主都にして、今より八十年前發達の端緒を開き、千九百年の人口一萬二千に過ぎず、然れども此地葡萄酒の發達すると共に、近時急速なる發達を爲すに至り、現時三萬三千の人口を有す、干葡萄酒、葡萄酒、ブランデーの製造最も盛大なりとす、市街は一大平野に開展して、周圍に山を見ず、只だ天氣晴朗の日遙にシラネバタの山脈、白雪を冠して雲際に縹渺たるを見るのみ、サンタフィー鐵道及び南太平洋鐵道、市を南北に通過し、商業繁榮し、宏壯美麗なる邸宅、相駢列し、街區整然として、市役所、郡立病院、カーネギー圖書館等の如き、就中重要なる建築物にして、十個の公立學校、二個の商業學校、三個の新聞社、二個の銀行あり、街路の延長八十七哩、電氣鐵道の延長十五哩あり、また公園の廣大なるもの、劇場の美少からず。

日本人街は、エスビー鐵道線路の西に開展して、ジー街、エフ街、ツラレ街、カーン街に亘りて其廣さ數街衢に亘り、就中神川商店、勸業銀行、岩田ビルディング、佛教會堂の如き、直接若しくは間接に、日本人の爲に建築せられたるものにして、其規模の大なる事、桑港、羅府、サクラメント等に於て、見る事を得ざる所なり、此れ此地日本人の發達、他に異なるものある所以にして市内また特殊の活氣を帯び、從て其風紀靜肅ならず、支那賭博の如きまた盛にして、醜業婦の數

頗る多く、物價の高き事、また多く他に比を見ず、市内營業者中、銀行二、新聞支社五、旅館十、食料雜貨店六、料理店及飲食店十五、理髮店十一、湯屋及洗濯所十、玉塙十、時計及小間物商九、洋食店六、醫院三、魚店二、活動寫真二、書林一、菓子店三、射的場二、果物店一、靴修繕所二、運送業三、清酒會社一、野菜屋一、精米所一、ソーダ水製造所一、活版所一、自轉車店一、大工職二、豆腐屋一、寫真師一あり、公共團體及び重なる會社等は左の如し。

△布市實業同盟 明治四十二年の組織にして、毎月一回の集會を爲し、市内營業者の親交を圖るにあり、現時四十餘名の會員を有す。

△布市佛教青年會 明治三十三年の創立にして、現時六百の會員を有す、會の事業として成りたる佛教會堂は、八ロツドの地に建築せられ、其結構壯大にして、加州日本人の建築物として、恐らく其最大なるものならむ、之に支出したる經費貳萬弗にして、此外四千弗を支出して、他に十ロツドの土地を買ひ、之に日本人兒童を教育すべき小學校を建築したり、會堂は其一部を寄宿舎及び貸室に宛て、小學校の兒童は、現時二十名内外にして、別に幼稚兒童十五名あり、會堂建築の事業は、明治三十五年一月、布市地方の佛教傳道に従事したる、朝枝開教師の盡力せるものにして、後朝枝開教師の歸朝するや、明治四十年五月、紀開藏開教師として其後を襲ひ、明治四十二年紀開教師去るや、一村萬城現時の開教師たり。

△獨立組合教會 明治三十八年の頃、支那人組合教會に於て、日本人の基督教徒を教訓し來りたるが、明治四十年二月二十日、日本人の教會堂を設け、同年五月十八日を以て獻堂式を擧げ、四十二年五月十七日、全然支那人の教會と分離獨立するに至れり、現時四十六名の信者を有し、鳥取縣人福永熊三其牧師たり、福永牧師は曾て小崎弘道師の神學校を卒業し、渡米後、麥嶺神學校に在り、赴任以來熱心に、同胞社會風紀の刷新に努め、屢々危険を冒して、其勇氣、人を感せしむるものあり、支那賭博の弊害之れが爲めに、其度を減じたるは、疑ひを容れず。

△美以教會 明治二十七年九月、廣田善朗牧師として創業に努め、後小野純夫、三好直介、鶴田源七、五十部伊三、長崎勝三郎、相原英賢等代る之を收して、組合教會派と相俟ち、布市同胞間の矯風に盡したる所少からず、現時の牧師北澤鐵治は、長野縣の産にして、曾て青山神學校を卒業し、明治三十九年渡米し、此地の教會を經營するに至れり、教會堂はカーン街一二六〇番にありて、明治二十九年、參千弗の建築費を投じて、建築せしものにして、現時の會員七十四名あり。

△岡山縣人會 明治三十三年の創立にして、會員百三十名を有し、會の財産として、千百弗を投じたる土地及び家屋を有す、會長宇野郁太郎、副會長白神伊八等あり。

△銀行 布市勸業銀行は資本金五萬弗にして、現時の取締役小此木文九郎、平川初太郎、部屋野

要之助、松本松太郎、大草六郎、北濱初太郎、中筋三之助、監査役に福島雷二郎、岡野玉治郎、毛保卯一、支配人に宮野信吉あり、神川兄弟銀行は資本金五萬弗にして、其内容は別項神川兄弟の事業と題して記載せるを以て、茲に省畧す。

△營業會社 布市供給株式會社は、明治四十二年五月二日の創立にして、社長に吉木光之進、副社長に部屋野要之助、常務取締役に中筋三之助、支配人に北濱初治郎、取締役に福島雷二郎、岡野玉治郎、土橋増二郎、江後梅太郎、會計に鹽崎常楠あり、食料品及雜貨の販賣を以て、營業の主眼とし、布市に於ける規模の大なる、商會社と爲す、其他に布市清酒株式會社あり、明治四十二年の創業にして社長を神川幸一とし、清酒の販賣を以て營業の主眼と爲す。

△新聞支社、日米、新世界、桑港、羅府新報、羅府毎日の各支社を有し、其販賣紙數少からず、日米支社に宮野信吉、新世界支社に指原秀雄、桑港新聞支社に吉井平一郎あり。

△病院 小此木病院、日米醫院、高成田齒科醫院等あり、土地炎暑の高きを以て、患者少からず、小此木病院は加州の開業醫、小此木文九郎の經營せるものにして、日米醫院は廣島縣人松田立馬の經營せるものなり。

△重なる市街營業者 以上記載したる銀行、會社等の外、個人營業者として盛なるものには、旅館に神川旅館、増田旅館、江後高等貸ルム、木村旅館、谷川旅館あり、食料品及雜貨店に、

神川兄弟商會、南海商店、前田商店、伊藤商店、等あり、料理店は一定の數を限られたるを以て其營業從て大なりとす、松月、山海、松の屋、お多福、常盤、丸〇、六華亭の如き最も人氣を有し、玉場としては谷、幡谷の玉場最も大にして、時計店としては自由堂、溝手時計店あり、洋食店には、吉木ローヤル洋食店、メーフラワー洋食店あり、魚店にモンレー魚店、東洋魚店あり、其他活動寫眞に、明治座、フニヤ一座皆多くの入覽者を有し、大石精米所、森本ソーダ水製造所、毛保自轉車店、中央活版所、松本書籍店、岩崎寫眞館、天賞堂藥舖、和合美術店、岩崎洗濯所等皆營業盛にして、市内日本人社會の勢力を添ふる事少からず。

(二) 布市日本人社會の沿革

明治二十三四年の頃、青森縣人中畑六郎、労働者を率ひて此地に入り、後ち中村、米岡、飛鳥、塚田、曾我部、鍋島、等の農園受負業者前後して、此地に入り來れり、當時支那人の労働者三四千人ありしが、彼等は日本人の労働者入來ると共に、漸次に其勢力を失墜するに至れり、明治二十四年に於ける日本人労働者の數は、僅に八十人に過ぎざりしも、翌二十五年には早くも三四百人に増加したり、當時此地に於ける葡萄園は、二萬英町なりしが、爾後發達して現時八萬英町となるに至り、人をして農園發達の速かなるに一驚を喫せしむ、初め此地農園の未だ充分に開

拓せられず、附近人烟の疎薄なる時に於ては、夏期緑樹青草の氣候を調和するものなく、熱風砂塵を揚げ、動物の死屍より来る異臭を衝いて、不快云ふべからざるものあり、寒暖計は炎熱の日は百十四五度に達し、労働者炎熱の爲に疾病に罹る者多く、殊に労働者の増加に伴へる密淫賣婦の醜業を營むもの多く、米國行政の緩慢なるを以て、惡疾の傳播頗る猖獗を極め、同胞にして此病毒に感染せるもの亦少からず、其慘狀言ふに忍びざるものありと云ふ、然れども其後風紀の取締を嚴重にし、漸く其害毒を撲滅するに至り、以て今日の如き秩序整然たる日本人社會を見るに至れり、同胞社會が斯の如き弊害に陥りたる頃に於て、尙ほ他に社會に害毒を與へたるものを、支那賭博と爲す、此地の支那賭博は其勢頗る盛にして、明治二十七年の頃日本人社會に於て始めて、天長節の祝賀會を舉行したる事ありしが、其發起人は悉く博徒にあらざるはなかりしと云ふ、以て其事情の一斑を推知するに足れり、警察官は賄賂を以て事を處分し、農園の契約者はビストルを以て、労働者の取遣りを爲すが如きは、尋常茶飯の事に屬す、而も時代の變遷するや、氣候は農園の開拓せられ植物の繁茂すると共に調和せられ、現時夏期の熱度、高さも百五六度を超へず、亂暴なる書生連の労働者は、漸次此地を去りて、着實なる労働者之れに代り、同胞團體の當事者と共に、熱心に風紀の刷新に盡力し、地方農園の基礎漸く鞏固なると共に、日本人社會、また昔時の面目を一新するに至れり。

△附近農家之調査 市街地の附近に於て、日本人の土地所有者五名、所有面積凡そ二百十英町あり、現金借地農家十三組、借地面積八百英町あり、果物、葡萄、牛乳業、野菜、苺等を經營す、歩合耕作者三組、作地面積三千八百八十五英町にして、土地所有者其他の大農作者を擧ぐれば左の如し。

土地所有者

- 寄立清之助 (廣島縣) 五五英町 (空地)
 - 岡野玉次郎 (廣島縣)
 - 高岡逸治 (廣島縣) 六〇英町 (葡萄)
 - 佐伯六郎 (山口縣) 三〇英町 (葡萄、桃)
 - 中重代次郎 (廣島縣) 二〇英町 (苺、桃)
- 其他チョーチアベニユーに、日本人の野菜園經營を爲すもの數名あり、苺、トマト、胡瓜、長豆、唐瓜、大根、菜類を栽培す、其他苺栽培者二十軒あり、マンションと稱する種類は、四月初旬より市場に出で、五月初旬を以て其盛りとす。

附) 神川兄弟の事業

布市日本人社會の中、神川兄弟の事業は、其最も著大なるものなり、神川兄弟は廣島縣人神川

理一、神川幸一、神川益一、三人の共同事業と云へるものにして、創業の際最も力を盡したるは、神川理一及び神川光二の二人にして、就中光二の以事業に貢献したる事、最も多しと爲す、後ち彼れ病を以て死するや、幸一、益一の二人故國より來りて二兄の志を助け、以て現時の事業を経営するに至れり、事業を區別して旅館、商店、農園請負契約、銀行業と爲す、明治二十八年始めて旅館業を開き、當時此地創業の時期に屬し、日本人労働者の入り來るもの、尙現時の如き多數に上らず、白人方面に於ても、未だ日本人の事業を信する事能はず、此時に際し、神川理一及び光二の事業、頗る困難を極めたりしが、此間克く堅忍不拔の精神と、奮闘的勇氣とを持續し、遂に其困難に堪へ、明治三十三年五月商店を開業して、旅館業の、傍ら食料品及び雜貨の販賣を爲すに至り、營業大に繁昌して、現時の盛況を見るに至れり。

△神川兄弟銀行 資本金五萬弗と爲し、明治四十一年の設立に係れり、始め旅館部に對し、労働者より金銭の預入を爲すもの少からざりしが、日本人社會の發達すると共に、銀行の起るもの少からず、労働者側に於ても、また秩序ある機關に向て、預金及び送金を爲さんとするの傾向を生ずるに至り、彼等の要求に應せんが爲に、銀行の名義を以て取扱を爲すに至れり、故に其基礎他の銀行に比して、鞏固なるは言を俟たざる所にして、現に明治四十二年日米、金門、其他の日本人銀行の續々破産せるものあるも、神川兄弟銀行は、毫も其影響を蒙らざるのみならず、却て其信用を鞏固ならしむるを得たり、今其役員を左に記す。

頭取 神川理一 副頭取 神川幸一 書記 神川益一 支配人 飯島和一

△神川商店 商店は、旅館部、銀行と全く獨立し、資本金を五萬弗とし、本店を布市カーン街千五百四十番に置き、其店舗の宏大美麗なる事、加州日本人商店の第一と稱すべく、間口半街區に達し、店前は凡て高價なる一枚玻璃を列ね、街上より店内の全部を透視する事を得べく、其體裁全く白人の大商店中、稀に見る所のものに等し、其設備は略度デパートメントストアの方法に依り、食料品、家具、和洋雜貨、洋服、書籍類、靴等其他各種の商品備はらざるなし、別にセルマに支店を置き、本店と氣脈を通じて、其地方の營業に當らしむ、商店一ヶ年の賣上高凡そ參拾萬弗と稱す、役員及び主任者を定むる事左の如し。

頭取 神川理一 支配人 飯島和一 營業部主任 村谷磯三郎

セルマ支店主任 神川益一

△神川旅館 神川兄弟の事業は、旅館營業を以て起りたるものにして、從て其設備の完全なる事加州日本人旅館に於て、他に比を見る事能はず、客室を旅館部及び、労働者寄宿部に分ち、客室の數、百餘、労働者寄宿所六室、荷荷收穫期の如きは、各室悉く満員となり、其人氣の盛なる事驚くべきものあり、旅館全部にて優に五六百人を容るゝに足り、賄部の如き、熟練な

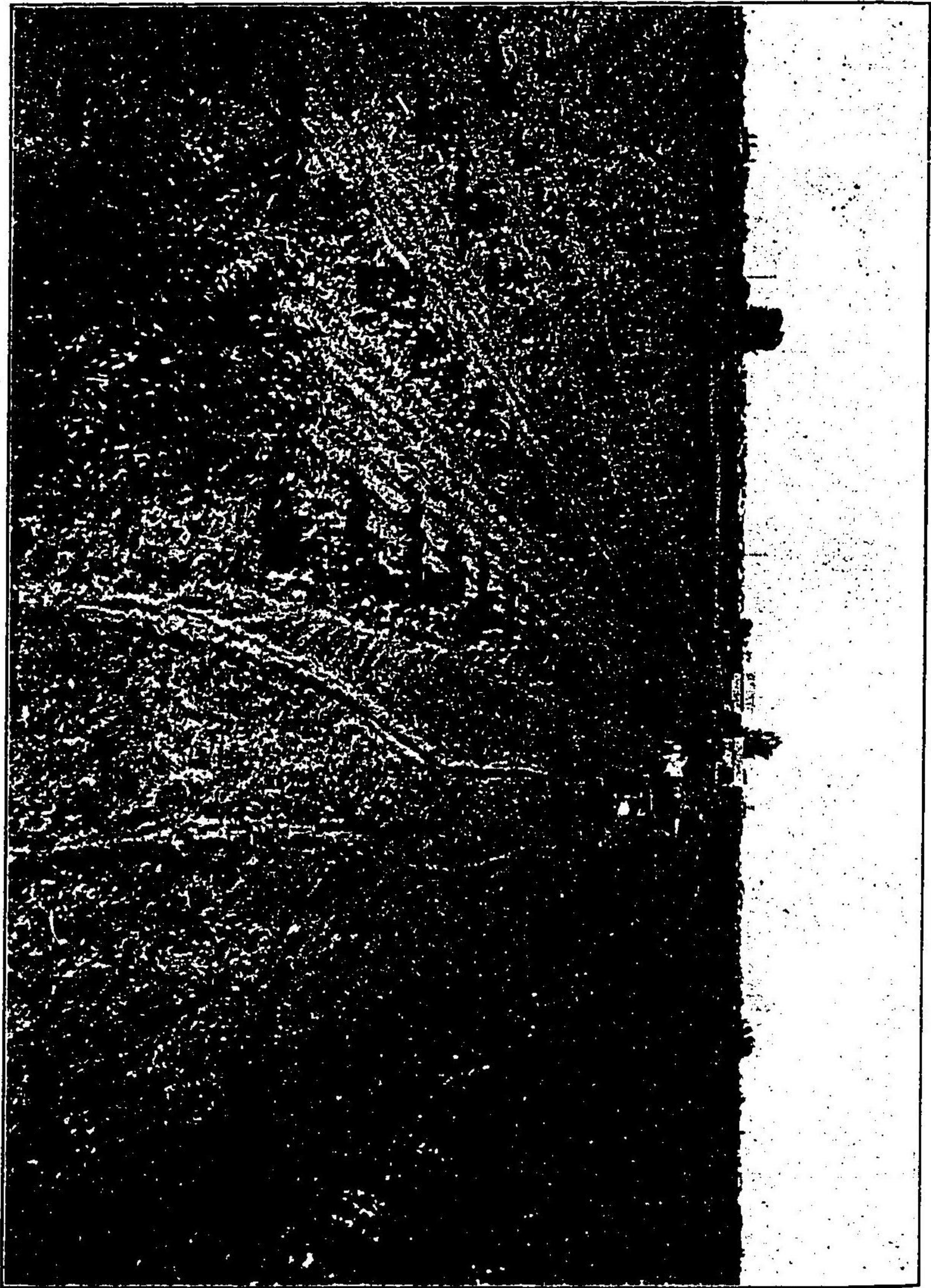
る料理人を備ひ、貯室の傍らに、現金記録簿を置き、食時毎に各十仙宛の食料を受取るの設備を爲したるが如き、以て、萬事の整頓せる事を察すべし、而も其取扱の丁寧にして、旅行者に對して毫も不快の念を起さしめざるが如きは、多くの日本人旅館中、殆んど模範的と稱するに足れり、事業は神川兄弟の共同にして、小山行正を以て、旅館部の主任と爲す。

△農園其他勞働受負事業 旅館業、商店部を有する神川兄弟は、勞働者を一手に集め、且つ是等の食料其他を供するの便利を有し、進で農園契約を爲して、是に勞働者を入るゝは、他の受負業者に比して、多くの便利を有するものと云ふべし三年前より、神川兄弟が此附近の農園主と契約して、勞働者を入れたる、キャンプの數殆んど五六十箇所にも達すべく、其契約の下に使用せる勞働者、葡萄收穫の時期に於ては、實に二千人に達せり、以上は神川兄弟の共同せる事業の梗概なり、此外に彼等の直接若しくは、間接に關係せる事業また少からず、桑港に於ける北米貿易會社、布市に於ける製酒株式會社の如き、彼等兄弟の中、多くの株券を有し、其重役若しくは支配人たるあり、固より一々茲に列記するの遑わらず。

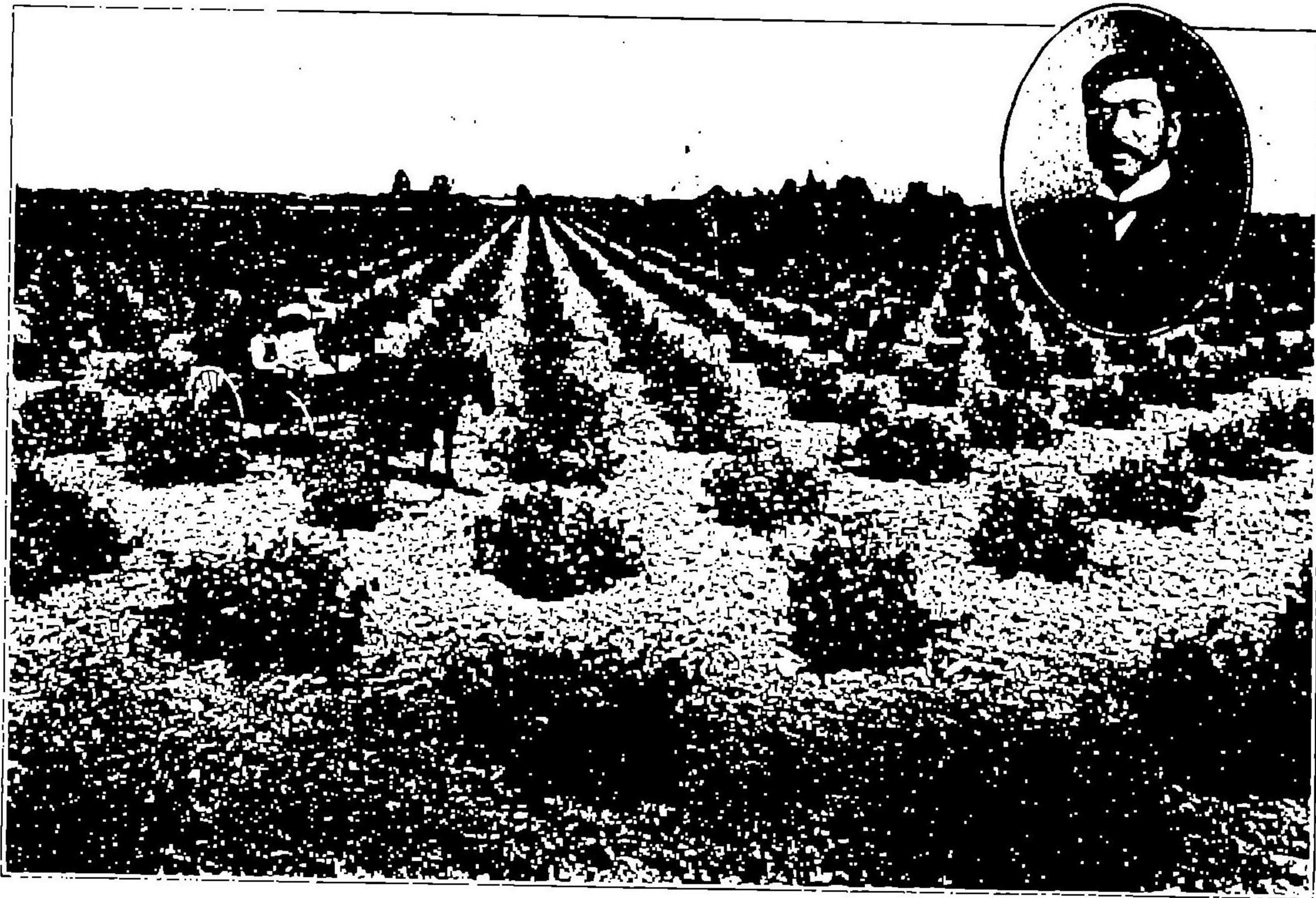
(三) 地方農園地

クローブス フレスノ市より十四哩の東北に當り、ポラスキーに達する、エスビー鐵道線路

前の馬車に乗りたるは眞宅夫妻



布市附近クローブス 眞宅第一郎所有葡萄及雜園と其住宅



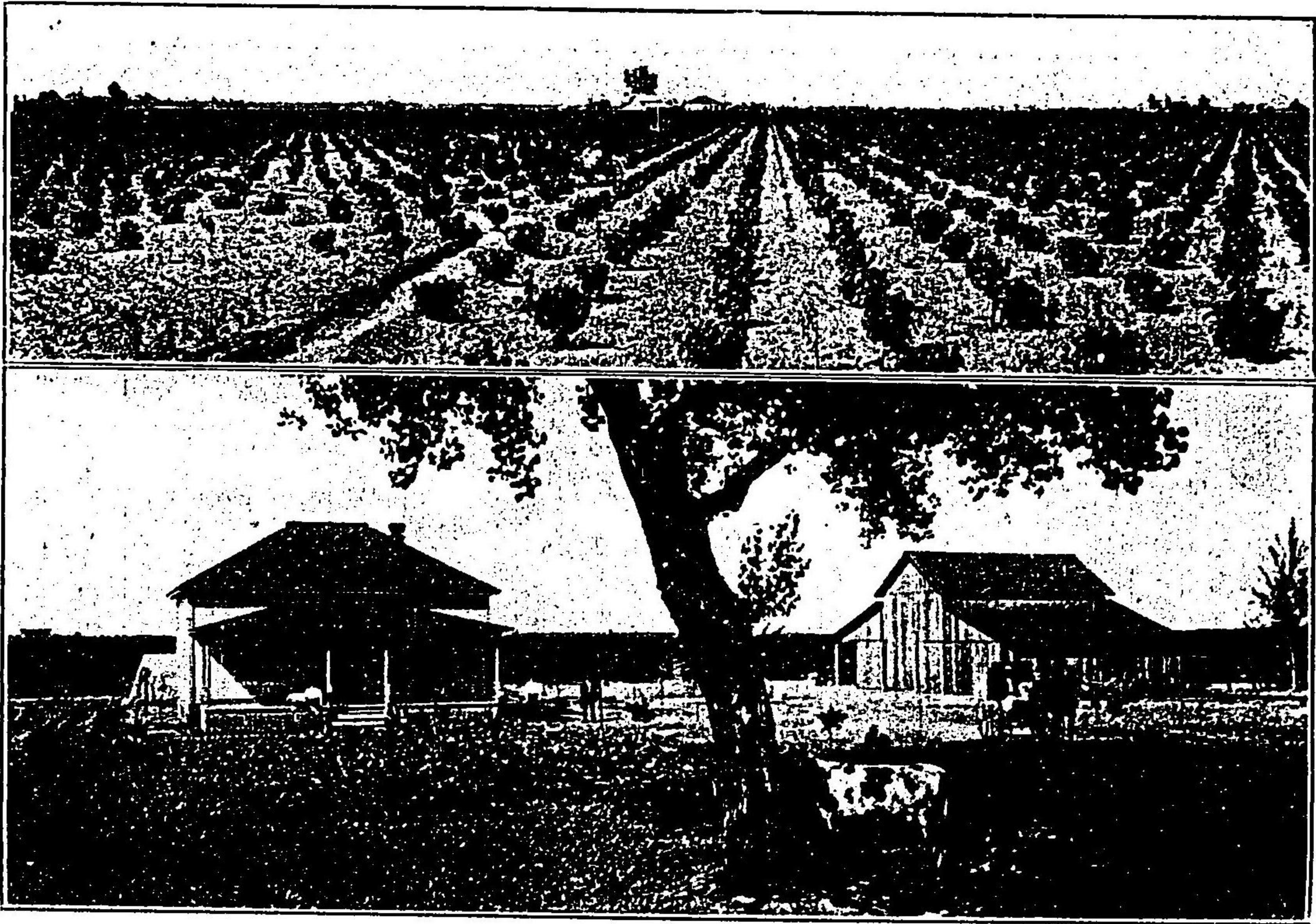
仁田米藏

仁田米藏在英一千九百零九年所創之葡萄園

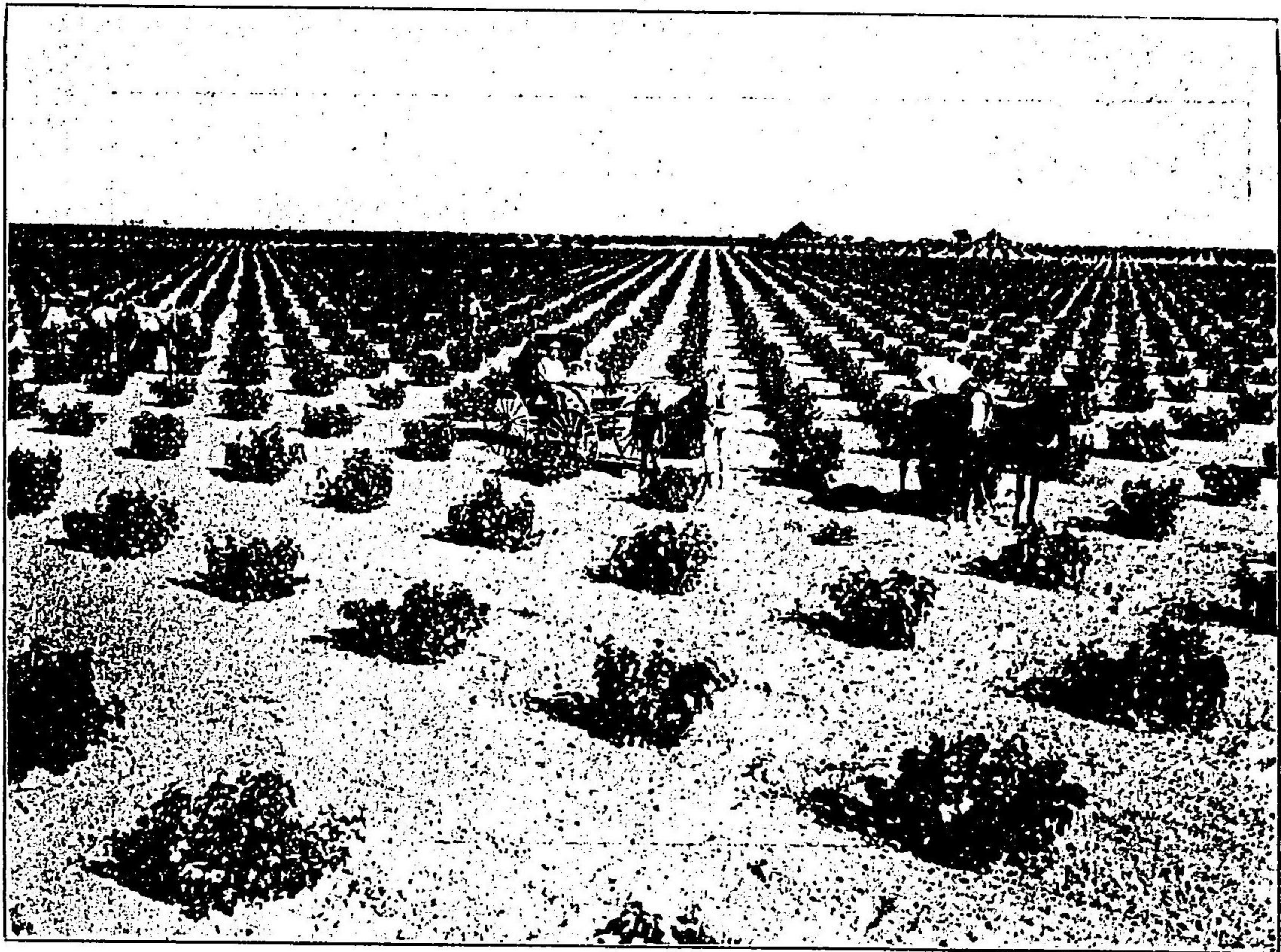


馬場
田田
商會
外部
全景

十八
號
田
商
會



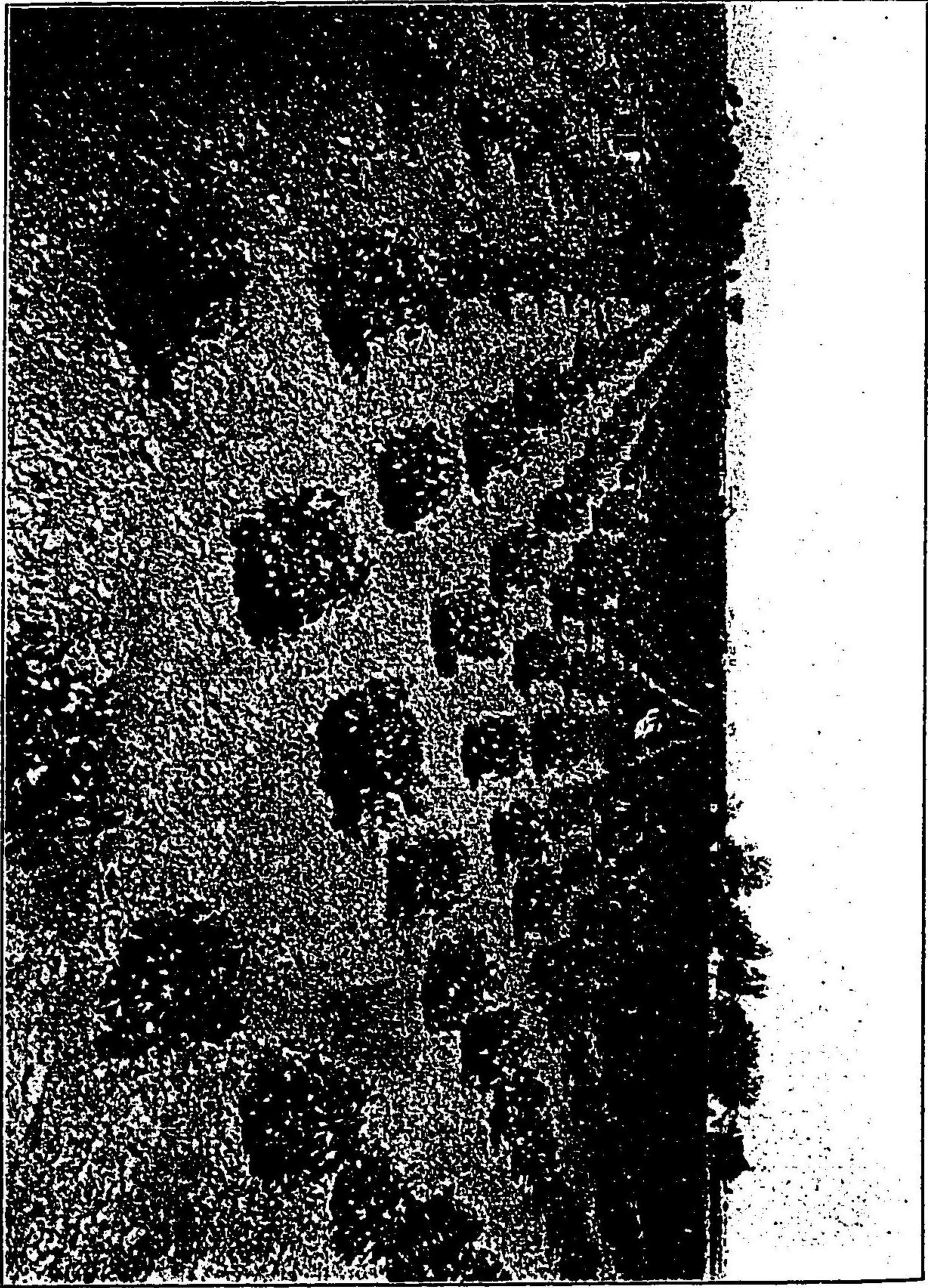
物築建屬附と地宅び及園葡萄有所助之要野屋部 スブーロク近附市布



布市附近ボールス 八十英町の葡萄園井家屋

所有者中川久政一耶

近木期七所有の葡萄園と住宅

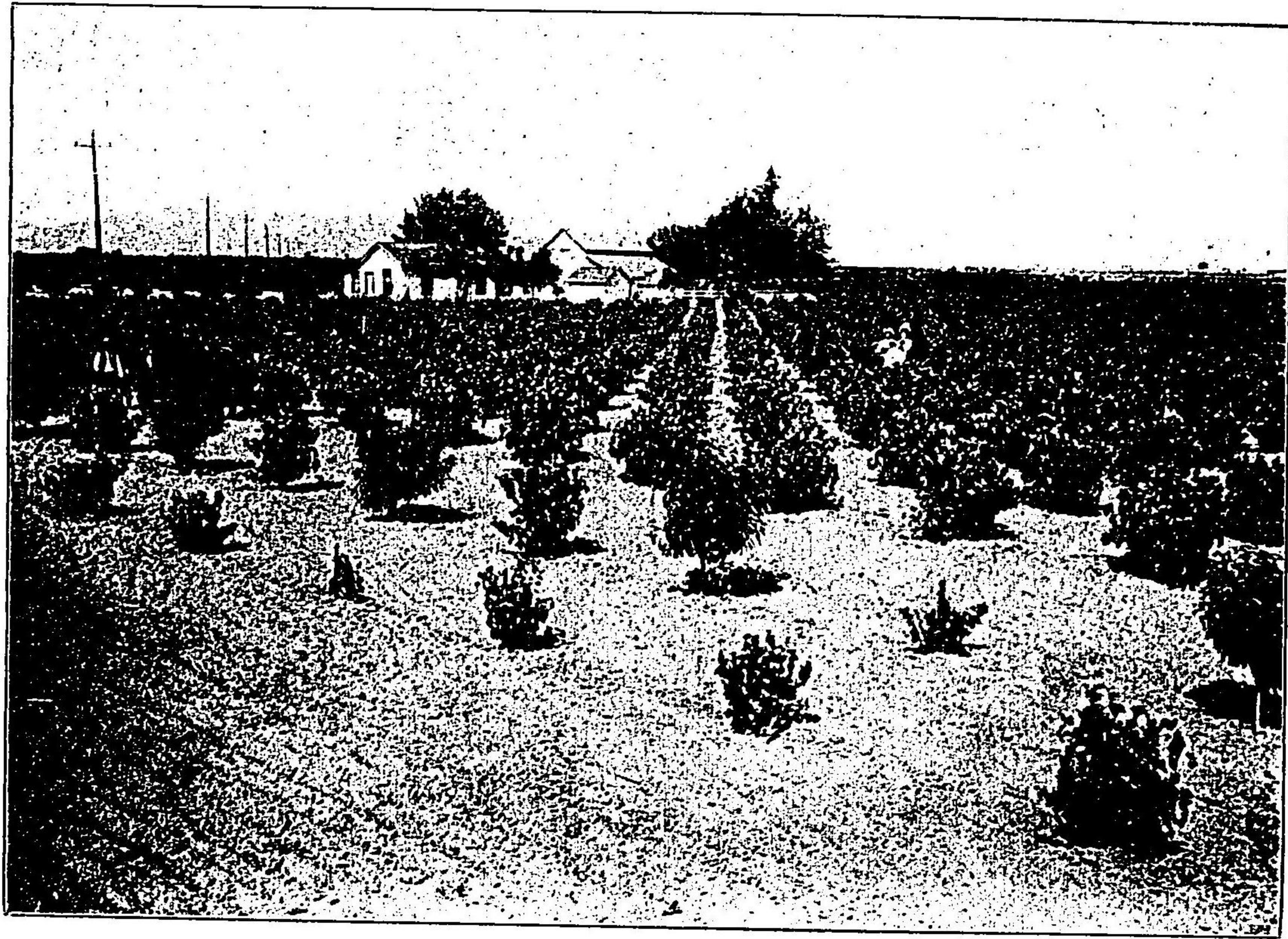


布市附近クローブス

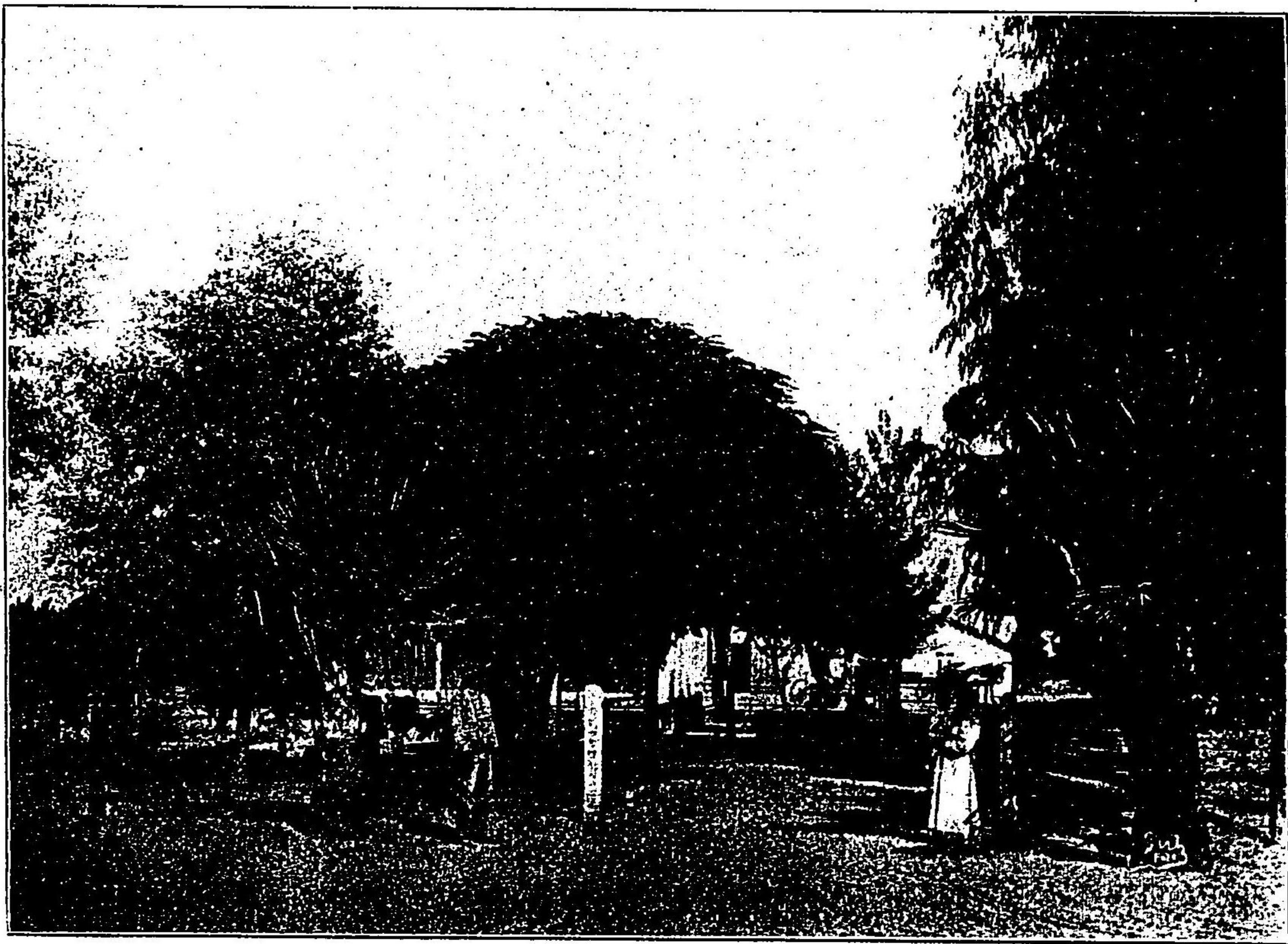


布市附近クローブス
 栗屋萬右衛門家
 前列 栗屋萬右衛門 栗屋萬三郎 栗屋萬三郎
 後列 栗屋萬三郎 栗屋萬三郎 栗屋萬三郎

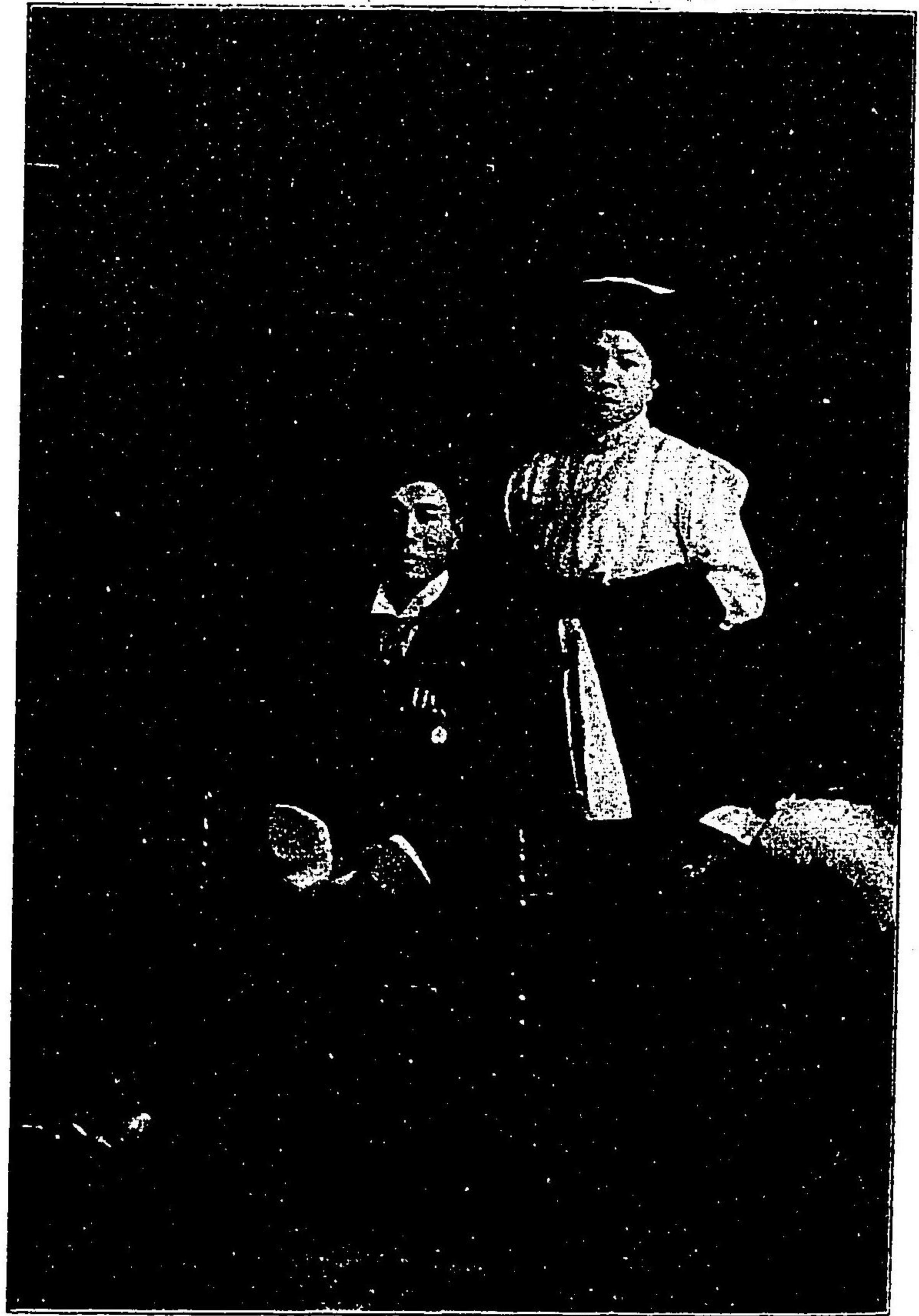
布市附近クロロプス



迫木仁蔵所有の葡萄園と住宅



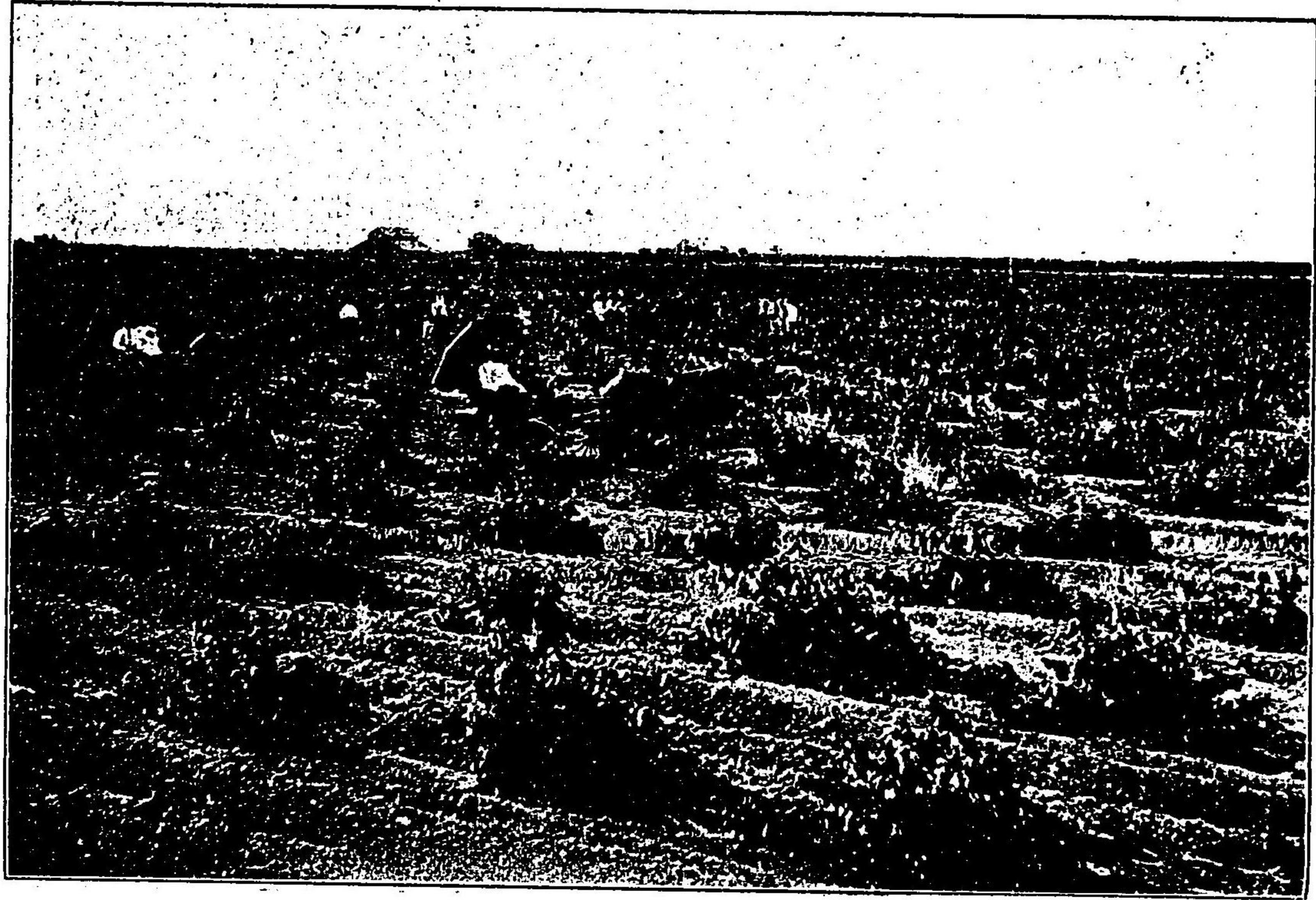
布市附近オレヤン平川初太郎住宅



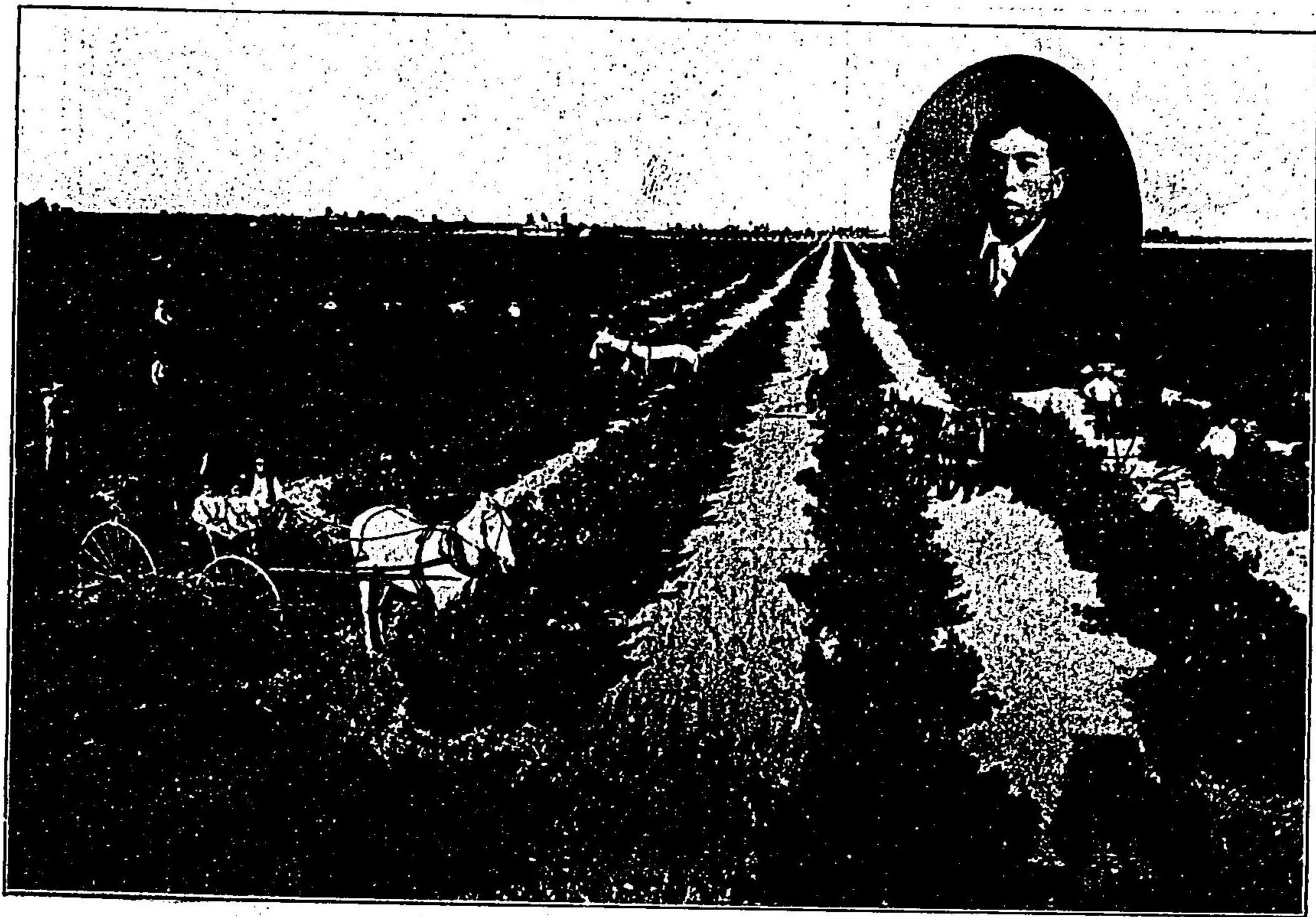
のきあ妻及耶三寅田高 者有所の園桃及菊箱スプーロク部ノスレフ



屋家に井園菊箱有所松菊非松 ヤレバ近附市ノスレフ



園葡萄の有所六五見横スルーモ近附市布



園葡萄の替経助和本西ニヤレバ近附市布

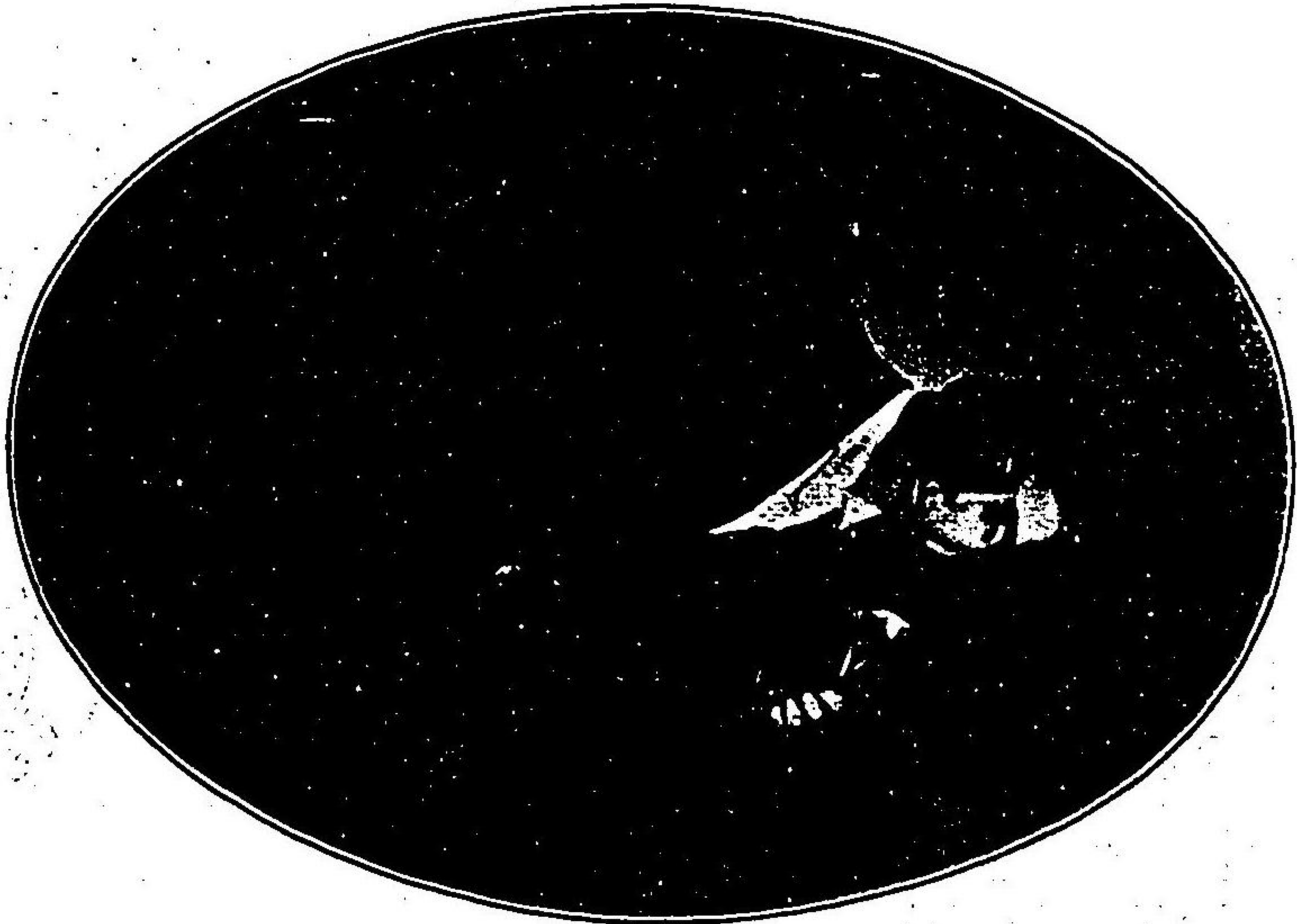
園葡萄の營同共耶三小川谷 耶次周本并 ーガンサ近附市ノスレフ



馬愛の弗千格價と庭家耶一喜宅眞 スゾーロク



主館ニ旅ニ田増ニ市ノスレフ 耶次徳田増



者有所地主及業約契園葡萄ニ 近附市ノスレフ 耶次玉野岡



小田三郎 附近アラー 市ノスレフ



松式木膏 人主享華六 市ノスレフ

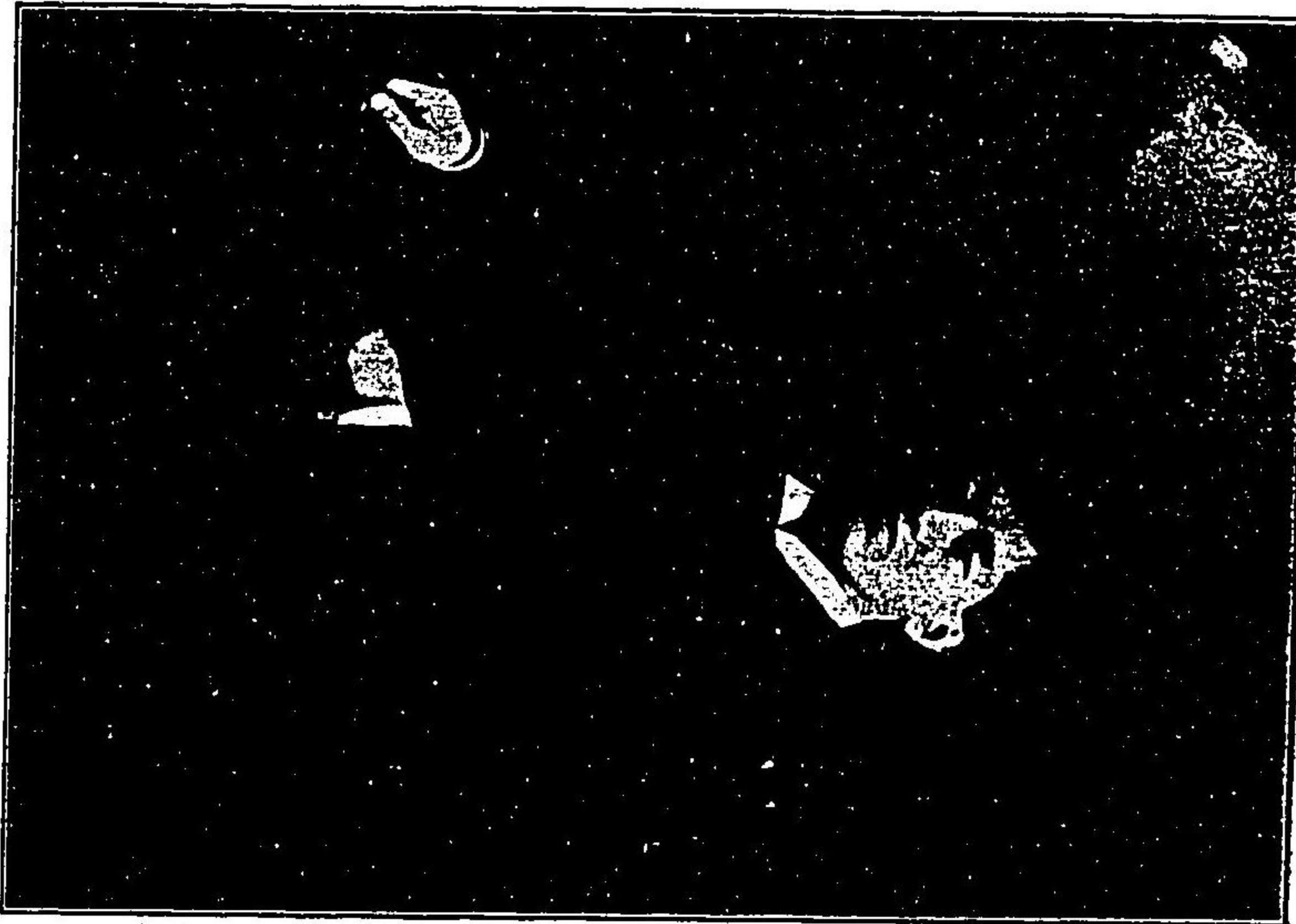


島見五清 人主會商和紀 市ノスレフ

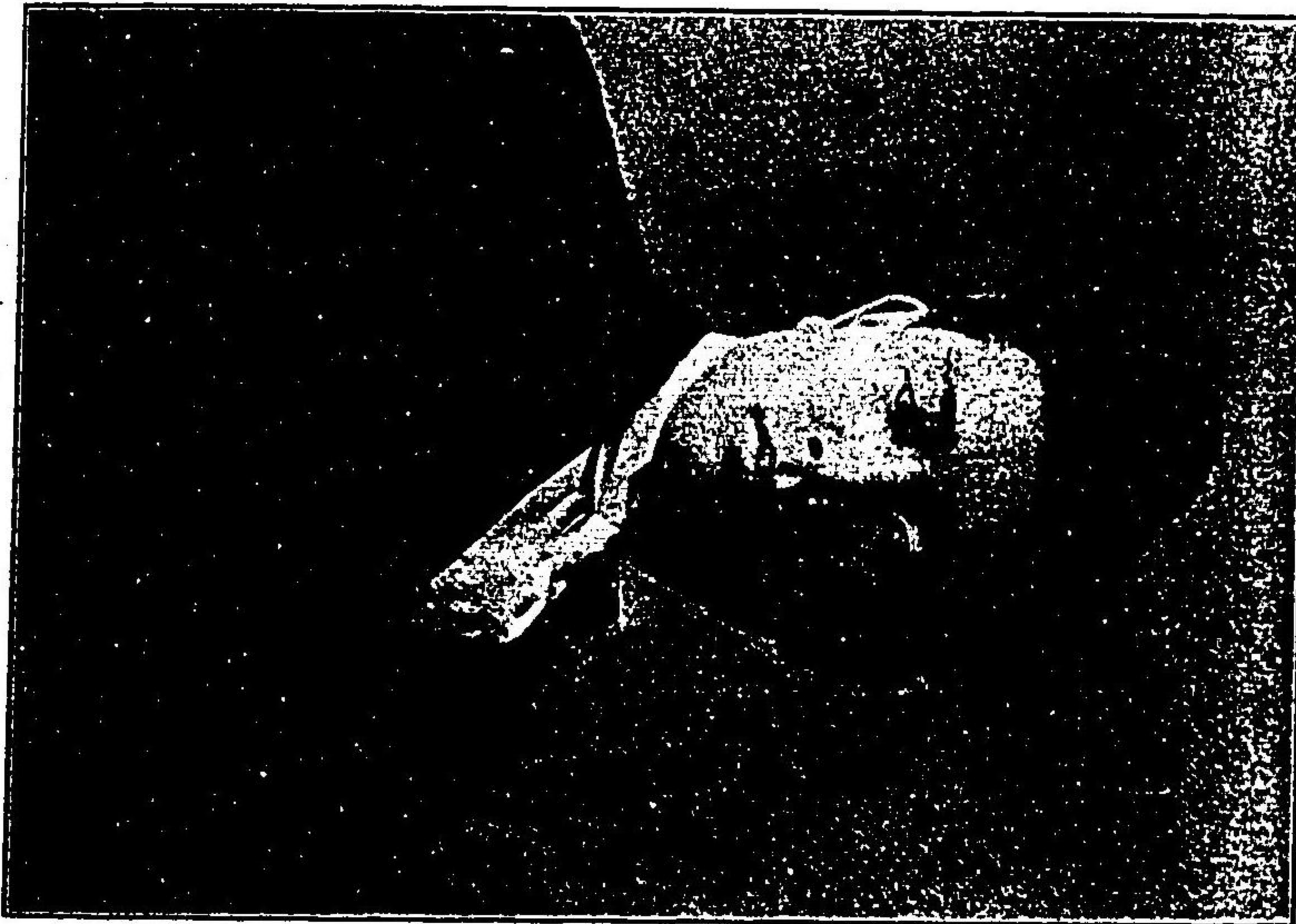


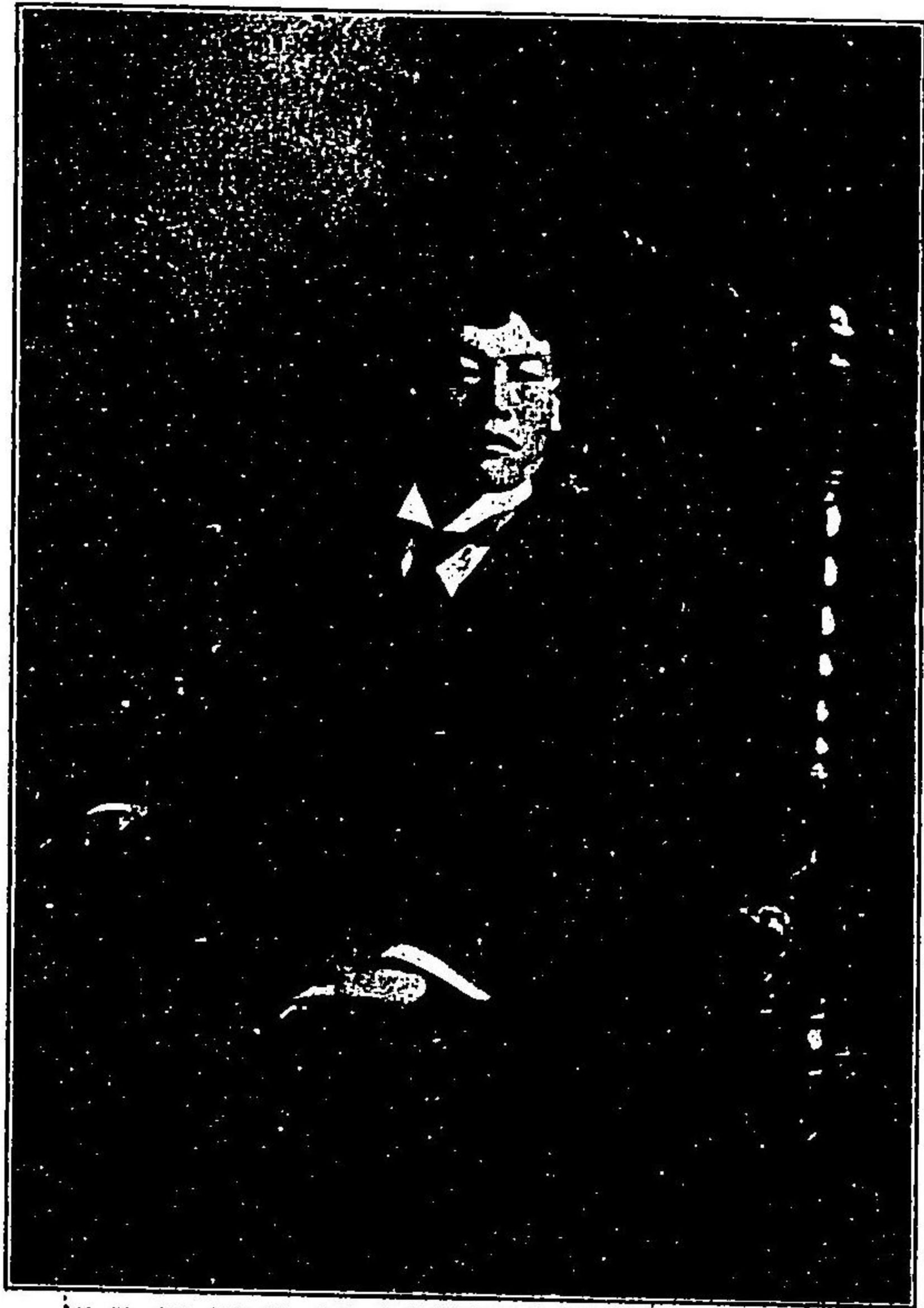
宮二音松 市ノスレフアラー

桂 元 主店食洋スモーク及び一ウラノメ 市ノスレフ



浅田 一 任主店魚一レトモ 市ノスレフ





松菊瓶石 者有所園葡葡 スルーボ



市音宮二 者有所園葡葡 スルーボ



作米野佐 者約契園農 近附市ノスレフ



耶五林原上 ヤリセイバ

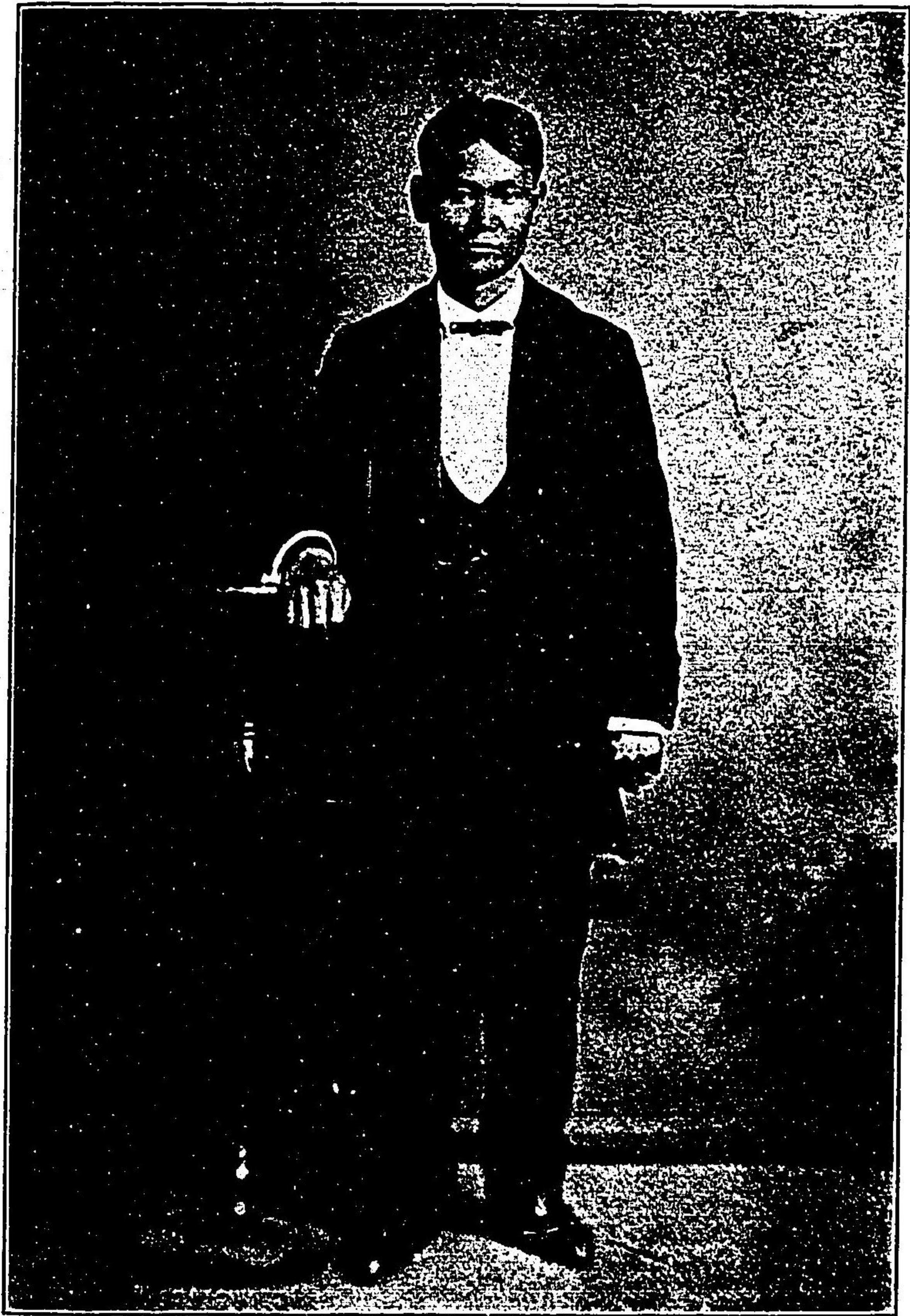
吉代三崎熊 スルーボ郡ノスレフ



妻夫耶一仁上田 マルセ郡ノスレフ



ルビスマーアフ郡レラツ
勇男長と耶三崎川湯



六平尾松 主店商尾松 ーレドーリ近附市ノスレフ

に添へる地にして、現時十三人の土地所有者ありて、其所有面積三百九十英町に達し、此外現金借地者六名、面積三百七十英町、歩合耕作者三組、面積五百七十英町あり、始め布市の東イーストンの地は、葡萄の栽培地として囑望せられたれども、灌漑の爲に、土地に鹽分を生じ、作物の發達を害するに至る事を發見し、之と共に該地の土地所有者は、漸次東方の地域に注目するに至りクロープスの地に試作を爲したるに、此地方はサンオーキン河の南岸にありて、作地に灌漑したる水は、流域の低地に向て流出し、從て鹽分は作地の上面に留まらずして、深く地底に浸透し作物に損害を蒙らざる事を確認したるを以て、土地の騰貴すると共に、遽に開拓の氣運を催進するに至りたるなり、布市附近日本人の地面を購入するもの、近年頗る多し、就中其發達の速なる事、此地の如きはあらず、現時空地一英町の價百弗以上にして、灌漑水は、キングスリバーのデツチ會社より供給せり、霜害少なく主産物は葡萄の外、桃を産したるまた麥作を爲すものあり、此地の葡萄は頗る糖分に富めるを以て、之を箱詰として市場に出し、其價他に比して高し、農業者として入りたる最初の日本人は、毛保某にして、間もなく廣島縣人新宅嘉一郎、イーストンより來りて、此地の葡萄園四十英町を購入し、爾後此地に日本人侵入の端緒を開くに至れり、此地日本人農家の状態は、他の部落と趣を異にし、大抵完全なる家庭を有し、白人の住居に比して遜色をらざるものあり、之等の農家は、始めより此地に勞働者として入り來らず、他の地方にて勞働

したる結果、充分なる資本を携へ、地主として入り来りたるを以て、白人社會もまた、之を輕侮せざるのみならず、殆んど隣保の情誼を有し、同等の交際を爲しつゝ、ある事是なり、日本人所有の葡萄園には、已に植付後數年を経過し、充分の收穫あるものあり、今一二年にして盛收期となるべきものあり、近年一般葡萄の市價振はざりしが爲に、豫期の結果を得ざりしと雖も、斯の如き健全なる地盤の上に建てられたる、此地農家の前途は、他に比して特に有望なりと云はざるべからず。

土地所有者

- 部屋野要之助(廣島縣) 四〇英町(葡萄) 迫本勘藏(廣島縣) 二〇英町(葡萄)
- 新宅嘉一郎(廣島縣) 四〇英町(葡萄、桃) 迫本仁藏(廣島縣) 二〇英町(葡萄)
- 竹本久米吉(同) 四〇英町(葡萄) 高田寅三郎(同) 二〇英町(葡萄)
- 栗屋萬衛(同) 三〇英町(葡萄) 西原四方吉(同) 二〇英町(空地)
- 栗屋泰二(同) 四〇英町(空地) 清水白一(同) 二〇英町(空地)
- 栗屋修二(同) 四〇英町(空地)

「フアーラー」フレスノ市の南九哩にして、エスビー線路に添ひ、地味肥沃にして葡萄園及び桃園多く、十數年以前より白人の土地を開拓し、日本人労働者を使用すもの多し、日本人のキヤ

ンプは其數七八十に達し、彼等の多くは始め白人の農園に労働して、漸次資本を作り此地方に居住を爲すに至りたるものなり、葡萄の收穫時期、日本人労働者の來り集る者、二千人より三千人の間に於て、平素附近の在住者を合して三百人内外あり、白人農園の早くより開拓せられたるを以て、比較的日本人の土地を所有するもの尠く、現時の土地所有者五名、面積百六十英町、現金借地者二名、作地百二十英町あり、此附近の土地は空地一英町百弗乃至百五十弗を値し、宅地は一ロット、百弗乃至百五十拾弗なり、會て支那人街の繁榮したる事ありしも、日本人の勢力彼等を壓倒して、現時僅かに二軒の家屋あるのみ、此地日本人の市街營業者は、大抵敷地を所有し、自ら家屋を建築せるものにして、殆んど借家住居を爲す者なし、市街營業者として、商店三、旅館五、球場五、理髮店二、料理店二あり、就中重なる市街營業者及び土地所有者を擧ぐれば商店として、隅田商店は此地の大商店にして、其規模サンオーキン平原中、神川商店を除きて、他之に及ぶものあらず、エー、ビー、シー商會また此地の大商店として知らる。

土地所有者

- 隅田實一(廣島縣) 四〇英町(葡萄)
- 茶森民五郎(廣島縣) 六〇英町(葡萄)

二宮 音松(廣島縣) 四〇英町 (葡萄)

小田 喜三郎(同) 二〇英町 (葡萄)

新見 安太郎(同) 四〇英町 (葡萄)

川野 久之助(同) 二〇英町 (空地)

宮 本 某(同) 二〇英町 (葡萄)

堀 元太郎(熊本縣) 二〇英町 (葡萄)

明治三十年の頃、山崎某旅館を開業し、爾後數人の經營者を生じ、三十二年十二月隅田實一、同地停車場の附近に、四十英町の土地を買得せり、之れ米國に於て日本人にして、登記を経て土地を買得したる最初にして、翌三十三年廣島縣人川野久之助、四十英町の土地を購入したり、此年隅田商店開業せられ、爾後漸次日本人の營業者が増加し、斯くて明治三十八年、一般の經濟界の快復すると共に、遂かに著しき發達を爲すに至れり、此地に日本人集會所あり、醜金二千弗を以て敷地三ロットを買ひ、新に家屋を建築せり。
『セルマ』 布市の南十五哩にして、葡萄及び果物の産地たり、エスビー鐵道に添ひたる地にして人口二千二百、土地の高度三百一呎、また有力なる日本人發展地たり、現時の在住者三百人、他に支那人街の存在せざるを以て、同胞社會の風紀正肅にして、發達また良好なりと稱せらる、

土地所有者

金森 義信 (廣島縣) 二〇英町 (葡萄、桃)

安保 龜吉 (同) 四〇英町 (葡萄、桃)

梶山 佐一 (同) 四〇英町 (葡萄、桃)

梶山 熊一 (同) 四〇英町 (葡萄、桃)

富永 又喜 (熊本縣) 四〇英町 (葡萄)

田上 仁一 (同) 四〇英町 (葡萄)

明治三十一年廣島縣人田上角太郎始めて旅館を開きたる事あり、之れ此地最初の日本人營業者にして、此頃兵庫縣人東野市之進、熊本縣人益田某等歩合耕作を始め、爾後同胞の來りて歩合作を爲す者多く、其資金あるもの地を買ひて、永住的計畫を爲すものあるに至れり。
ポールズ 布市の西南八哩の所にあり、サンタファイ鐵道に添ひ、全村悉く土地所有者にして、純然たる農村を形成し、恐らくは全米國中、健全なる日本人農家の最も多き地なるべし、

明治三拾八年以來の新開地にして、葡萄及桃を栽培するもの多く、大和殖民地若しくは、コロンの日本村よりも、基礎の健全にして將來大に發達の望を有す、此邊の地は空地一英町百弗以下にて買收せらる、最も低價の地は一英町貳拾弗乃至拾五弗にて購求する事を得此地の北に當りイーストンと云へる地あり、始め日本人の此地に於て、土地を買ひたる者少からざりしも、地質アルカリ性を帯び、作物に適せざるを以て、漸々南方に轉じ、遂にポールの地發展を見るに至れり、現時日本人土地所有者三十六組、其所有面積千七百九十英町あり、現金借地者四名、其借地面積三百二十英町あり。

土地所有者

- 平川初太郎(廣島縣) 七〇英町(葡萄、桃) 一六〇英町(葡萄其他)
- 中田重太郎(同) 四〇英町(葡萄、桃) サンオーキ
- 兒玉常太郎(同) 二〇英町(葡萄、桃) ン農業會社
- 荒川 庄六(同) 六〇英町(葡萄、桃) 横見 五六(廣島縣)
- 中川久太郎(同) 八〇英町(葡萄、桃) 横見 三八(同)
- 中川 政一(同) 三宅又次郎(同) 佐々木徳一(同)
- 西村助治郎(同) 二〇英町(葡萄) 三宅又次郎(同)
- 津田 伊作(同) 西村助次郎(同)
- 佐々木武一(同) 小川 佐一(同)
- 岡田喜太郎(廣島縣) 武田庄次郎(同)
- 石瓶 徳松(同) 阪下徳右衛門(和歌山)
- 石瓶 兼松(同) 岡田増治郎(岡山縣)
- 西村助次郎(同) 岡田 里介(同)
- 小川 佐一(同) 二宮 香松(廣島縣)
- 武田庄次郎(同) 原田丑太郎(同)
- 阪下徳右衛門(和歌山) 小田喜三郎(同)
- 岡田増治郎(岡山縣) 築村 龜松(同)
- 岡田 里介(同) 築村秀太郎(同)
- 二宮 香松(廣島縣) 新宅嘉一郎(同)
- 原田丑太郎(同) 八〇英町(同)
- 小田喜三郎(同) 四〇英町(同)
- 築村 龜松(同) 四〇英町(同)
- 築村秀太郎(同) 二〇英町(同)
- 新宅嘉一郎(同) 二〇英町(同)

- 二宮 音一(廣島縣) 四〇英町(葡萄)
- 木下 健一(同) 四〇英町(葡萄)
- 石崎 丈一(同) 二〇英町(葡萄、桃)
- 平原常太郎(同) 二〇英町(葡萄、桃)
- 大倉辨一郎(同) 六〇英町(葡萄、桃)
- 藤本 磯平(同) 二〇英町(同)
- 今田 序一(同) 四〇英町(同)
- 早川 潔(山梨縣) 二〇英町(同)
- 二宮 彦一(廣島縣) 四〇英町(葡萄)
- 黒川 (同) 四〇英町(葡萄)
- 中島五百藏(鳥取縣) 四〇英町(同)
- 中村清之助(廣島縣) 二〇英町(同)
- 中村 熊一(同) 二〇英町(同)
- 本田 彌吉(同) 四〇英町(同)
- 新田角次郎(同) 二〇英町(同)
- 岡田喜太郎(廣島縣) 八〇英町(葡萄、桃)
- 石瓶 徳松(同) 四〇英町(葡萄)
- 石瓶 兼松(同) 四〇英町(葡萄)
- 西村助次郎(同) 二〇英町(葡萄)
- 小川 佐一(同) 二〇英町(葡萄)
- 武田庄次郎(同) 四〇英町(葡萄)
- 阪下徳右衛門(和歌山) 四〇英町(同)
- 岡田増治郎(岡山縣) 四〇英町(同)
- 岡田 里介(同) 四〇英町(同)
- 二宮 香松(廣島縣) 四〇英町(同)
- 原田丑太郎(同) 四〇英町(同)
- 小田喜三郎(同) 八〇英町(同)
- 築村 龜松(同) 八〇英町(同)
- 築村秀太郎(同) 四〇英町(同)
- 新宅嘉一郎(同) 四〇英町(同)

有福 末松(廣島縣)

四〇英町(桃、空地)

檜原熊太郎(福岡縣)

六〇英町(葡萄)

佐藤 幸吉(同)

熊崎三代吉(廣島縣)

二〇英町(同)

長尾 藤吉(同)

四〇英町(葡萄)

三玉 春市(同)

四〇英町(葡萄、桃)

長尾 賢二(同)

四〇英町(葡萄)

白河 (同)

二〇英町(葡萄)

岩崎 喜一(同)

八〇英町(葡萄)

筒井 兼吉(同)

八〇英町(同)

岩崎 寶造(同)

八〇英町(葡萄)

境 與太郎(福岡縣)

四〇英町(同)

叶谷 馬吉(同)

八〇英町(葡萄)

中島忠次郎(香川縣)

一〇〇英町(葡萄、桃)

叶谷 九一(同)

八〇英町(葡萄)

石井耕四郎(同)

一〇〇英町(葡萄、桃)

叶谷 佐一(同)

八〇英町(葡萄)

『デルレー』 布市の東南十三哩にして、サンタフキー鐵道線路に添ひ、地味肥沃にして、また多

くの葡萄園あり、附近土地の價一英町八九拾弗を値す、日本人にして葡萄苗、桃苗を仕立るもの

多し、葡萄收穫期には、約二千人の労働者を要す、同胞の土地所有者一名、地面二十英町、現金

借地者九名、借地面積三百七十二英町、歩合耕作者三名、作地面積百四十四英町あり、營業者ど

しては商店一、旅館二、球場二、理髮店一、飲食店一あり。

土地所有者

村上 愛吉(廣島縣) 二〇英町(葡萄)

『サンガー』 デルレーの東に接近せる地にして、また廣大なる葡萄園あり、日本人の土地所有者

土地所有者

三垣與三郎(岡山縣) 四〇英町(空地)

小川三四郎(同) 三〇英町(同)

森 民次郎(靜岡縣) 二〇英町(同)

谷川小三郎(廣島縣) 四〇英町(葡萄)

舛本周次郎(同)

山王勝治郎(同) 二〇英町(葡萄、桃)

パレア 布市の南十六哩にして、サンタフキー鐵道に添ひ、新開の葡萄生産地たり、附近尚ほ

未開の沃地少からず、此地方白人の市街地なく、僅に三四の營業者、停車場附近にあり、葡萄の

收穫期に至れば、日本人の労働者の此地に入るもの、三四百人内外あり、此地は最も近時の發達

に屬し、明治三十年廣島縣人久保田壽郎、山口縣人西本和助等、農園の事業を受負ひ、労働者を

率ひて此地に入りたるより、漸次日本人の數を増加し、明治三十六年始めて久保田旅館を開く、

之れ日本人街の發端にして、明治四十年加來旅館其他の營業者を續出するに至れり、此地の日本人は始めより各敷地を買ひ、自ら家屋を新築し、純然たる日本人街の状態を爲す、此等の敷地は一ロット百弗以上にして、家屋の建築費は大抵千弗内外なり、土地所有者九名、其面積四百五十一英町あり、市街營業者としては旅館四、商店三、料理店一、球場二、理髮店一、菓子屋一あり、土地所有者の中、山口縣人仁田米藏の百二十英町は、其最も大なるものにして、サンオーキン平原中屈指の大農業家たり。

土地所有者

- 仁田米藏(山口縣) 一二〇英町(葡萄、桃)
- 前田寅吉(高知縣) 二〇英町(葡萄)
- 毛保宇一(廣島縣) 四〇英町(葡萄、桃)
- 村島代次郎(同) 四〇英町(葡萄、桃)
- 松井菊松(同) 四〇英町(葡萄)
- 沖野新太郎(同) 四〇英町(葡萄)
- 岡村權之助(同) 二〇英町(葡萄)
- 西村 (同) 二〇英町(空地)

桂源助(廣島縣)
正木源三(同)

六〇英町(葡萄、桃、蜜柑)

川手源市(同) 四〇英町(葡萄)

高田 (同) 二〇英町(葡萄)

リドレー 布市の南二十四哩、フレスノ郡の南境に近く、エスビー及びサンタファイ鐵道の便あり、葡萄及び桃の産地にして、平時日本人の此地方に住するもの、二百人内外にして、葡萄收穫期には、約四百人内外の労働者あり、河流ありて水利最も好く、土地は空地の價一英町七拾弗乃至百弗を値す、此地市街の設立後未だ七八年を出すと雖も、其發達甚だ急速なり、明治三十五年福岡縣人安井式等始めて此地に入り、明治三十九年十一月、始めて橄欖旅館を開業す、之れ市街營業者の起原にして、明治四十一年四月此地日本人會を組織し、花田捨藏其會長たり、會員六十名あり、會費は毎月二十五仙を納めしむ、土地所有者十組、其面積四百二十英町、現金借地者二名、借地面積六十英町あり、營業者としては食料雜貨店二、湯屋二、球場三、旅館四あり。

土地所有者

安井式(福岡縣) 四〇英町(葡萄、桃) 川野新太郎(廣島縣) 六〇英町(葡萄)

宮崎文太郎(福岡縣) 二〇英町(葡萄)

北原 市藏(同)

森下 彌一(同)

北原 徳一(同)

増田満次郎(廣島縣)

宮田龜太郎(同)

大亦虎一(和歌山縣)

和氣 圓平(岡山縣)

金子 常助(廣島縣)

宮田 兼助(同)

勿本増太郎(同)

井原 孫藏(同)

水田 孫藏(同)

中村 萬槌(山口縣)

岡村七五郎(同)

大中貞五郎(同)

中村惣十郎(同)

四〇英町(葡萄)

二〇英町(葡萄)

四〇英町(葡萄、桃)

「キングスバーク」「セルマ」の南六哩にして、人口三百、また發達の速かなる地なり、日本人の土地所有者十二名、此面積三百六十英町、歩合耕作者十名、此作地面積四百五英町あり、他に旅館營業者一名あり。

土地所有者

野村吉太郎(島根縣) 二五英町(葡萄)
俵 長太郎(同) 二五英町(同)

小形 定吉(愛知縣) 八〇英町(葡萄)
田上萬次郎(廣島縣) 二五英町(同)

木村壽太郎兄弟(福岡縣) 四〇英町(葡萄)
西 磯五郎(同)

岡田賢一(廣島縣) 四〇英町(同)

山崎、山本、(廣島縣) 二五英町 (桃)
本田惣四郎(熊本縣) 五〇英町 (葡萄)
富永 又記(同) 五〇英町 (同)

(四) フレスノ郡成業列傳

フレスノ市内の部

△神川理一 廣島縣安佐郡三篠町の産にして、明治七年五月生る、始め家業かなりしが、一時資産大に傾き、所有地を賣却して、負債を償却するに至れり、理一幼にして之を悲み、慨然として家運を挽回せんとするの志あり、乃ち二弟光二と相談り、明治二十七年渡米して、鐵道及び農園等に勞働し、後ち一年にして弟光二また渡米す、是に於て兄弟心を一にして艱難貯蓄に努め、已にしてフレスノに來るや、當時日本人勞働者の、大に此地白人に歡迎せられむとするの傾向あり、而も彼等勞働者の宿泊すべき家なく、不便云ふべからず、彼れ乃ち旅館を開業して、同胞の便に充つ、當時營業の困難なる事、想像の外にして、或は石油代金の支拂に窮し、使用半ばにして、白人の商店より之を奪ひ去られ、水代の未納なりしが爲に、會社よりの給水を停止せられ、屋賃の滞納に依て屋主より殆んど立退を命せられんとしたることあり、此時に當り、光二はサン

ジョセの農園に在り、毎に其給金を以て兄の事業を助け、殆んどまた自己の餘裕を有せず、彼は旅館營業の前途、尙遠きを見て屢々兄を諫めて、之を廢業せしめむとす、然れども兄理一は、其初一念を抛擲するを欲せず、光二是に於てか、書を故國の父に寄せて、共に與に兄の事業を中止せしめむとす、父二子の通信を見て沈思默考する事多時、終に兄理一の目的を贊して、弟光二を慰解して曰く、汝暫く忍んで兄の事業を助けよと、然れども幸運の來る事、千辛萬苦の後ならざるべからず、光二熟々思へらく、兄の決心や可なり、父の獎勵亦理なきにあらざる、然れども米國の地、他に事業尠からず、何ぞ區々たる一の旅館事業にのみ限らむやと、一日來りて兄に告げて曰く、黄金は泥土に委すべからず、予遂に長く家兄の命に従ふ事能はずと、理一痛心出づる所を知らず、而も今にして其補助を失せば、家事また成るべからずと、此に於て百方之を慰解し、繼ぐに涙を以てす、賢弟我事業を助る事久し、而かも未だ其結果の之を慰むるに足るものなしと、乃ち一時計店に至り、時計を求めて之を弟に贈り、以て僅に彼の不平を解く事を得たり、此時光二は年齢僅に十七歳なりしと云ふ、天涯羈旅の兄弟、家運挽回の奮闘、嗚呼また慘ならずや、聞く光二が兄より與へられたる時計は、其後の窮境に際し、兄理一之を借りて一時入質したる事ありと云へり、以て其當時の境遇を推想するに足れり、已にして布市日本人社會の漸く發達するや、旅館の營業頗る繁盛を呈し、其商店を開くや、同胞勞働者の就て求むるもの多く、信用

の加はるに従ひ、事業の隆盛旭日東天の勢を爲し、三弟益一、明治三十二年を以て渡米し、四弟幸一は翌三十三年を以て渡米し、以て二兄の事業を助くるに至れり、惜かな二弟光二は、其後病を以て死し、一時殆んど神川家の柱石を失したるの嘆あり、光二の爲人、温厚惻惻にして、よく人情を解し、人に接する事極めて厚く、其死するや、聞者之を惜まざるはなし、神川の創業彼與つて大に力ありと云へり。

△吉木光之進 山口縣熊毛郡大野村の産にして、明治五年生る、明治二十六年渡米して、バンク一に上陸し、砂市に留る事六ヶ月、此間伐木事業に従事し、後ち桑港を経て、サクラメントに來り、附近の果樹園に勞働する事一年餘、已にして桑港に出で、勞働の餘暇日本人教會に入りて英語を學ぶ事一ヶ年、去て再びサクラメントに至り、其附近ヨーロー郡に入り、果樹園を契約して、配下に八十人の勞働者を使用し、此事業を繼續する事三年、後ち給金の妥協調はざりしを以て、去て他の葡萄酒を契約し、之に働く事三ヶ月、此間配下の爲に事業を探索せんとし、單獨四方に奔走し、徒歩九日間、遂にゴインダーと云へる地に、伐木受負の事業あるを發見したるも團體中紛争を生じて、其地を去り更に、橄欖摘採の受負を爲したるが、其冬彼の引率せる勞働者は遂に四方に散去するに至れり、此に於て明治三十一年サクラメントに出で、翌三十二年フランス市に來り、同志三人と協同して、玉川亭と云へる料理店を開業したるが、此料理店は僅かに三

ケ月にして閉店し、後ち更に水月と云へる料理屋を始めたるも、亦永続する事能はず、乃ち布市白人街に、洋食店を經營して、之を繼續する事二ケ年、已にして明治三十五年、マリボサ街に於て、ローヤル、カフヒーと云へる洋食店を經營するに至れり、ローヤル、カフヒーは、彼の米國に於ける成功の端緒たりしなり、然れども成功の初め、艱難の之に伴ふは免れざる所にして、彼の洋食店事業も、其初めに當り、事業の艱難を見たるも、苦心慘憺遂に其難關を脱し、營業日繁昌するに至り、現に布市に於て最も盛大なる、洋食店と稱せらる、現時毎月百八拾五弗の借家料を拂ひ、其収入の多額なる、加州日本人洋食店に於て、稀に見る所なり、明治二十九年布市を距る事五哩の地、ウエストパークに於て、三百二十英町を借地し、此内九十英町に葡萄、七十英町に桃を植付け、其殘部に牧草を作りて、養豚及び乳牛の飼育を始めたるに、現時豚已に四百頭、乳牛三十八頭に達し、一日五十ギヤロンの牛乳を搾取し、其一日の賣上高拾弗に當れり、農園及び牧場を使用する所の馬十一頭あり、洋食店の事業已に大なりと雖も養豚及牛乳搾取事業に至りては、其規模更に大にして、現時サンオーキン平原に於て、其信用後に神川の壘を廢せんとするもの、此等の事業與て力ありと云はざるべからず、明治四十二年布市供給會社の起るや、其大株主として、社長に推選せられ、また其業務に當れり、布市の神川を知れるものにして、吉木光之進の名を知らざるもの少からざるべし、然れども此地同胞社會の財界に通ずるものは、吉

木の名を開きて、信用を拂はざるものあらず、彼れ今や布市同胞社會、財界の雄鎮にして、其聰明の資、穩健の態度正に、サンオーキン平原、實業界の模範的人物と稱する事を得べし。

△小此木文九郎 福島縣二本松の産にして、家醫を業とす、明治三十年醫術開業試験に及第し、三十五年渡米して布市に入り醫を開業す、當時フレスノの地たるや、氣候炎熱、日本人勞働者の病に罹るもの極めて多く、而かも良醫の其生命を託するに足るものなかりしなり、此時に小此木病院の開業は、同胞社會の慰安たりしや言を俟たず爾後彼は地方の信頼を得て資産を積む事少からず、布市勸業銀行の起るや推されて其頭取となり、日本人會の組織せらるゝやまた常に重要な位置に撰ばる、性美質に富み、絶えて人に諛はず、一見奇僻の人物なるが如しと雖ども、達識よく衆を服するに足るものあり、布市日本人社會の元老にして、サンオーキン平原の一人物と稱せらる。

△宮野信吉 號を芳涯と稱す、曾て桑港に於て英語を學び後ち各地の農園に入り、オクスナード砂糖大根園の人夫受負業者たりし事あり、已にして日米新聞社の支社をフレスノ市に置くや其主任となり、以て今日に至れり、是れ布市に於ける操觚社會の元祖にして、支社の事業之れが爲めに振ひ現に地方筆政の牛耳を執れり、明治四十二年布市勸業銀行の改革に際し、聘せられて、支配人となり、日米支社の主任を兼ね、頗る常識に富み、圓滿の性格、曾て敵を作らず、若し時務

に通じ、人格の完全なるものを求めば、布市の日本人社会、恐らくは彼れを措て他にあらざるべし。

△松田立馬 廣島縣安佐郡三川村の産にして、明治二年生る、家世々醫を業とす、曾て廣島醫學校及び京都府立醫學校に學び、明治三十二年其義弟松田静雄と共同して同縣加茂郡黒瀬村に松田病院を経営せる事あり、已にして明治三十九年日本移民の墨西哥其國オハゲンアに渡航するや、附屬醫師として彼地に渡航し、留まる事一年餘、已にして移民事業の失敗に歸し勞働者の四方に散去するや、チワワ、エワウイラの諸州を経て、明治四十一年米境を超へて布市に來り、爾後松田日米病院を開業して現時に至れり、布市日本人社会現時の狀勢を以てすれば、一小此木病院を以て満足すべきに非ず、日米病院の盛なるもどより偶然に非ず。

△毛保兄弟 兄を毛保宇一と云ひ、弟を健作と稱す、廣島縣佐伯郡觀音村の産にして、宇一は明治二十六年渡米し、サクラメントに留る事一年半、後ちフレズノに來り白人、ローデングの苗木栽培所に入り、勞働に従事する事、七ヶ年の久しきに至り、貯蓄する事少からず、乃ち明治三十四年、クロープスの土地三十英町を買ひ、之に葡萄を植へ、後ち明治三十九年、バレヤの地四十英町を買ひ、又之れに葡萄を植ゆ、二ヶ所の土地、現時壹萬貳千弗を價す、彼れ此外に於て、サンガ一の地に八年間の期限を以て、十英町の地を借り蜜柑園を経営し、年々の收穫また少からず、

者の中に數へらる。

△松井菊松 廣島縣廣島市の産にして、明治十一年生る、明治三十一年渡米シタコマに上陸してアイダホ州及びオレゴン州の鐵道に働く事二年餘、三十四年加州フレズノ市に來り、葡萄園の勞働に従事する事二年、漸く貯蓄する所あり、乃ち明治三十六年、故國より妻を迎へ、花月と云へる料理店を開業して、頗ぶる利を得、後ち之を他に譲りて、山水亭と云へる料理亭を買受け其規模を擴張して之を松乃屋と改名し、營利少からず、乃ち布市の附近バレヤの地四十英町を買求し、之に葡萄を植付けて事業の基礎を作すに至れり、松乃屋は今尚ほ市内人氣ある料亭なり、葡萄園は初め空地一英町六拾五弗なりしもの、現時百八拾弗を價す、内外の事業相俟つて、其資産を作る事また少からず。

△森本鶴吉 廣島縣安藝郡下蒲刈島村の産にして、明治五年生る、明治三十二年布哇に渡航し、砂糖耕地に働き、終に病を得久しく起つ事能はず、已にして病漸く癒るや、彼再び激勞に従事して、病を得ん事を恐れ、偶々ソーダ水製造業の有利なるを見て、之に従事せんとす幸にして其

地に該製造所の起れるあり、乃ち是に入りて精勵怠る事なく、忽ち主人に信用せられて、貯蔵庫の鍵を保管するに至れり、此際彼の信用を猜むものあり、一夜合鍵を作りて貯蔵庫に入り、製品を取出して罪を彼に歸せしめむとす、而も彼の信用は之が爲めに動かされず、頗る優待せられて其任務に従事するを得たり、後ち桑港に轉航して、直に布市に至り、ソーダ水製造所を開業し、現に其營業に従事す、彼れ土地ニロットを有し、家屋四棟を建築し之に製造器械を設置し、其費總て四千五百弗と稱す、ソーダ水一ヶ年の賣上高、凡そ一萬箱にして、夏期需用の盛なるや、一日優に百箱を販賣すと云へり。

△利行泰藏 山口縣熊毛郡伊保庄村の産にして、明治十一年生る、明治三十六年渡米して、桑港に在る事一年、後ち布市に來り、モンロー、ドラグストワーと云へる白人藥舖に入りて、勞働に従事する事二年、明治三十八年一旦歸朝し、間もなく妻を携へて再び渡米し、布市に來りて、一時時計店を開業したるが、當時未だ此地に、日本人の藥舖なきを以て、夏期労働者の困難する事少からず、仍て時計店を其弟に托し、自ら藥舖を開業して、營業繁昌し、明治四十一年エフ街及びカーン街の角に移轉し、米人の藥劑師を備聘して、現に其營業に従事せり、店舖一ヶ月の借家料七拾五弗にして、店内に設置せる大理石製の、ソーダフォンテンは、千百弗を投じたるものなりと云へり、加州日本人藥舖の最美なるものにして、諸賣藥中、健胃丸は其効能顯著なるもの

として、其販路又頗る廣し、賣藥一ヶ年の賣上高約貳萬弗と稱す。

△淺田覺一 廣島縣御調郡河内村の産にして、明治十七年二月生る、明治三十五年渡米し、タコマに上陸し留る事六ヶ月、後ち加州各地を視察して、桑港に至り、勞働の餘暇を以て英語を學び、後ちモントレーに至りて、白人のホテルに勞働せしが、偶々同縣人新納吉太郎の水産會社を設立するや、之に加擔し業務の盛大なるや、明治三十九年七月布市に支店を設置するに至り、其主任となり、中央加州一帯の販路を擴張して、盛に其營業に従事し、現時一ヶ年の魚類賣上高參萬弗に上れり、彼れ夙に基督敎の感化を受け、其品性の稱すべきもの少からず。

△桂 元輔 山口縣熊毛郡田布施村の産にして、明治十八年五月生る、會て周防銀行の行務に従事す、明治三十四年七月渡米して、桑港に上陸し、旅館及び洋食店に勞働して、業務の餘暇を以て英語を學ぶ、已にして明治三十九年、桑港大震災の變あるや、翌四十年九月桑港を去りて、中加州の地フレズノ市に來り、エツチ街に於て荒川卯吉の經營せる、洋食店を買受け、之を經營し、更にアイ街の洋食店を買受け、又之れを兼業するに至れり、後ち明治四十三年六月、エツチ街の洋食店は、之を他に譲りて、ゼー街に於て白人の經營しつゝありし、大洋食店を買受現に其經營に従事せり、之をメーフラワー、レストラントと稱す、メーフラワー洋食店は、家賃一ヶ月七拾五弗にして、毎月の賣上高約貳千弗に上り、二ヶ所の洋食店一ヶ年、賣上高參萬五千弗を下らずと

云ふ、また布市日本人洋食店の大なるものと云ふを得べし。

△村島代治郎 廣島縣佐伯郡草津町の産にして、明治九年一月生る、明治三十年布哇に渡航し曾て大工職たりしを以て、砂糖製造會社の木工部に入り、勤勉五ヶ年にして、貯蓄する所少からず、明治三十五年桑港に上陸するや、サクラメント地方及び、南加州の農園に労働して、加州各地の農況を視察する事一年餘、後ちフレソノ市に來り、工場を設けて大工職に従事し、貯蓄また少からず、乃ち故國より妻を迎へ、明治三十九年十一月六日、一子を擧るに方り、其愛兒の誕生日を卜し、パレヤに於て土地四十英町を購求し、之に葡萄を植へて他人に小作せしめ。年々其收穫の四分を收む、而かも彼れ自ら市内の工場にありて、木工職に従事する事依然たり、最初一英町六拾七弗五拾仙の土地、現時一英町貳百五拾弗以上を價すと云へり。

△岩崎喜市 廣島縣廣島市の産にして、明治十一年生る、明治三十一年布哇に渡航し、砂糖製造所に労働する事六ヶ年、明治三十八年桑港に轉航して、直に布市に來り、西洋洗濯所を開業して資産を作り、弟實造と共にボールスの地八十英町を求めて、之に葡萄を植へ現時一英町の價格百五拾弗を値すと云ふ、弟實造は明治三十五年砂市に上陸して、ネバダ、アイダホ、オレゴン等の各州に入りて、甜菜耕作の事業を契約し、農業界に奮闘して、早くも立脚地を作り、兄喜市の布市に來りて事業を経営するや、洗濯業及び農園の共同者として、奮闘怠る事なく、岩崎兄弟の

事業また、布市成功者の一に數へざるを得ず。

(五) フレソノ郡成業列傳

地方の部

△眞宅嘉一郎 廣島縣安佐郡長束村の産にして、明治十一年七月生る、年甫めて九歳不幸にして母を喪ひ、未だ三ヶ月ならずして、父また病床に逝く、兄關太郎其家を嗣きたるに、嘉一郎十九歳となる時、其兄また世を早くす、彼れ年漸く二十、慨然として米國に渡航し家運の頽勢を挽回せんとす、乃ち明治三十一年一月十七日、横濱を出帆し、二月十三日英領ヴィクトリヤに上陸し、タコマに在る事一ヶ月、ポートランドに至り、ハンチントンにて、鐵道工事の石材採掘の労働に従事する事三週間、労働中多くの負傷者を見て、安全の業務にあらざるを知り、去てポートランドに出で、まさか桑港に到らんとす、而かも旅費に困窮し、八弗の汽船賃、僅かに壹弗の不足を償ふ事能はず、已にして其究情を語り漸く是を調達する事を得、桑港に着してアラメダ郡の甜菜園に労働し、漸く五拾弗の貯蓄を爲す事を得たり、然れども當時傭者被傭者に於て争論を生じ彼れの知人之れが爲に入獄せられしものあり、彼れ乃ち其貯蓄の全部を擧げて、其救援に資す、其れより布市及びサリナスの地に労働し、明治三十二年七月布市イーストンなるシメソンの果樹

園に入り、此園内に労働する事三年、優に千弗の時蓄を爲す、是れ彼の米國に於ける成業の端緒なり、主人シメソン深く彼を愛し、附近の農園を買はしめむとす、乃ちグロブスに至りて土地を視、熟考一ヶ年の後、一英町六拾貳弗五拾仙の價格を以て、四十英町の土地を買ひ、之に葡萄及び桃を植へ、其殘部の地に桃苗及び葡萄苗を仕立てたるに、翌年桃苗の價大に騰貴し、一本貳拾仙にて一萬本を賣り、貳千弗の利益を得、其翌年は、一本拾五仙にて賣拂ひ、參千弗の利益を得たり、彼は此外に於て葡萄園の間に、獨黍を作り、其收穫三百五拾弗に達したりと云へり、斯くて三年後二十六英町の葡萄園より、二十五噸の葡萄を收穫し、一噸八弗にて之を賣却し、二百弗を得、四年後百六十噸の收穫を得、一噸拾弗にて其利益千六百弗を得、別にタマスンシード三噸の收穫ありて、之を一噸八拾弗にて賣り貳百四拾弗を得たり、而して其五年後に於ては、黒葡萄二百六十噸を産し、一噸拾貳弗貳拾五仙にて、參千八百八拾五弗を得、また別に六英町の地に植へたる、タマスンシード六噸の收穫あり、一噸百拾弗にて六百六拾弗を得、其他に五英町の桃實の乾果三噸の收穫ありて、一噸貳百參拾弗にて賣り(一斤拾壹仙五厘)其代價六百九拾弗を得たり、乃ち此年に於ける彼れの收穫は、實に四千參百弗以上に達したるなり、彼れが初年に於ける桃苗の收穫は、眞に稀有の成功にして、彼は此一年の苗代貳千弗を以て、賣得地代殘額の全部を支拂ひ、其翌年の苗代にて、更にイーストンの地四十英町を買ひて、これに桃苗を植付るに至れり、當時彼の苗木にて成功せるは、附近同胞の耳目を驚したる所にして、爾後日本人の苗木を作るもの、頗る多きに至れり、彼れ今や優に壹萬八千弗の土地を所有し、千五百弗の家屋と、十二頭の馬を所有す、良馬一頭の價千弗を價し、他の一頭五百弗と稱す、其他は一頭三百弗を下るものあらず、明治四十二年妻たみ子を迎へて、家庭を成すに至る、布市附近農家の成功者として、人の知る所たり。

△部屋野要之助 廣島縣安佐郡三篠村字新庄の産にして、明治四年生る、曾て日清戦役に従軍し成歟、牙山、平壤、義州に轉戦し、功に依て勳八等に叙せらる、明治二十九年渡米して、白人の農園に労働する事三年半、頗る園主の信頼を得、其後マラガ、ソオールの農園二百英町を契約して、之を管理するに至れり、已にして日露の開戦となるや、再び戦役に従ひ、撫順より鐵嶺に向ひたるが、媾和談判の調ひたるを以つて凱旋し、勳七等に叙せらる、明治三十九年妻を携へて渡米し、再び布市に來りて其八月、四十英町の葡萄園を買ひたるが、其翌年之を他に賣渡し、此年五月更に壹萬千弗にて、グロブスの地四十英町を購入し、之に葡萄タムソン十五英町、ジエフエンデール十二英町、モスキー三英町、マルモゼ五英町、マルガ三英町、オレンヂ一英町を植付け、また其域内に、完備せる邸宅を建築し、納屋及び厩を作りて、永住の基礎を定む、天性温和にして、よく部下を愛す、中央加州の地、労働者欠乏の時に於ても、部屋野の配下に、労働者

の集せらざる事ならずと云ふ、以て如何に他の信頼を有するかを知るべし、布市勸業銀行の起るや、其大株主となり、現に其取締役たり。

△粟屋萬右衛門 廣島縣安佐郡長束村の産にして、父を初藏と稱す、慶應元年生る、年十九歳にして巡査を奉職し、後ち初等科教員及び尋常科教員たりし事八年、彼れ尙に思へらく、時勢の進歩すると共に、一戸數口の生活、何ぞ薄給者のよく之を支ゆる事を得んやと、偶々叔父某の米國にゐる者、加州農業の有望なるを報ず、乃ち明治二十九年渡米して、布市の附近イーストンに來り、奮て農園の勞働に従ふ、已にして相當の貯蓄を作り、明治三十二年長男萬衛を呼寄せ共に勞働に従事せしめ、明治三十六年二男泰二を呼びて、兄と共に事業を補佐せしめ、其年十二月一旦歸朝して、故國に留る事四ヶ月、翌三十七年四月、妻及び三男修三を携へて、再び渡米し、布市附近グロブスの地、百十英町を買得し、之に葡萄を植付け、他に土地改良會社の地五百英町を受負ひ、盛に葡萄園の經營に従事せり、四男義雄は四十年七月を以て渡米し、父兄と其勞を共にす、四子皆體格強健にして、智慮人に過ぐ、地方の同胞社會、呼で粟屋の子實と稱す、思ふにサンオーキン平原に於ける粟屋家の事業刮目して見るに足るものあらむ。

△竹本久米太郎 廣島縣安佐郡川内村字温井の産にして、明治十四年生る、明治三十一年渡米して、桑港に上陸し、フレスノ、キングシチー、ワツソンビル、ベンチユラ等の地に勞働したるが、

當時勞働口頗ぶる乏しく、一般勞働者の困難名狀すべからざるものあり、殊に彼はフレスノの炎暑に冒されて、激烈なる病症に罹り、其境遇最も慘憺を極む、已にして明治三十六年フワラーの地に入りて、勞働する事一年、後ち葡萄園を契約して之に勞働者を入れ、またサルタナ、及びホルサ等の農園に入りて、熱心に勞働する事三年、漸く貯蓄する所あり、此に於て明治三十八年フレスノに來り、兄惠吉と共にグロブスに於て、四十英町の地を買ひ、之れに葡萄を植付け、多年の愁眉漸く開かんとしたるが、明治三十九年十一月二十九日、兄惠吉は車より墜ちて重傷を負ひ、日ならずして死去す、是より先き明治三十六年、彼は其父の訃音に接し、翌三十七年彼の弟は日露の戦役に殘る、彼の悲嘆察するに餘りありと云ふべし、然れども彼れ命運を諦悟して曰く、父已に死し、兄弟また逝く、一身よく我家運を支持し、業を遂げ、資産を興して、以て地下の亡靈を慰さめずんばあるべからずと、爾後朝に星を戴ひて馬を御し、夕に月を踏んで鍬を振ひ百難千障を排して、現時四十英町の葡萄園を經營す、皇天また彼の志を感み、今やグロブスの地、一個の地主として、其事業の基礎を鞏固にし、其資産漸く豊ならむとす、嗚呼誰か彼の爲に他日の成功を祈らざらむや。

△迫本兄弟 兄を迫本勘藏と云ひ、弟を仁藏と云ふ、廣島縣安佐郡福木村字馬木の産にして、兄勘藏は明治四年生る、明治二十六年渡米して各地の農園に勞働し、此間星霜を閱する事七年、貯

蓄する事少からず、乃ち明治三十三年一旦歸朝し、故國に留る事年餘、明治三十五年再び渡米して直ちにフレズノに來り、グローブスの地に入り、翌三十六年葡萄酒二十英町を買ひ、家屋を建築し一家團樂の家庭を作りて、此地に於ける完全なる獨立農家たり、弟仁藏は明治三十年渡米し兄と共に勤勉なる農園労働者なりしが、始め米國に留る事四年、各地の労働にて貯蓄する所を少なからず明治三十五年歸國して、其翌三十六年再び渡米し、グローブスの地に兄弟各二十英町の葡萄酒を買ひて、兄弟境界を接し、家屋を並べ、朝夕相訪ひ以て其家業に奮勵す、また農界の一美事に非ずや。

△高田寅三郎 廣島縣安佐郡長束村の産にして、明治十二年生る、明治三十二年渡米して桑港に上陸し、直に中央加州のイーストン及び、オリヤンダーに於ける、白人の農園に入りて労働に従事し斯くて明治三十七年及び其翌年、葡萄の收穫を買ひて、利益を得たる事少からず、乃ち四千五百弗を投じて、グローブスの地二十英町の葡萄酒を購入し、之を經營して今日に至れり、明治四十二年妻を迎へて、一子を擧ぐ、現時彼れの園地七千弗を償すと云ふ、弟彦一は、渡米して現時ダイニユーバに於て、農園を經營し其事業また見るべきものあり。

△岡野玉治郎 廣島縣安佐郡緑井村の産にして、明治五年生る、明治二十六年渡米して直にフレズノに來り、葡萄酒に労働する事暫時、明治二十九年ネバダ州に入り、鐵道工事に労働し、後ち

再び布市に歸るや、カーネーの農園を契約して、之に労働者を入れ、爾後諸所の農園を契約して、利益を得る事少からず、明治三十六年一旦歸朝し、同年再び渡米して、またフレズノに來り、フルスの農園一セクションを契約して、六十人内外の労働者を使用し、布市附近に於て、有力なる受負業者として知らる、明治三十九年高田逸治と共同にて、一英町五拾弗を以て、六十英町の土地を購入し、使用の馬四頭を有し、盛に葡萄酒の經營に従事せり、現時其所有地一英町百五十弗以上を償すと云ふ。

△河戸治助 サンオーキン平原中、最も完全なる人格を有し、而も信用の勢力あること吉木光之進に及ぶものならず、而して吉木の背後また河戸治助の存在する事を認めざるべからず、彼等二人の關係は、恰も櫻府安藝商會に於ける桑本東歸の關係に似たるものあり、彼等は從兄弟の關係にして肉身の兄弟よりも親密の情を有し、協同一致の精神を以て終始其事業に當り、曾て其間に疑念を挾まず、河戸は山口縣熊毛郡大野村の産にして、明治六年生る、二十六年從兄吉木と共に渡米し、爾後二人常に其目的を一にし、屢々艱難に遭遇するも曾て渝りたる事ならず、其伐木に従事し、農園に労働し、市街に營業するや、恰も影の形に伴ふが如く、吉木の苦境にあるや、彼れもまた其辛苦を共にし、吉木の志を得るや、彼れもまた其成功の一半を荷ふの名譽を有するなり、現時彼等は、布市マリボサ街にローヤルカフェといへる洋食店を經營し、市の附近ウ

エストパークに於て三百二十英町の地に、葡萄と果樹を栽培し、養豚と搾乳業を經營す、而して彼等二人の内、吉木は市街の營業を擔任し、河戸は農園の事業に當り、吉木の供給會社を經理し、洋食店を經營して着々其利益を擧ぐると共に、河戸はツイングスの農場、幾多の勞働者を指揮し、馬を驅り、車を馳せ、家畜を飼ひ播種耕耘に匪懈して怠る所あらず、彼れ初めの妻、海外に同棲する事八年なりしが、不幸病に罹りて黄泉の客となり、明治四十年更に妻を娶りて其間に一子を擧ぐ現時洋食店及び農園より得る所の利益年々多額に上り、サンオーキン平原中、最も純潔の成功者たり、由來米國に於ける成功の裏面には、常に多少の不潔と多少の怨恨とを、伴はざるは稀なり、彼等は黄金の數に於て、或はより大なる成功者たるべし、然れども、其經路の正當にして而かも其信用の益す堅きもの、吉木河戸に優るもの果して幾人ぞや。

△平川初太郎 廣島縣安佐郡福木村の産にして、明治四年十月生る、明治二十五年タコマに上陸し、ポートルランド地方に於て、鐵道の勞働に従事する事二年、其後加州フレスノに來り、葡萄園に勞働する事一年、明治二十八年一旦歸國し、三十三年三月再び渡米して布市に來り、更に葡萄園の契約及び收穫の買収を爲して、年々利を得る事少からず、已にしてエル、グレンの園地二百英町を契約し、之を管理する事五ヶ年、配下に五十名乃至百四十名の勞働者を使用し、頗ぶる園主の信用を得、後明治三十六年、一英町四拾五弗にてポールの地四十五英町を買ひ、四十

年また五千參百弗を以て、他に三十五英町の土地を買得し、兩地の價格現時貳萬千弗を價し、家屋、納屋、貯水池等に支出したる金額四千五百弗と稱す、兄弟五人の中、四弟四一は米國に於て死去し、末弟繁太郎は南米ペルーにあり、次弟政吉、三弟三藏、五弟九一皆加州に在りて、各地に奮闘す、明治四十一年長男一雄の生るゝや、其命名式に列したる來賓三百名、當時白人の新聞は、彼の賓客中八十名の白人ありたるを賞揚し、之れ日米兩國間平和の一現象に非ずやと云へり、以て其地に於ける、彼の名望を知るに足らむ、彼れ資性温厚、公共の精神に富み、曾て郷里の寺に、七百圓を費して經藏を建設し、布市佛教青年會に會堂を建築するに際しては、一個人にして一の梵鐘を寄附したることあり、現に布市勸業銀行の重役にして、布市佛教青年會の常議員たり。

△中島石井兄弟 兄を中島忠次郎と稱し、弟を石井耕四郎と云ふ、中島は香川縣三豊郡豊田村の産にして明治三年生る、曾て三豊郡辻村三等郵便局長たり、明治三十六年六月渡米して、フレスノに來り、農園に勞働して葡萄栽培の經驗を得、ポールの地百英町を買得し、實弟石井耕四郎は、曾て第三高等學校の農科を卒業し、後一年志願兵として、陸軍少尉に任ぜらる、日露戰爭の開始せらるゝや、旅順攻圍軍に加はり、戦功に依り、正八位勳六等に叙せらる、已にして明治三十九年十月、渡米して布市に來り、兄中島と共に現時の農園を經營し、自ら鋤犁を執て炎暑

の地に奮闘す、其素養と人格に於て、ポールズ同胞社會に重を措かる。

△中川久太郎、同政一 共に廣島縣安藝郡温品村の産にして、明治八年生る、明治二十九年布哇に渡航し、砂糖製糖所に入り、シチームボーイとして労働する事九ヶ年、日給壹弗五拾仙を給せられ、勤勉一日の如く、聞くもの其精勵に驚かざるはなし、後ち米國に來り布市の近傍、オリヤンドの農園に労働する事半年、漸く其地方農園の事情を明かにする事を得、乃ち明治三十八年ポールズに至り、同政一と共に一英町五拾弗の土地、四十英町及び他に一英町五拾九弗の土地四十英町を求む、之れポールズに於ける、同胞土地買収の嚆矢にして、彼れ此地に葡萄及び桃を植付け、土地購入後收穫のあらざる間、諸所の農園に労働して、以て現時の基礎を爲すに至れり、妻とよ子は曾て彼れと其艱難を共にし、米國に來りて以來夫婦の間三子を擧げたるも、不幸にして彼女は最愛の子を遺して死去す、彼れの植付けたる葡萄は已に四年を経過し、收穫の期に達し、年々の收入、以て彼が多年の辛苦に酬ゆべきの時に當り、此不幸事あり彼れ豈斷腸の思ひなからむや、同政一は彼れと同村の産にして、明治十五年十二月生る、明治三十二年五月布哇に來り、居る事三年、砂糖耕地に労働して貯蓄を作り、三十五年渡米して、布市附近の農園に労働する事七年、叔父久太郎の土地を購入するに方り、其共同者となりて之が經營を爲し、孜孜として日夜の労働に努む、彼等二人は今やポールズ農家の成功者と稱せらる。

△岡田喜太郎 始め廣島縣安藝郡戸坂村に生れ、現時廣島市段原に籍を有す、明治七年十一月生る、幼にして辛酸を嘗む、明治三十五年渡米してタコマに上陸し、伴新三郎、田中忠七の配下に屬して、鐵道に働く事一年、其れより加州サンジョセに來り、學僕として英語を學びたりしが、其後腦病を患ひて學を廢し、明治二十七年九月布市に來りて、葡萄の摘採に従事し、其れより羅府及びアリゾナの地方に轉々して、種々の労働に従事し、屢々窮境に接す、已にして明治三十三年フワラーの地に入り、山口縣人村木千代一と共同して、一の食料品販賣店を開業し、之を山陽商店と稱す、是れ該地に於ける日本人市街營業者の嚆矢にして、當時未だ一軒の日本人住家あらざりしと云ふ、彼れ此營業を維持する事八年、此間或は白人の農園を契約し、或は葡萄及び桃の苗木類を仕立て、年々葡萄及び桃の仲買を爲し、利を得たる事少からず、明治四十年十一月、ポールズに於て、八十英町の地を購入し、之に葡萄を植へ、翌四十一年十一月商店を他に譲り、四十二年の春、所有地内に家屋を建築して永住の計を定む、彼の所有地は、始め一英町五拾弗なりしが現時百五拾弗を價し、揚水器械及び家屋の建築等に費したる金額、貳千參百弗に上れり、またポールズに於ける農家の大なるものなり。

△中田重太郎 廣島縣安藝郡中山村の産にして、明治十年生る、明治三十三年三月渡米し、アリゾナ州に入りて、鐵道に働く事六ヶ月、其後、布市に來りて葡萄の摘採に従事し、其後オリヤン

ドの白人農家に入りて、勞働する事二年六月、貯蓄する所少なからず、明治三十六年歸國して翌三十七年再び渡米し、更にオリヤンドの舊主家に歸りて、勞働する事暫時、其後の農園に入りて葡萄酒を契約し、千參百弗の利益を得、之を以て土地貳千英町を買ひ、其他に現金借地及び葡萄酒の仲買等を爲して、利を得る事少からず、明治四十年所有地二十英町は、參千五百弗を以て之を他に賣却し、其差額貳千弗の利益を得、同時に五千五百弗にて他に二十英町の土地を買入れ、後また此地を賣却して、賣買の差額參千貳百弗を得、其他彼れの土地買賣に依りて得たる利益、數千弗に上り、現に彼れの所有する土地四十英町あり、其價格壹萬弗と稱す、彼れ現時の資産を作るに至りたるもの、主として巧妙なる土地賣買策に依りたるもの、如し、隣人之を續名して大開中田と稱す、是れ彼れの爲す所往々人の意表に出で、よく奇利を博するを以てなり。

△筒井兼吉 廣島縣廣島市の産にして、明治八年二月二日生る、曾て彼れ軍籍に在り、北清事變の際從軍し、戰功に依り勳七等に叙せられ、青色桐葉章を下賜せらる、明治三十七年渡米し、翌三十八年日露の戰爭に應じて歸國し、奉天及び昌圖に轉戦し、已にして兩國の媾和成るや、尙ほ彼地に駐屯し、四十年一月一日を以て凱旋す、功に依て一時賜金貳百五十拾圓を下賜せらる、此年二月二十日再び渡米して、バンクローバに上陸し、フランスに來りて農園に勞働する事一年、已にしてポールの地に於て、空地六十英町を買ひ、之に葡萄、桃、へー等を植

へ、家屋を建築し、十二馬力の揚水器械を設置し、熱心に園地の經營に従事す、彼れの所有地は地味最も作物に適し、現時一英町の價百八拾餘弗を値す、葡萄酒の傍ら年々葡萄酒の仲買を爲し、また乳牛七頭を購ひて、牛乳搾取業を營み、是が爲に得る所の利益、また少からず。

△叶谷兄弟 廣島縣安佐郡中原村の産にして、兄を馬吉と云ひ、弟を九一と稱す、其次を佐一と云ふ、兄馬吉は明治三十一年渡米して、ポートランドに上陸し、北太平洋鐵道に勞働する事六月、後ちロースアンゼルスより、アリゾナ州に入り、鐵道に働く事また四年、已にして明治三十八年一旦歸朝し、翌三十九年再渡米して砂市に上陸し、また鐵道に働く事一年半、翌年四月中央加州セルマに至り、葡萄酒を契約して之を管理する事二年、四十二年十二月に至りポールの地一英町百貳拾五弗を以て、八十英町を買ひて之に葡萄を作り、此地方に於ける永住的農家たるに至れり弟九一は兄馬吉と勞働の方針を異にし、専ら家内の勞働に従事して、南加州羅府に留る事多年、兄馬吉土地を買得るに際し之に加はり、末弟佐一は明治三十七年渡米して、諸所に勞働しつゝあり、兄弟心を一にして北米の野に健闘す、其事業の將來見るべきものあるや、疑を容れず。

△横見五六 廣島縣安藝郡湯品村の産にして、明治八年三月二十四日生る、明治二十九年布哇に渡航し、砂糖耕地其他の勞働に従事し、明治三十七年七月桑港に上陸するや、布市に來りて葡萄

園に勞働し、貯蓄する所少からず、乃ち明治三十九年フワラーに於て、二十英町の現金借地を爲し、之に葡萄及び桃を作りて、一ケ年千五百弗の利益を得、後ちボールの地一英町七拾壹弗にて四十英町を求め、其弟横見三八は明治三十三年渡米し、鐵道及び農園に勞働して、兄の事業を助る事少からず、現時所有葡萄園の價一英町百八拾弗を價し、兄弟の事業まことに、其基礎を作したりと云ふ可し。

△石瓶兄弟 廣島縣安藝郡温品村の産にして、兄を徳松と云ひ、弟を兼松と云ふ、兄徳松は明治三十三年渡米して、中央加州に來り農園に勞働して、貯蓄する所少からず、弟兼松は明治三十二年布哇に渡航し、砂糖耕地に勞働して一ケ所に留る事七ケ年、以て其勤勉力の他に勝れたるを知るべし、三十九年桑港に上陸するや、またサクラメント及びフレソノ地方の、農園に勞働し、遂に明治四十一年一月、兄弟共同してボールの地四十英町を求め、之に葡萄及び桃を植付けて已に三年を経過し、今後年々の收穫少からざるべし、始め一英町六拾五弗の地、今や植付地として優に三倍の價値を有す

△二宮音市 廣島縣安藝郡温品村の産にして、明治十四年生る、明治三十四年十一月渡米し、桑港を経てサクラメントに到り、諸所の農園に勞働し、其れより布市に來りて葡萄園に勞働する事多年、貯蓄する所少からず、乃ち明治四十年二月ボールに於て、木下健一と共同して、一英町

參拾五弗にて、四十英町の地を買ひ、之れに葡萄及び桃を植付けたるに、其費用五千弗以上に達したりと云ふ、また健全なる農家の一に數へらる。

△熊崎三代吉 廣島縣安藝郡奥海田村字砂走の産にして、明治十三年二月生る、明治三十二年渡米して砂市に上陸し、ポートランドに出で、アリゾナ州に入りて、鐵道働きに從事する事半年、後ち布市に來りて勤勉資産を作り、一英町四拾弗にて、ボールの地二十英町を買ひ、之に葡萄及び桃を植付け、以て永住の基礎を作るに至れり、現時其所有地一英町百七拾五弗を價すと云ふ。

△岡田賢一 廣島縣佐伯郡井口村字阿瀬波の産にして、明治十一年生る、明治二十九年九月渡米して、北加州ビュート郡ビグスの農園に勞働する事一年、後ち桑港に出で、學僕となり小學校に通學し、更に布市に來り、オリヤンドに於て小學全科を卒業するを得たり、已にして農園を契約し、傍ら果物及葡萄の仲買を爲して、屢々巨利を得、明治三十三年の如きは、正に六千弗の利益を得たり、乃ちフワラーに於て、土地四十英町を買ひ、之に葡萄を植へ、翌三十四年フワラー停車場の附近に宅地を買ひ、家を建築し商店及び旅館を開業したり、明治三十五年バイセリヤに其支店を設く、已にして明治三十六年失火の爲に、商店及旅館を燒失し其損害、壹萬五千弗に上れり、幸にして火災保險金九千弗を得、更に土地家屋を買ひて、其營業を持続し、營業盛ならむとするや、明治三十九年四月六日、近隣の白人旅館、また火を失して其類焼に罹り、全家燒失し

て、而かも火災保険は其契約期限を經過し、損失實に貳萬貳千弗に達したりと云ふ、然れども彼れは之が爲に毫も屈せず、翌四十年更らに壹萬八千弗を投じて、一大煉瓦家屋を建築す、之れ現時の隅田商店にして、幅五十呎、奥行百呎あり、敷地四ロットを占有して、布市以南日本人建築物の最大なるものと稱せらる、商店は一のデパートメント式とし、食料品、衣類、雜貨、悉く備はらざるなく、一ヶ年の賣上高六萬弗と稱し、バイセリヤ支店の規模また大にして、商品の仕入高貳萬參千弗に上れり、現時彼の資産は葡萄酒四十英町の外、屋敷地の所有十五ロットにして其價格壹萬參百餘弗なり、明治四十二年資本金七千弗を投じて、葡萄酒醸造場を設け、ブランドーは一日よく千ギヤロンを製し、葡萄酒は更に多量を製出し得べし、明治四十二年度の醸造高三萬ギヤロンにして、價格壹萬弗に當れり、二弟あり、次弟嘉一はバイセリヤの支店を經營し、三弟憲一はハンホードに於て、盛大なる自轉車店を經營す、サンオーキン平原中、一二の大商店にして、其商畧に富み事務に敏活なる事、加州日本人商家中の第一流に屬せん。

△竹内源太郎 廣島縣佐伯郡水内村の産にして、明治五年生る、曾て材木商たり、明治三十二年布哇に渡航し、白人の商店に勤務して、其支配人たる事五ヶ年、明治三十六年六月桑港に轉航し留る事三ヶ月にして、後ち布市の附近フワラーの地に来り、布哇に於て貯蓄せし資本を以て、宅地四ロットを買ひ、之に家屋を新築して、食料品及雜貨店を開業し、旅館を兼業して、營業日

日繁昌し、明治四十二年二月、橋岡俊一を共同者として、從來の業務を擴張し、名をエー、ピ、シー商會と改稱し、盛に營業に従事す、現時商店の賣上高、毎年平均參萬五千弗以上四萬弗内外と云ふ、傍ら借地農作及び果物收穫の賣買を爲して、年々利益を得る事少からず、フワラーに於て隅田商店に次げる、大商店として其名を知らる。

△田上仁一郎 熊本縣上益城郡甲佐町の産にして、明治十年一月生る、明治三十二年十一月、グイクトリヤに上陸し、バンクーバーに於て造船所及び鋸採に従事し、明治三十四年九月、ワイオミング州の鑛山に入りたるも、利益を得る事能はず、此に於て明治三十五年一月、加州バカビルに至り、農園に勞働する事二ヶ年、漸く六百五拾弗の貯蓄を爲し、明治三十七年九月、フレスノに來りセルマの地にて、アイスクリーム店を營業する事二ヶ年、優に七百弗の貯蓄を作す事を得たり、乃ち明治四十年三月之を他に譲りたり、四十二年二月富永又喜と共同して、一英町百拾弗にて、四十英町の地を買ひ内三十英町に桃を植へ、他の十英町に牧畜及び家鴨を飼養し、他に二十英町を借地して之を開拓し、盛に農業に従事す、富永は熊本縣上益城郡六嘉村の産にして、慶應元年生る、明治二十八年グイクトリヤに上陸し、ポートランド附近に於て、鐵道働からに従事する事五ヶ年、後ちサクラメント地方の、農園に働く事三ヶ年、後ちフレスノに來り葡萄酒に勞働し、また日本人の商店に勤務し二ヶ年の歳月を經過し、漸く貯蓄を作して現時の共同事業を經營

するに至れり。

△小田喜三郎、二宮晋松 小田は廣島縣山縣郡加計町の産にして、明治三年四月生る、明治三十二年ツイクトリヤに上陸し、鮭採及び鐵道働等に従事し、後ち砂市に至りてまた鐵道に働く事一年、其後桑港を経てサクラメントに至り、更に布市に來りて葡萄酒に勞働し、貯蓄する所少からず、乃ち同縣人二宮晋松と共に、フワラーに於て、一英町五拾弗を以て四十英町を買ひ、更にまたポールズに於て、三人共同にて四十英町の地を求め、之に葡萄酒及び桃を植付け、家屋及び納屋を建築し、フワラーに於ける日本人土地所有農家の最大なるものと稱せらる、二宮は廣島縣高田郡三田村の産にして、明治五年生る、明治三十一年渡米してタコマに上陸し、鐵道に働く事半年、此鐵道働に於て彼は、四十人の組長として帳簿掛を兼ね、後ち砂市に至りて貸室業及び洋食店を經營したる事あり、其後モンタナ州の鐵道に勞働する事一ケ年、配下に八十人の勞働者を管理す、三十五年加州に出で一時サクラメント川下の農園を經營し、其後フランスノに來りて、葡萄酒の摘採に従事し、終に小田喜三郎と共同して、フワラー及びポールズの地を買ひ、之に桃苗を作りて、一本二拾五仙宛にて三萬本を賣却し、七千五百弗の收入を得、また年々白人の大農園を契約して、之に多くの勞働者を入れ、利益を得る事また少からず、小田喜三郎と共に、地方の大農業者たり。

△仁田米藏 サンオーキン平原中、日本人の土地を所有するもの少からず、然れども百英町以上を所有するもの二三名に過ぎずして、仁田米藏また其一名なりとす、彼は山口縣熊毛郡伊保庄村の産にして、明治七年生る、明治二十八年渡米して一時桑港に留まりしが、後ちサクラメント地方に入りて、農業に従事する事五ケ年、三十三年一旦歸朝し故國に在る事一年餘、三十五年再び渡米してフランスノ市に入り、パレヤに百二十英町の地を買ひ、其の九十英町に葡萄酒を植へ二十英町に桃を作り、他を牧場及び住宅地と爲し、葡萄酒は已に植付後五年を経過して充分收穫の年齡に達し、桃もまた是より年々の收穫あるに至れり、園地の灌溉には貳千貳百弗を投じて三十五馬力のギヤスリン器械を据え、農用の馬六頭あり、初め一英町貳拾五弗にて買入れたる地、現下一英町參百弗を値すといへり、現時の彼れは、農園生活に多大の趣味を有し、朝に星を戴いて出で夕に月を踏で歸り、其強壯肥大の體軀を以て、廣大なる農園に健闘す、彼れの才智と膽力とを以てせば米國の農業界は、彼れの爲めにまた好箇の功名場裡たらざらんや、彼れのパレヤに於けるや、先入者として同胞社會に便利を興へたる事少からず、布市の同縣者にして彼に依て便を得たるものまた少からずといへり、パレヤの先達者として知られたる故久保田壽郎は乃ち彼れの義弟にして、パレヤ日本人社會今日の發達を爲せるもの、彼等二人の誘導與て力あり、曾て羅府新報中央加州の十傑を投票するや、彼れまた其一人に當撰す、以て其勢力を知るべし。

△川手源市 廣島縣高田郡高原村の産にして、明治八年四月生る、二十九年布哇に渡航し、白人の貸馬車屋に労働せしが、後ち養豚及び養蜂の事業を爲して相當の利益を得、乃ち明治三十三年一旦歸朝し、故國に留まる事兩年、已にして三十六年五月渡米して砂市に上陸し、其れより桑港を経てサクラメント及びフレズノに入り、農園に労働して貯蓄を爲し、更らにフレズノ市附近の葡萄園を契約して其耕作に従事する事三年、此間弟武一米一の二人また渡米して其労働を共にし、貯蓄貳千餘弗に達したるを以て、兄弟共同してパレヤに四十英町の土地を求め、之に葡萄及び桃を植え、地代は已に全部の拂込を爲して、また此地方に於ける堅實なる農家たり、兄弟みな品行正直、業務に勉勵す、パレヤに於ける川手兄弟の將來應に、刮目して視るべき也。

△西本和助 パレヤの元老に久保田壽郎なるものありき、彼は廣島縣の産にして、夙に米國に來り種々の艱難を経て加州の事情に通じ、後ちパレヤに入りて、同胞社會の發達に力を盡したる事少からず、不幸にして明治四十三年彼れ病を以て逝く、聞くもの同情の涙を灑がざるはなし、而して久保田と事業を共にし、終始其友情を全ふせるものを西本和助と爲す、彼は山口縣大島郡安下庄村の産にして、明治六年十月生る、二十六年渡米して英領加奈陀バンクーバーに上陸し、其後サクラメント、ワツソンビル、フレズノ等の農園に労働して種々の艱難を嘗め、經驗を積む事少からず、後ち久保田と相知るに及び、相提携して事業を共にし、旅館及び商店を開きて盛に

營業に従事し、傍ら二百八十英町の地を借りて葡萄及び果樹を植へ、パレヤに於ける同胞の事業家として知らる、後ち久保田の病を得て久しく樂師に伴ふや、費用の支出また少からざりしも彼れ終始之を慰藉して友情また到らざる所なかりしといふ、已にして久保田の逝くや、其事業を繼續して以て現時に至れり。

△中村萬槌 在米の同胞社會、無文の傑物少からず、彼等は星と重どにさほどの趣味を有せざるなり、彼等は戀愛哲學を講せざるなり、然れども世路の難關に遭遇して、意氣愈よ奮ひ、徒手壯圖を畫して、乾坤一抛の活躍を試むるもの、滔々皆是れなり、若し夫れ内地の文弱を以て、海外奮闘の意氣に比ぶれば、其差霄壤も管ならず、中村萬槌の如き、また一種の奇男子と云はざるべからず、彼は山口縣熊毛郡平生町の産にして、明治十年生る、明治三十年森岡移民會社の手に屬して布哇に渡航したるが、間もなく監督者の横暴を憤りて争論の結果獄に投せられ、後ち無罪の宣告を受けたるも、訴訟入費貳百弗を負担したるが爲めに不意の負債を作りたるなり、彼れ是に於て、労働の傍ら、得意廻りの酒屋を始めて營業する事四ヶ年、乃ち負債を償却して更らに千餘弗の貯蓄を爲し得たり、已にして父死去の報に接し、將さに歸國せんとせしが、頓かに悟て曰く、余れ歸るも死者蘇るにあらず、若かず家財を作りて亡父の靈を慰せんにはと、是に於て遽かに布哇を去りて米本土に渡航し、桑港に上陸して櫻府に入り、爾後諸所の農園に労働して得

る所の賃金は之を故國に送りたるが、一日其餘金を以て支那賭博を爲し失敗して囊中また白銅一個を残さず、乃ち親友に就て一回の食費を借らむとするも之を顧みる事なし、爰に於て彼れ食を絶つ事二十四時間、偶々同縣人吉木光之進之を聞きて自己の洋食店に働かしむ、彼れ吉木の義侠に感激し、爾後改悛して、足戸外を出でざる事六ヶ月、乃ち百五拾弗の貯蓄を爲す事を得たり、是に於て之を故國に送り、弟惣十郎を呼寄せて、兄弟共に白人の植木屋に労働する事三年餘、遂に貳千弗の貯蓄を爲し、乃ち同縣人岡村七五郎、大中貞五郎、及び弟惣十郎を加へ、リードレーの土地四十英町を求め、之に葡萄及び桃を栽培し、植付後已に四年を経て、其收穫の成績、他に見ざるの好結果を示せり、彼は此外に於て、同縣人岩崎喜三郎、大中貞五郎と共同して、四十英町の借地に葡萄及び桃苗を培養し、また弟惣十郎は、同縣人福永板穂、吉仲久吉、岡本新吉と共同して四十英町の借地に苗木を培養し、兄弟年々の收穫多額に上り、而かも尙ほ他に六百四十英町の白人農園を受負ひて之に二十餘人の労働者を供給す、彼れ性豪快、物に觸れて感情の猛烈なると共に、意志の強健にして實行の之に伴ふを以て、よく現時の成功を見るに至りたるが如し。

△松尾平六 熊本縣上益城郡甲佐町の産にして、明治九年生る、明治二十四年布哇に渡航し、居る事十三年、此間砂糖黍切の受負契約を爲し、またホルル、に出で、貨馬車屋を營業し、一時業務盛大なりしが、不幸にして其妻病を以て死去し、また火災に罹りて大なる損害を受く、已にし

て明治三十八年、アラスカ行の工夫二百五十人を募り、布哇を發して桑港に上陸し、之を他の人夫受負者に引渡して、自ら桑港に留り、暫く商業に従事せしに不幸にしてまた火災に罹りたり、後ち去てサクラメントに至り、居る事三四個月にして布市に至り、終にデルリイに至り此地に於て宅地を買ひ之に家を建築し、商店、旅館及び玉突場を開業し、また貨馬車屋を兼ぬ、デルリイに於ける最初の日本人營業者にして、其名地方に知らる。

△村上愛吉 廣島縣安藝郡中山村の産にして、明治五年生る、明治三十二年渡米してバンクーバーに上陸し、アイダホ州に入り、鐵道に労働する事四年間、明治三十七年フランスノに來りデルリーの地に入り、一英町貳百五拾弗にて、二十英町の地を買ひ、之を經營する事已に四ヶ年、園内の葡萄、已に八年に達し、桃は十二年を過ぐ、其他無花果、フルーム等また多くの産額ありて年々の收入少からず、デルリイに於ける唯一の土地所有者にして、此地方の成功者と稱せらる。

△升本周治郎、谷川小三郎 升本は廣島縣安佐郡福木村の産にして、明治三十二年渡米し、布市オリヤンドの地に入り、白人の農園に労働する事八ヶ年、後ちサンガーに於て、谷川小三郎と共に同して、四十英町の地を買ひ、現に之を經營し、年々收むる所の利益少からず、谷川は同時同郡山本村の産にして、明治三十二年布哇に渡航し、居る事二年、後ち桑港に轉航して、直に布市オリヤンドの地に入り、農園に労働する事數年、多くの貯蓄を得て、現時の事業を經營するに至れ

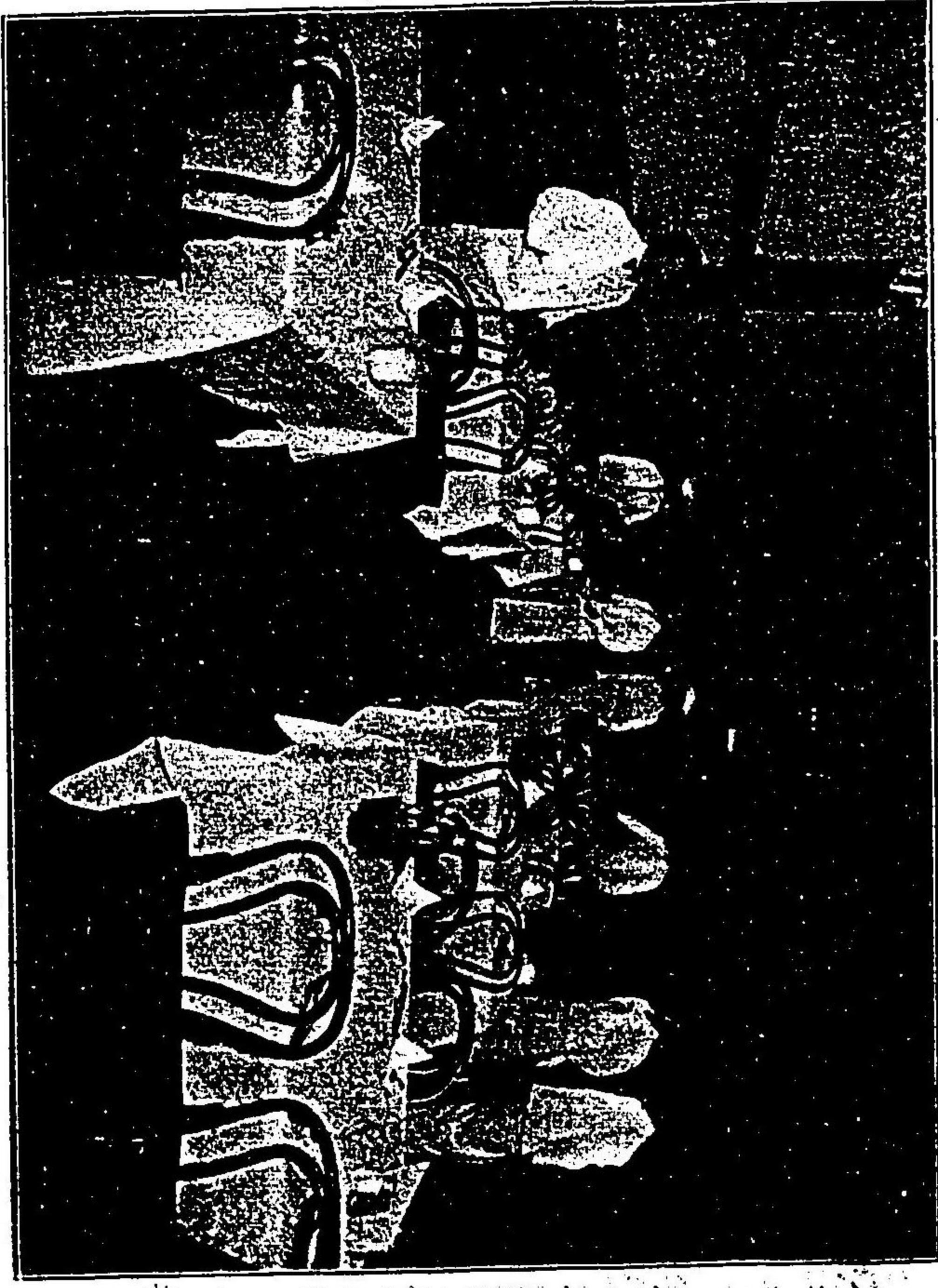
り、彼等二人の勤勉なる事、地方同胞社會の嘆稱する所なり。

第六節 キングス郡日本人發展地の調査

キングス郡は東はツラレ郡に界し、西は僅かにモントレー郡に接し、南はカーン郡に隣り、西は斜めにフレズノ郡と相連れり郡の中央に湖水あり、ツラレ、レーキと稱し、四方の河流を此湖水に集中するを以て、土地膏腴、産物少なからず、キングス郡は初めツラレ郡の一部なりしが千八百九十三年、獨立の一郡を爲すに至り、首府をハンホードと爲し、附近にアモナ及びレモア等の新開地あり、コーコランはツラレ、レーキの邊にありて、甜菜を耕作し、規模大なる製糖會社あり、干葡萄、ワイン葡萄、桃、アップリカット、秣草、等を産す、また牧畜業盛にして、牛乳及び牛酪を産出する事殊に多く、フレズノ郡の牛乳は一日貳萬弗の産出ありと稱せらるゝも、キングス郡の牛乳一日の産額實に六萬弗と稱す、特に本郡より産する豚肉は、其質最も佳美にして他の地方より産出するものに對し、二倍の價額を有す、此地方日本人の最も多きは、ハンホード及びアモナ地方にして、アモナの如きは、郡内最も肥沃の農園を有し、葡萄園及び果樹園の良園少なからず、干葡萄は布市附近の物に劣らざるを産出し、其質また良好なり。

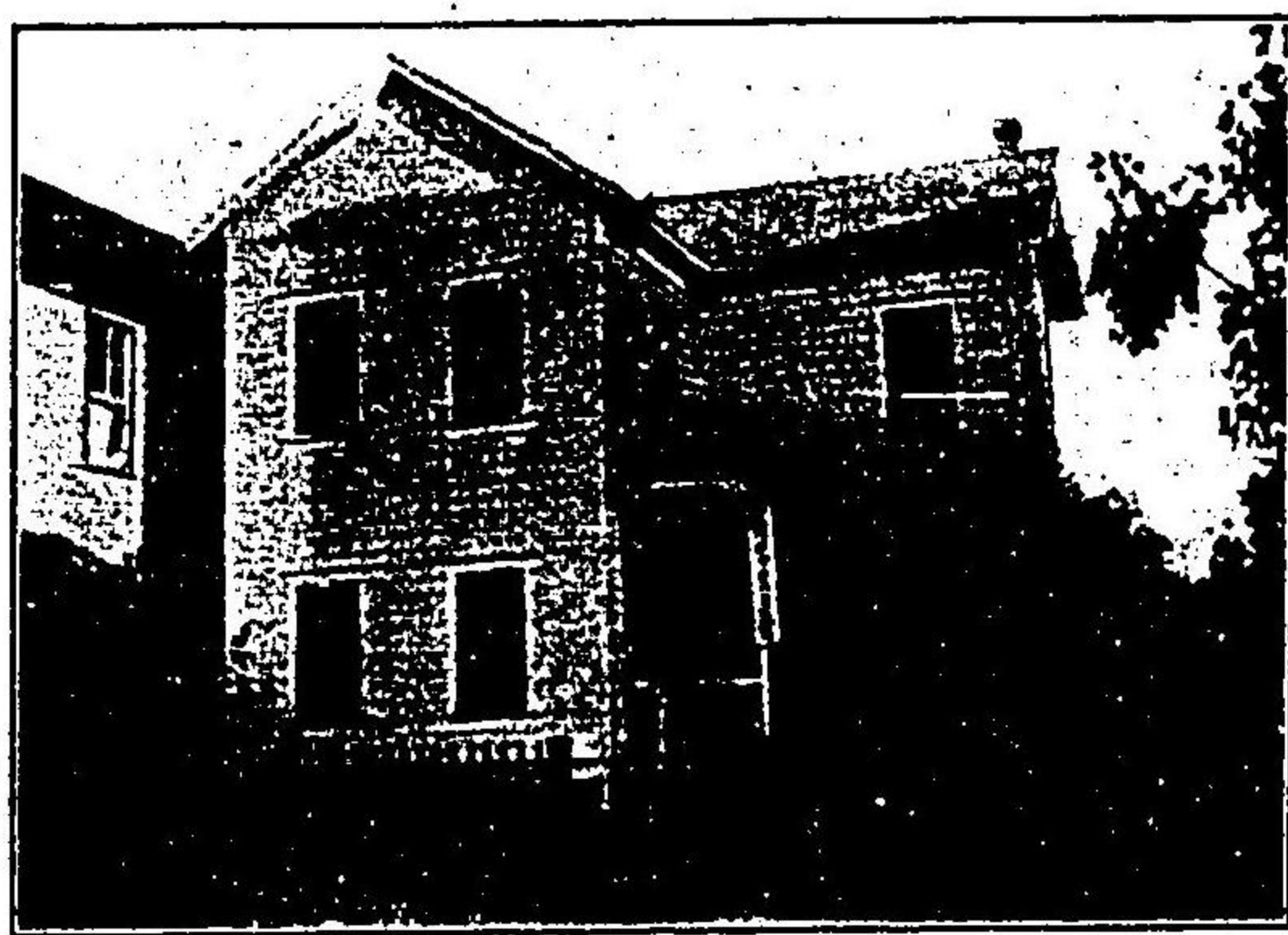
(附) ツラレ湖は十六萬英町の面積ありて、湖水に入る諸流の内、シーラネバダの山中に水源を有す

今坂 非谷 幸伊 次太郎 兄弟 共同 經營



今坂 幸伊 次太郎 兄弟 共同 經營

蔵賢亦大 ドーホンハ郡スグンキ



耶太富本福 人主 館族本福 ドーホンハ

るキングス河は、シーラネバダ山上の雪水を是に融すが故に、積雪の多少に依りて、河水の増減あり、此増減は直に湖水の面積に關係を有し、水量少き時は此地方の農家は、湖邊の地に麥作を爲して、巨額の收穫を爲すと雖も、若し水量多き時は、其作地は湖水の氾濫する所となりて其收穫皆無に歸するの危険あり、湖面の區域に入るべき此等の耕作地は凡そ三萬英町にして平均一ヶ年の收穫は麥四十五袋なりと稱す、播種期は十二月なるを以て、春夏の交出水の多少は此時期に於て之を豫想すべきに非ず、彼等の中、堤防を作りて其氾濫の害を避けむとするものあるも雨量の多きときは、到底堤防を以て湖水の氾濫するを防遏すべきに非ず、従て此區域の麥作事業は、此地方特有の冒險的農作と云ふを得べし、曾て一白人は、三千英町の麥作を試みて、貳拾萬弗の富を作りたる事あり、日本人にして此冒險的事業を試みたるものは、和歌山縣人大亦實藏あり、一年六百英町の麥作を爲して、其悉皆を水に流失せし事あり、彼曾て此湖面に、小區域の米作を試みたるに、其結果良好なりしも、巨額の資本を要するを以て、未だ其目的を達する事を得ずと云へり、湖の西は一帶の連山にして、此地方に望を有する資本家中、此山脈に隧道を作りて、湖水を西方に流出せしめむとする計畫ありと云へば、遠からずして、此湖面は加州に於ける肥沃の農園と化するに至らむ、現時多くの地面は、露西亞人の所有に歸し、彼等は小作者より、毎二十五俵に對し、一俵の加調を收めて之を貸付す、若し夫れ作物の

收穫時に於て、多くの勞働者が、蒸汽機關の刈取器を以て麥の刈取に従事するや、一茫際なきの平地、二三十臺の機關、黒烟を吐きて相往來するの光景、恰も洋上の一大海戦を観るが如し、湖面の中、諸所に泥土の乾燥して表面の地殻を爲し、時々人馬の之を踏破して下層の泥中に陥沈する事なきに非ず、今此地の農作に付て麥作を試みたる農家の實驗に依りて、其事業の收支如何を示さん。

支出

金貳千四百弗 一英町四弗として六百英町に於ける麥種子代及播種勞働賃金
金九千〇〇弗 一英町に付壹弗五拾仙として六百英町に對する刈上其他費用

收入

金參萬六百弗 一袋の價壹弗七拾仙一英町三十袋として六百英町の總收入
差引利益壹萬九千貳百弗 此内一噸壹弗乃至壹弗貳拾五仙の運搬費を含む

此近傍また南加羅府の白人シンジゲートの所有地あり、曾てセゴブスの園地一萬六千英町を賣出したる時は、一英町貳拾五弗の代價に賣拂ひたるが、現時露人の賣出したる土地は凡て五千英町にして、一英町を七拾五弗乃至百貳拾五弗にて賣却せり、而も彼等は土地の騰貴せるが爲に百萬弗以上の利益を得たりと云へり。

ハンホード キングス郡の首都にして、布市の西南八十二哩に位置し、近々三十年以來の發達に屬す、此地方産業の中心にして人口凡そ四千、市街整然として、サンジョークイン平原中市

に次げる都會地たり、日本人の此地に在るものは、家内勞働を主とし、他は市街營業者なりとす、就中、白人向の洋食店最も繁榮せるが如し、明治三十二年和歌山縣人大亦實藏、商店を開き、其後鳥取縣人海野良一、福島雷二郎等、此地方の農園を契約して、之に勞働者を入れたるより、漸次日本人の數を増加するに至り、現時アモナ及びレモア等を合して日本人の在住する者五六百内外に達す、日本人長老教會は明治三十六年、白婦人ミセス、ハーロー、専ら力を日本人の感化事業に盡し、此教會の發達を助けたる所少からず、現時の牧師は青森縣人三浦惣三郎と爲す、ハンホード佛教會は、明治三十四年の創立にして、土地を買ひ、家屋を建築して其基礎を定む、市内の營業者は、商店二、旅館四、洋食店四、玉突場五、料理店二、理髮店二、湯屋二、洗濯業一、時計店一、仕立屋一、醫士一名あり、地方の農業は他に比して頗る幼稚なり、就中稍著しきもの左の如し。

土地所有者

前田島太郎 (廣島縣) 四十英町 果物及麥

大亦 實藏 (和歌山縣) 五ロット 宅地

日本人會は、會員八十名あり、會長に三浦惣三郎を推し、會計に中畔善三郎、福本富太郎を撰舉し、幹事一名、評議員十二名を擧ぐ。

アモナ ハンホードの西四哩の所に小部落あり、支那人及び日本人のみを以て成立せり、附近の地味肥沃にして、葡萄及び果實を産す、地價一英町貳百弗内外にして、果樹園は貳百弗乃至五百弗の間にあり、明治三十四年の頃中前某始めて一の商店を開き、爾後日本人の營業者を見るに至れり、此地に、日の出商店、大洋商會あり、日の出商店は武内留之助の經營せるものにして、大洋商會は、山口縣人山中元治、福島縣人藤田與四郎共同にて之を始め、已にして山中の歸朝せるにより、藤田は之を合資會社として、社長に廣島縣人日和野佐太郎を推す、此二商店の外、日本人の營業者としては旅館二、玉突場三、料理店一、理髮店一、豆腐屋一あり、始め此地の日本人、支那賭博撲滅運動を爲すや、支那人は其所有家屋に在る日本人に向て、立退を請求するにより、日本人社會また斷乎として屈せず、新に土地を買ひ、家屋を建築し、遂に其惡風汚俗に對抗し、反て永住の基礎を作るに至り、現時八棟の新家屋を有し、別に六百弗を投じて日本人集會所を設く、明治三十七年、日本人會を設立し、現時の會長を武内留之助と爲す、土地所有者一名面積八十英町、現金借地農家六、面積百四十五英町あり。

土地所有者

- 日和野佐太郎 (廣島縣) 八〇英町 麥及びアルハルハ
- 大洋商會 四ロツト 宅地

武内留之助

(和歌山縣)

- 四ロツト 宅地

『レモア』アモナの西に隣し、ハンホードを去る事九哩、キングス河畔に位置し、土地の状態畧ぼアモナに同じ、此地未だ日本人の居住する者少し。

土地所有者

- 中村雄次郎 (静岡縣) 四〇英町 桃、葡萄。
- 農園契約者
- 吉原 繁治 (鳥取縣) 三〇英町 葡萄。

キングス郡成業列傳

△武内留之助 和歌山縣那賀郡山崎村の産にして、明治十年二月生る、明治三十二年三月渡米、桑港に上陸し、直にバカビルの地に入り、農園に勞働する事一ヶ年、三十三年オーナツグロープの日本人商店に入りて其店務に従事し同年冬コートランドに到り、和歌山縣人谷口清太郎と共同して、日吉商店を買受け食料雜貨の販賣に従事したるが、明治三十八年火災に罹りて悉皆烏有に歸す、此に於てコートランドを去りて、中央加州に來り、アモナの地に入りて、同縣人長尾榮一と共に日の出商店を經營するに至れり、已にして明治三十九年長尾榮一病の爲めに死去するや、彼

は爾後獨力を以て、此事業を經營するに至り、其業務に精勵なると、能く信用を重んじて、諸方の取引に對したるが爲に、營業日に繁榮して、忽ち資産を作り、其後土地四ロットを求めて、家屋三棟を建築し、地代及び建築費に投じたるもの參千五百弗に達し、傍ら旅館を開業して之を日の出旅館と稱す、また一英町參拾弗を以て、農園百四十英町を現金借地し、之に葡萄を栽培して、使用の馬七頭を有し、平日三十人、收穫多忙の時期に於ては、三百人内外の労働者を使用す、加之彼れ現時の資産を作りたるは主として、果物及葡萄の毛上を買ひて屢々巨利を博したるに因れり、明治四十年の如きは一年の賣買にて七千弗の利益を得、明治四十二年に於ては、果物の價格低落したるに拘はらず、賣買の差にて優に千四百弗の純益を得たりといへり、其最も多額の賣買を爲したるは、明治四十年にして、此年彼の買収したる收穫物は、實に四萬弗の總額に達したりと云へり、以て彼の利益の大なりしを知るに足らむ、日の出商店の賣上高は一ヶ年壹萬五千弗にして、之を彼れの收穫賣買業に比すれば、商店の事業は彼の事業中、寧ろ小なるものと云はざるべからず、彼れ資性純樸、絶へて虚飾を好まず、而も温良にして、よく人に接す、アモナ日本人社會第一の成功者と稱せられ、現に此地日本人會長たり。

△大亦實藏 和歌山縣海草郡直川村の産にして、明治七年生る、明治二十八年桑港に上陸し、留る事五ヶ年、白人の旅館に労働し信用を得て、配下を管理するに至れり、已にして去て、バニン

グ市に至り、某旅館に備はれ其所有の果樹園三百英町の監督を命ぜられ、月給八拾弗を受く、偶偶印度人の傭人過失ありて解備せらる、彼等は自己の解備せられたるを以て、日本人の中傷に出づるものなりとし、激怒して大亦等を撃殺せんとし、附近の土民數百人を集めて、其旅館に襲來す、彼等の中、銃器數挺を携へ、他は皆木槍を手にする、旅館の白人急を大亦に告げ竊に之を逃れしむ、時正に深更、彼れ暗中婦人の衣を纏ひ、微行して停車場に出で、僅に九死の間を脱したるも、途中殆んど飢餓に類し、漸くにして南加州ロースアンゼルスに出で、其れより、リバサイドに到り、オレンジの收穫を買ひて利益を得る事少からず、其後ハンホードに來り食料及雜貨の販賣店を開き大亦商店と稱す、一年白人の葡萄を買ひ之を摘出して利を得んとし、園主の破産したる爲めに七千八百弗の大損失を爲し、明治三十四年、バイセリヤの電氣會社と契約し、日本人労働者を入れたるも、會社との間に紛議ありてまた壹萬弗の失敗を爲すに至れり、然れども彼れ屢々附近農園の果物及び葡萄を買ひて、利を得る事また少からず、現時大亦商店及び其敷地五ロットは彼の所有にして、建築物を合して七千五百弗を投じたるものなり、曾てハンホード日本人會の會長に擧げられ、現にハンホードに於ける古參の成功者とせらる。

△板野伊太郎 岡山縣御津郡白石村の産にして、明治六年二月生る、明治三十五年桑港に上陸し直にハンホードに至り、同縣人近藤源三郎の經營せるスター洋食店に働く事一年、其後布市に到

り、ツラレ街に横濱洋食店を開きて營業失敗に歸し、再びハンホードに歸りて、チャップハウスを経営する事三年、業務に精勵して貯蓄する所少からず、四十一年七月、アーウィン街に露國人の經營せるオペラ洋食店といへるあり、乃ち九百弗を投じて之を譲り受け、更に貳千參百弗の擴張費を投じ、實弟今井幸次郎と共に之を經營して現時に至れり、此洋食店は屋賃毎月六拾弗を支拂ひ、傭人六人を使用し、頗る人氣を博して日々營業上の利益少なからず、彼れの今日の基礎を作るや、創業以來自らコックとなり、皿洗を兼務し、孜孜として倦怠する事なく、人其業務に熱心なるを感ぜざるなし、今や兄弟蓄積する所少からず、ハンホード市七街の屋敷地二ロツトを買ひて家を建築したるが其費用五千弗と稱す、此家は他人に貸付して、毎月の屋賃八拾弗を收む、ハンホード日本人街第一の建築物にして、是れ彼等兄弟辛苦の結果を表象するものたり、オペラ洋食店一ヶ年の收入貳萬弗にして、此他にツラレ郡エキスターに於て山本房楠、岡崎金吾等と共同して土地四百英町を所有す、ハンホードに於ける日本人洋食店は、之を他地方の同業者に比すれば、最も顯著なる成績を有するものにして、就中板野今井兄弟の事業は、殊に一頭地を抜くの成功者と云はざるべからず。

△近藤源三郎 岡山縣御津郡芳田村字泉田の産にして、安政五年正月生る、明治二十一年二月十八日横濱を出帆して布哇に着し、砂糖耕地に勞働する事三年、偶々米國軍艦のコックとして乗

込み、六ヶ月にして桑港に上陸し、コントラコスタ郡の農園に於て、苗木の接木に従事し、宿料食料の外日給貳弗を受け之を繼續する事二年半、其れよりマセドに入り暫く家庭のコックたりしが明治二十九年二月歸朝し、其年八月再び渡米してバイセリヤの農園に働き、三十二年十一月、ハンホードに來りスター洋食店を開業して營業を繼續する事九十八ヶ月、三十四年歸國して故國に留る事二年、三十六年三月、三たび渡米して依然從來の洋食店を經營し、其十二月また歸國して、三十七年四月、四たび渡米し尙其事業を繼續して現時に至れり、ハンホード日本人洋食店最古のものにして、現時借家料毎月四拾五弗を拂ひ、傭人八人を使用し、一食拾五仙の代價として、一年の總收入貳萬弗と稱す、彼の事業に熱心なるや、自らコックとなりて、曾て一日も勞働を廢せず現に四度目の渡航以來、僅に數丁を距てたる日本人街及び支那人街には、未だ曾て一度も足を投するの暇あらずと云ふ、彼の一身は乃ち勞働の權化にして、意志の堅實なる事、恰も百鍊剛鐵の如きものあり、營業繁榮して巨額の資産を積む事豈偶然ならむや。

△福本富太郎 和歌山縣海草郡野崎村の産にして、明治九年生る、明治二十七年渡米し、久しく桑港に留りファイルモア街に雜貨店を經營する事四ヶ年、後ちオロピルに至り、百五十人の勞働者を指揮して鐵道工事に働き、其れよりガードロップに至りて、甜菜園の勞働に従事せるが、後ちロースアンゼルス及びフレソノ地方に在りて、種々の勞働に従事し、明治三十九年ハンホードに

來りて、福本旅館を開業し以て現時に至れり、ハンホード日本人旅館中最も信用を有し現にハンホード日本人會の常議員たり。

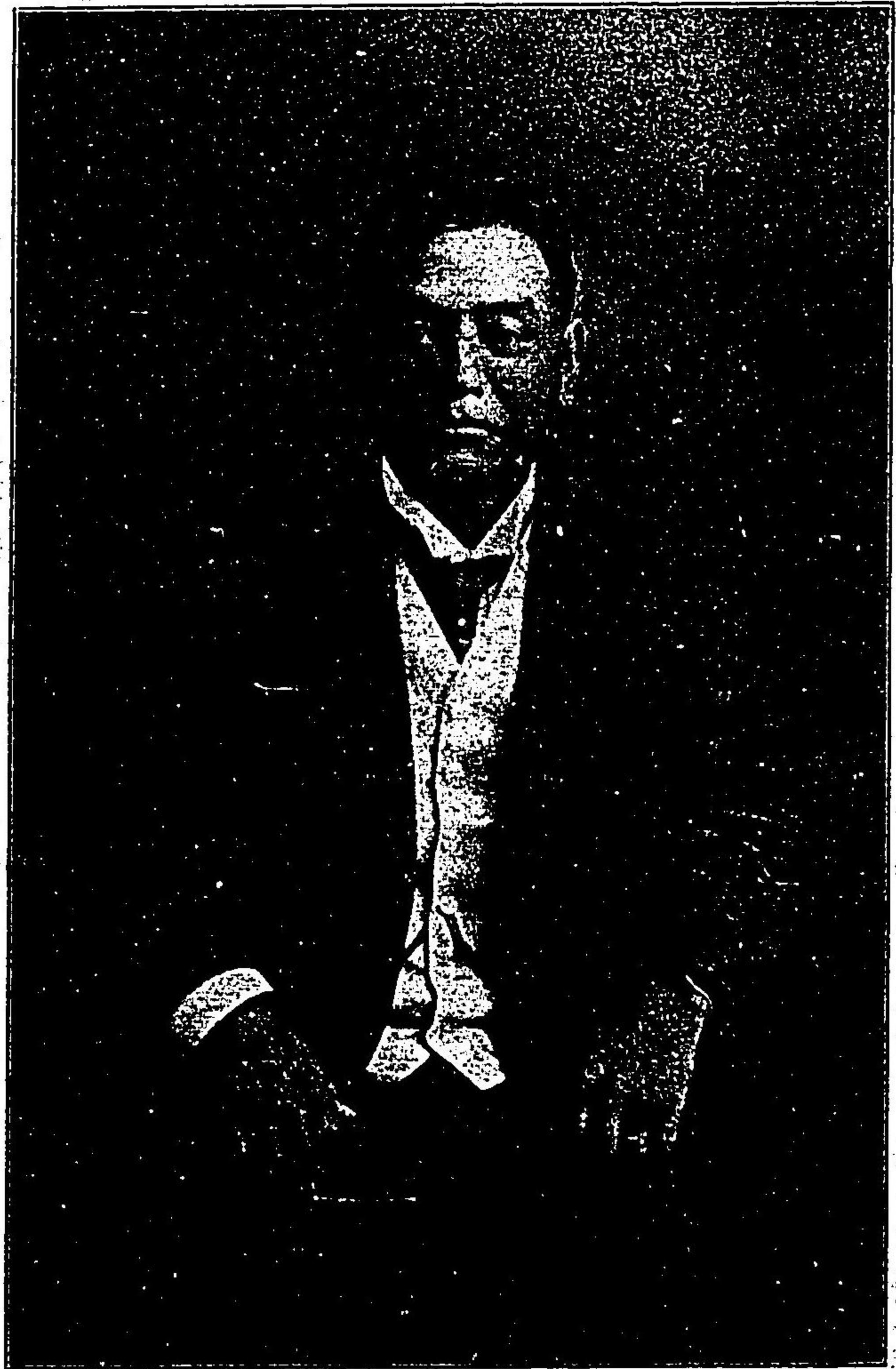
第七節 ツラレ郡日本人發展地の調査

ツラレ郡は東はインヨー郡に界し、西はキングス郡に隣り、南はカーン郡に接し、北はフランスノ郡に連る、近く桃、葡萄等を栽植するもの亦多く、西部の平原地には砂糖大根、麥、等を産出する事多し、フランスノ郡の發達に従ひ、此地方の發達また著しく、日本人の此地に入るもの少からず、野菜、果物の外鑛業、山林、牧畜業盛にして、鑛山よりは、金、鐵、銅、亞鉛を産し、山麓地方には有望なる柑橋類の産地あり。

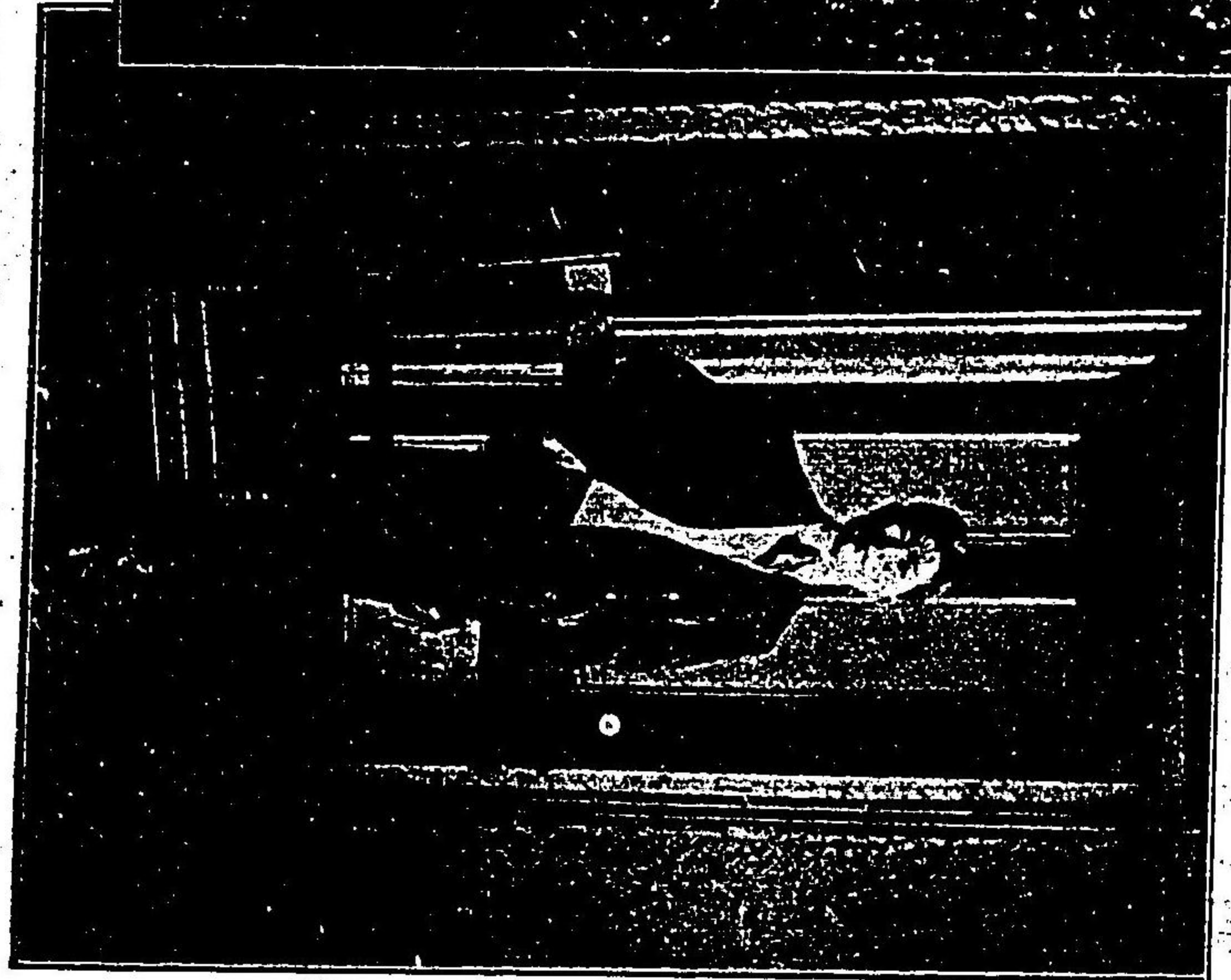
バイセリヤ フランスノの南四十一哩にして、人口三千五百、南太平洋鐵道及びサンタフキー鐵道共に市街を通過し、附近に電氣鐵道の便あり、ツラレ郡の首都にして、蜜柑園多く、中央加州中最も有望なる蜜柑産出地として囑望せらる、葡萄はサンジョークイン平原中、最も早出の地にして食卓葡萄の如きは殊に市場に賞美せらる、此地方日本人の在住者、明治四十年三月の調査にて八百四十五人あり、内農園労働者七百六人、鐵道人夫二十八人、白人家庭労働者十五人、學僱四人、農業經營者二十六人、鑛詰製造會社備人八人、他は市内種々の營業者に屬す、其他正業



圖 ムーネ及び國境の麓地 實木山 ヤラセイバ



植新出星者業園農レフッ



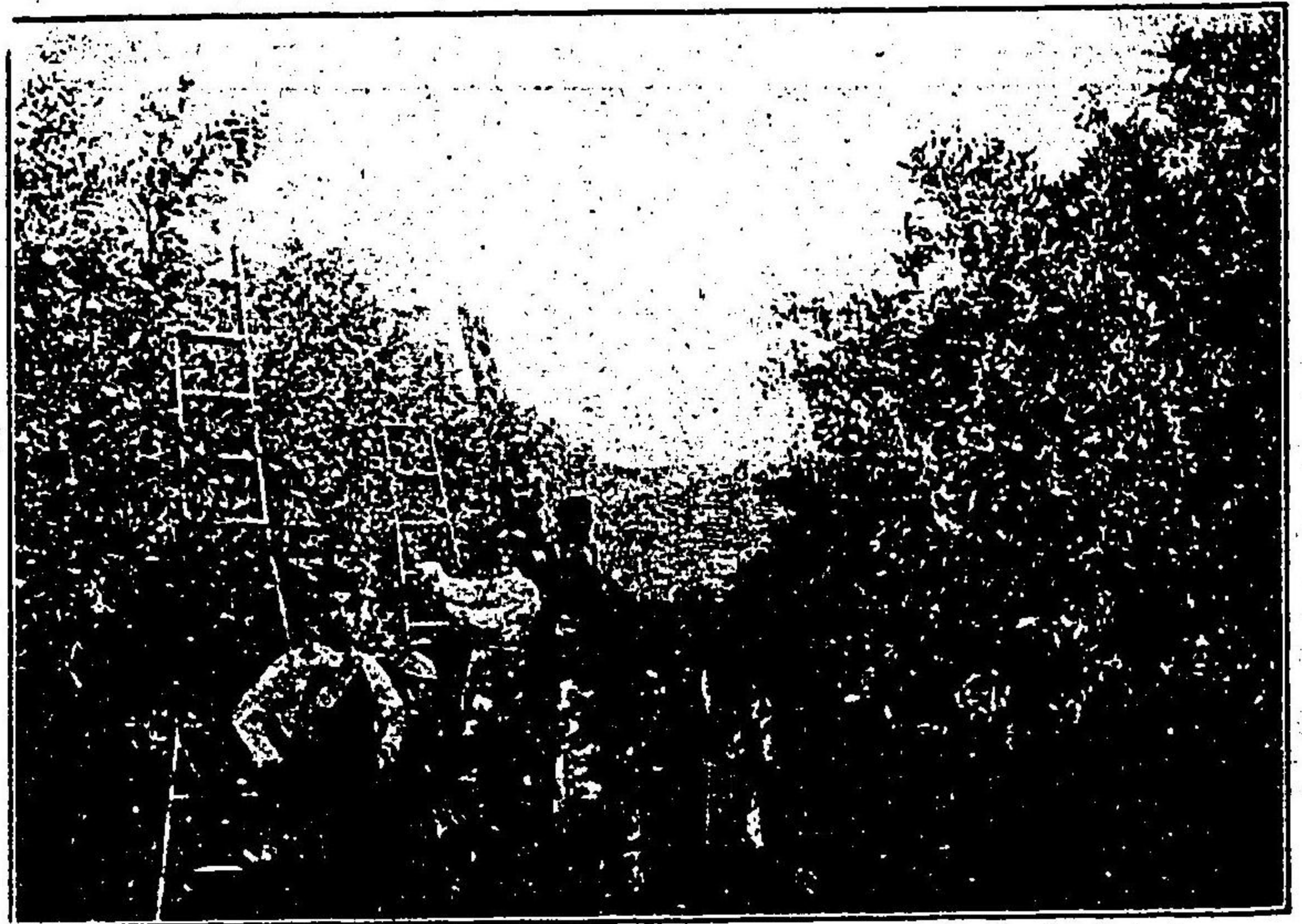
加次幸井今、助之熊本山、吉政木大、吾金崎岡、捕房木山、一タスキエ郡レラッ
吾金崎岡、人即支せ園、一ルノの時花内の町英十二百三捕有所同共

耶次勸浦松 人主と會商東日 パーユニイダ



場燥乾物果と耶次岩上田 者營標園樹果 クーオトンアイヤジ郡レラフ

園柑蜜の約契治豐橋高 チンランマルメ近附ヤリセイバ



蜜柑摘採の光景



場突玉の營經耶次高村藤 ヤリセイバ